

平成26年度

教育に関する事務の管理および執行の状況

の点検および評価等の報告書

平成27年12月

米 原 市 教 育 委 員 会

## 目 次

1. 点検および評価制度の概要	
(1) 背景	1
(2) 目的	1
(3) 対象事業の考え方	1
(4) 評価の方法	1
(5) 学識経験者の知見の活用	2
2. 教育委員会の活動状況	
(1) 教育委員	3
(2) 教育委員会の活動状況	3
(ア) 教育委員会議の開催および議決状況	3
(イ) 教育委員会委員協議会の設置および開催状況	3
(ウ) その他の活動状況	4
(エ) 委員の就任状況	4
3. 学識経験者による意見	
(1) 趣旨	5
(2) 学識経験者	5
(3) 米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会	5
(4) 学識経験者による意見	7
4. 事務の管理および執行状況の点検および評価等	
(1) 平成 26 年度重点目標の達成状況	11
(2) 施策の体系と事務事業一覧	14
(3) 点検および評価等の結果	16
対象事業の評価一覧	17
各事業の点検および評価等	
教育総務課所管事業	19
学校給食課所管事業	27
学校教育課所管事業	31
生涯学習課所管事業	39
歴史文化財保護課所管事業	52
図書館所管事業	55
保育幼稚園課所管事業	56

子育て支援課所管事業	60
こども家庭課所管事業	61
(4) 学校評価	62
幼稚園外部評価	62
小・中学校外部評価	69
(5) 米原市教育振興基本計画（目標指標）	78

## 1. 点検および評価制度の概要

### (1) 背景

平成 18 年 12 月の教育基本法の改正および平成 19 年 3 月の中央教育審議会の答申を踏まえ、平成 19 年 6 月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正され、平成 20 年 4 月に施行されました。

この地教行法の改正目的である、「教育委員会の責任体制の明確化」のひとつとして、教育委員会が毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検および評価（以下「点検および評価」という。）を行い、その結果を公表することが義務付けられました。

### (2) 目的

教育委員会は、首長から独立した中立的・専門的な立場で、学校教育、生涯学習をはじめ文化、スポーツなど幅広い分野に関する施策を展開する合議制による行政機関として設置されています。点検および評価等は、教育委員会が教育行政の事務の執行状況を点検および評価し、市民への説明責任を果たすことにより、市民の意向を踏まえながら、効果的・計画的な教育行政の推進に資することを目的とするものです。

なお、点検および評価の方法、議会への報告の方法などは、教育委員会が実情を踏まえて決定することとされています。

### (3) 対象事業の考え方

本年度の点検および評価の対象は、平成 26 年度の事業実績を対象とし、その対象範囲は、地教行法第 21 条に基づく「教育委員会の職務権限」として規定されている事務をはじめ、市長の補助執行として行っている事務を含むすべての事務が対象となります。

ただし、現在米原市においては、「行政評価システム」を構築中であり、最終的には当該システムにリンクする形で点検および評価を行っていく予定ではありますが、その間は教育委員会独自の点検および評価を行うこととします。

事業のまとめ方については、「米原市総合計画」の体系に基づく分類によりまとめることとしました。

### (4) 評価の方法

評価の方法については、個々の事務事業について評価の目安となる成果指標が定まっていますが、評価について地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 233 条第 5 項の規定に基づく、平成 26 年度における主要施策の成果説明書（以下

「主要施策の成果説明書」という。)の主要な施策の実績の事業分類により、教育委員会のみで自己点検および評価を行いました。また、平成23年3月に策定した「米原市教育振興基本計画」における目標指標の現状値も把握しています。

(5) 学識経験者の知見の活用

本年度から「教育に関する事務の管理および執行の状況の点検および評価等の報告書」の素案をもとに、学識経験者と教育委員との懇話会を開催し、本市教育委員会の主な取組や課題について、様々な観点から議論しました。

『参考』

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」【抜粋】

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に報告するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2. 教育委員会の活動状況

### (1) 教育委員（委員定数：5人 任期：4年）

役 職	氏 名	任 期
委員長	稲 村 邦 夫	H25. 3.28～H29. 3.27
委員長職務代理者	河 居 郁 夫	H26. 3.25～H30. 3.24
委 員	堀 田 佐和子	H23. 3.25～H27. 3.24
委 員	小 路 芙美恵	H24. 3.25～H28. 3.24
委 員	本 庄 通 子	H27. 3.25～H31. 3.24
委 員（教育長）	山 本 太 一	H25. 8.14～H29. 8.13

### (2) 教育委員会の活動状況

#### (ア) 教育委員会議の開催および議決状況

月 日	定例・臨時の別	議 決 事 項							協議事項	報告事項ほか
		条例案	規則	訓令要綱	委員等任命・委嘱等	予算案	後援等名義使用	その他		
H26. 4.22	定例		1		1		2		1	6
H26. 5.20	定例	1 6			1	1	2			4
H26. 6.26	定例			1	2	1	6		1	2
H26. 7.30	定例			1	3			1	2	2
H26. 8.22	定例	3			1	2	4			3
H26. 9.25	定例		1	1			2			3
H26.10.21	定例		8		2					3
H26.11.20	定例	1	1 0			1	1	3	2	1
H26.12.18	定例						1		2	2
H27. 1.27	定例				1		2			2
H27. 2.17	定例	4				2		1	1	3
H27. 3.11	臨時							1		
H27. 3.16	臨時							1		
H27. 3.19	定例		3	5	3	2	7	7		4
H27. 3.25	臨時		1							
合 計	定例 12回 臨時	2 4	2 4	8	1 4	9	2 7	1 4	9	3 5

	3回									
--	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(イ) 教育委員会委員協議会の設置および開催状況

平成 26 年度に米原市教育委員会の所管事項の協議調整等を行う協議会を設置し、年 3 回開催しました。

(ウ) その他の活動状況

- 学校園訪問（各小学校・中学校・幼稚園、保育所および認定こども園）
- 各校入学式および各園入園式
- 各校園運動会および体育祭
- 各校卒業式および各園卒園式
- 成人式等各種行事
- かなん認定こども園竣工式
- 研修等
  - ・ 滋賀県都市教育委員会連絡協議会  
（理事会・総会・研修会・意見交流会・教育長会議）
  - ・ 滋賀県市町村教育委員会研究協議会
  - ・ 近畿都市教育長協議会（総会・研究協議会）
  - ・ 全国都市教育長協議会（理事会・総会・研究会）
  - ・ 滋賀県へき地教育振興促進期成会（教育長研修）

(エ) 委員の就任状況

- ・ 滋賀県都市教育委員会連絡協議会会長（委員長）
- ・ 滋賀県都市教育長会会長（教育長）
- ・ 近畿都市教育長協議会副会長（教育長）
- ・ 全国都市教育長協議会理事（教育長）
- ・ 米原市学校給食運営委員会委員
- ・ 米原市青少年育成市民会議
- ・ 米原市人権尊重のまちづくり審議会委員

### 3. 学識経験者による意見

#### (1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るために、米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会を開催し、意見交換を行い、2人の学識経験者から意見をいただきました。

#### (2) 学識経験者

- 大橋松行(おおはし まつゆき)氏 滋賀県立大学教授、市行財政改革市民会議副座長
- 宮永房一(みやなが ふさいち)氏 元市内小学校長、元認定こども園長、主任児童委員

#### (3) 米原市教育行政の点検・評価に関する懇話会

◆日時：平成27年10月7日(水) 19時から20時30分

◆出席者：(学識経験者) 大橋松行氏、宮永房一氏

(教育委員) 稲村邦夫、河居郁夫、小路英美恵、本庄通子

(教育長) 山本太一、(教育部長) 田中博之

(事務局) 教育総務課：仲谷、藤岡、西村

#### ◆意見交換での主な意見

##### (全般)

- ・合併10年が経過し、今後、合併特例がなくなってくると、財政が非常に厳しくなるので、さらに効率的、効果的な行政経営が求められる。
- ・前年と比べ評価は上がっている。事業について、すべてC評価以上で、全体的に頑張っているという感じがする。
- ・他市と比べて進んでいるものは、良い評価をしてもよいのではないか。

##### (効率的な運営)

- ・教育総務課の学校支援バスは、アウトソーシングで民間に委託されており、効率的でサービスの向上にもつながるもの。
- ・ルッチプラザの自主事業で実績が伸びており、共催事業などを拡充し、市の予算を削減して民間のノウハウを積極的に活用している。

##### (特色ある取組)

- ・学校給食では、地場産物の活用率が高く、特色あるメニューで頑張っている。アレルギーにしっかり対応され、食育の指導もされている。
- ・特色ある学校づくりを進められ、子どもたちへのふるさと教育に取り組まれている。

- ・学校支援で、地域の人が入るのは良いことだが、学校がきちんと方針を持って対応する必要がある。
- ・出前講座は、大変良い取組。専門家に教えてもらえることと、地域と職員との信頼も築ける。

#### (教育環境の整備)

- ・かなん認定こども園、おうみ認定こども園の整備ができたこと、その統合の調整も円滑にできたことは、評価できる。
- ・小中学校の空調整備など交付金を活用して実施され、快適な学習環境が整った。
- ・通学のあり方について、市全体を見て統一的な基準を設けられたことは良いこと。

#### (学ぶ力の向上)

- ・学力向上については、滋賀県は低いということだが、学力調査の対策ではなく、どういう力を身につけさせるのかを考えて対応する必要がある。
- ・理科備品の充足率は、これで十分か。
- ・学力向上では、たくましい力、表現力、関わる力、自分の考えを述べる力、書く力などを付けさせるよう色々取り組んでいる。感想などでも単に良かったというだけでなく、「なぜ」良かったかが書けるようになってきた。

#### (指定管理者制度)

- ・公民館などは、全国的にはコミュニティセンター化が進んでいるが、実際のノウハウを持っている地域のまちづくり協議会と連携できるかがポイント。
- ・行政側も民間のノウハウを生かすために、特に人件費などの経費はきちんと見る必要がある。

#### (文化・文化財)

- ・東草野地域が重要文化的景観の選定を受けたが、今後どのように進めるのか。都会から地域を目指して来られる方の迎え入れなどは考えているか。
- ・五色の滝など地域の資源を、地域の住民に活用してもらって、活性化していこうというもので、古民家を活用しての移住は、最終目標。商工観光課と連携が課題。

#### (4) 学識経験者による意見

##### ◆滋賀県立大学教授 大橋松行氏 による意見

米原市教育委員会の「平成 26 年度 教育に関する事務の管理および執行の状況の点検および評価等の報告書」の作成にあたり点検・評価いたしましたので、以下に報告いたします。

米原市では、本年度より第 3 次行財政改革大綱および同実施計画に取り組まれています。この改革は、合併 10 年が経過した米原市を取り巻く社会経済環境の激しい変化や普通交付税の合併算定替えによる特別加算額の縮減等により厳しい財政状況が今後見込まれる中、これまでの行政経営のあり方を原点に戻って見直し、未来につなげる持続可能な行財政基盤の確立を推進するとともに、効率的で効果的な行政経営および地域経営を実行しようとするものです。

この大綱および実施計画には目標の実現に向けて、3つの基本方針が掲げられています。1つ目は、「地域力の創造（多様な主体を活かす地域経営）」、2つ目は、「職員力の向上」、3つ目は、「自立した行政経営の推進」です。それぞれの基本方針には、行財政課題と全市民的に取り組むべき重点項目などがあります。これらの基本方針は一般行政だけでなく教育行政の枠組みともなるものです。

それぞれの基本方針に掲げられている取組項目とりわけ重点項目と教育委員会・教育部の重点目標等との間には関連性がみられます。具体的には次のようなものです。①「協働のまちづくりの推進」（重点項目）と「地域（保護者）の教育的ニーズに応えた、特色ある教育の推進」（重点目標）。②「人財育成の推進」（重点項目）と「多様な学習機会を提供し、生涯を通じて学ぶ意欲を高める」（重点目標）。③「危機管理体制の強化」（取組項目）と「安全で快適な教育環境をつくる」（重点目標）。④「行政評価（事業評価と事業整理）の推進」（重点項目）と今回の教育行政の点検と評価のあり方の見直し。⑤「公共施設等の再配分（統廃合）の推進」（重点項目）と「認定こども園の整備」。⑥「徴収率の向上と債権の適正管理」（重点項目）と「学校給食総務管理事業」など。

ここでは、主として上述した大綱や実施計画との関連で、教育に関する事務の管理および執行の状況について、具体的にその意見を提示したいと思います。

まず、全般的には、昨年度に比べて各主管課の事業評価において B 評価が 7 から 13 に、C 評価が 27 から 22 と、全体に高くなっています。特に、学校教育課と生涯学習課では顕著な成果を上げておられます。この点については高く評価できます。

次に、各主管課の事務事業についてみていきます。まず、教育総務課ですが、「事務局教育振興事業」では、平成 26 年度から学校支援バスを、アウトソーシングで民間に委託されています。これは、大綱の「民間活力の積極的な活用」にも合致しており、効率的でサー

ビスの質的向上にもつながるものと期待されます。「小学校管理運営事業」では、通学のあり方検討委員会を設置し、全市的な視点から通学支援について統一的な基準を設定したことは、距離等の面で若干の課題はあるものの、安全な通学環境の確保につなげることができた点で評価できます。小中学校の施設整備事業では、国の交付金を活用して、全小中学校に空調設備を設置したり、また、非構造物耐震化の施工を実施して教育環境の整備に尽力された点を評価したいと思います。

第2に、学校給食課です。「学校給食総務管理事業」において、食物アレルギーに対して適切な対応がなされている点は評価できるのですが、給食費の未納・滞納については課題を残しています。「学校給食事業」では、地場産物活用率が高く、県平均を大幅に上回っています。また、地場産物を使った地産地消メニューの開発が全国的な評価を受けたことは大いに評価できます。

第3に、学校教育課です。「特色ある学校づくり事業」では、自然環境や歴史、文化等、地域性を活かした取組を推進することで児童生徒の学習意欲や郷土愛を高めることができるのではないかと思います。また、「伊吹山に登ろう事業」「森林環境学習『やまのこ』事業」といった体験学習の推進は、地域との連携を深めるのみならず、児童に自立心や豊かな心を育んだり、集団のルールを守り、互いを思いやる気持ちや協調性を育むことにつながると思います。

第4に、生涯学習課です。「出前講座事業」では、利用実績で前年度を大きく上回り(39.8%増)、市民生活や生涯学習の推進に大いに寄与していると思います。一方で、「まなびサポーター事業」は、利用実績で前年度を大きく下回っています(47.8%減)。出前講座で市職員が対応していることが当該事業の利用実績減少の主要因の一つとなっているとすれば、この2つの事業を統合するなど、一定の見直しを行うことが必要ではないかと思います。「地域人材育成事業」ですが、次代を担っていく人材を輩出するために、卒業生を中心としたルッチみらい会議を設立したことは、今後、事業効果を高めることが期待でき、よい取組だと思います。「文化芸術振興施設管理運営事業」では、ルッチプラザの自主企画事業において、公演事業、貸館事業、ベルホール 310 の稼働率はいずれも前年度を大きく上回る活動実績を示しています。特に、共催事業を拡充して市予算の負担を下げ、民間のノウハウを積極的に活用して、事業実施数、入場者数、入場料収入において前年度を大きく上回る実績を上げたことは高く評価できます。また、指定管理者制度は単に経費を削減するためのものではなく、民間のノウハウを活用して効率的で効果的な管理運営を行うところに目的があります。本市には指定管理者制度を活用した施設(文化施設、公民館、社会体育施設、文化財施設)があり、一定適切な維持管理が行われていると思いますが、利用者数でみる限り多くの施設で前年度実績を下回っており、その点で課題を残しています。公民館に関しては、全国的にコミュニティセンター化の方向に進んでいますが、本市においては地域住民の身近な学びの場、くつろぎの場として利活用され、生涯学習・社会教育の拠点としての役割を果たしていると思います。

第5に、歴史文化財保護課です。「文化的景観保護推進事業」では、東草野地域が国の重要文化的景観の選定を受けて事業が進められています。当面の目的は、五色の滝など地域の資源を、地域の住民が活用することによって地域の活性化につなげることにありますが、古民家を活用しての移住促進に向けても、今後商工観光課との連携を密にして取り組んでいくことが求められます。

最後に、保育幼稚園課です。かなん認定こども園、おうみ認定こども園の2つの認定こども園が整備され、就学前教育・保育が充実したことは高く評価できます。

以上、各主管課の事務事業について意見を付させていただきました。平成26年度の本市教育委員会は、多少の課題はあるものの、ほぼ十全に機能していると判断いたします。事業によっては、大きな成果を上げているものもあり、また、多くの事業で適切かつ前向きに活動を展開していることは、評価できます。平成27年度より教育委員会制度が変わりました。今後は、教育に関わる施策や事業を幅広く円滑に推進するため、市長部局の関係機関との相互連携による積極的な事業展開を進めることが求められます。教育委員会におかれては、より一層の会議の透明性を図り、開かれた教育行政を推進するとともに、地域住民の民意を十分に反映していただくような取組を進められることを期待します。

#### ◆元市内小学校長 宮永房一氏 による意見

私は、長年米原市（旧坂田郡）の教育行政のもとで勤務させていただきました。その立場から今回の点検・評価に関する意見を述べたいと思います。

まず、市の総合計画や教育振興基本計画に則った事業評価が全事業ともにC評価（期待どおり）以上であることは評価できる点であると思います。

以下、各事業についてコメントをしたいと思います。

##### 【通学支援】

- ・児童生徒の通学支援について、距離等の数字でのみ区分けできにくい面もありますが、通学のあり方検討委員会を設置して通学支援あり方の一定の基準を設けられたことは評価します。

##### 【学校給食事業】

- ・学校給食事業について、食の安全第一からアレルギー対応はととも評価できます。また、センターを核として市民等にも食育の指導もされていることはよいことです。乳児や幼児の食べず嫌いや食に対する未体験による偏食防止にもよい影響を与えます。給食費の未納への対応は今後も課題です。

##### 【学校管理運営・教育振興】

- ・学校管理運営や教育振興について、特色ある学校づくりの推進やふるさと教育に取り組

まれていることは、児童生徒に夢をもたせ、自立心を育むために大きな影響力があり大変よいものです。その中で、これからも特色ある学校は、目新しさや大人好みのものではなく、地域の特性や課題を把握して児童生徒のための学校であってほしいと思います。

- ・学力向上については、全国や市独自の学力調査結果を踏まえ、市教育センターを有効に活用して、どういう力を身につけさせるのかを考えて対応する必要があります。
- ・学校支援では、地域の人材活用はよいことですが、主導権は学校がもって対応することが大切です。
- ・特別支援の対象児童生徒が増加傾向です。特別支援教育の充実や通常学級の担任の負担軽減のために、今後も通級指導やサポーターを充実していくことが大切です。
- ・理科備品については、小学校 44 パーセント、中学校 23 パーセントの充足率ですが、教育活動に支障がきたしていないのでしょうか。

#### 【生涯学習事業】

- ・生涯学習については、家庭の教育力の向上に向けての取組は非常に壁は高いと思いますが大変すばらしいことだと思います。しかし、現実の子どもたちは、保育園や学童保育などとどんどん家庭で過ごす時間が減っているような気がします。
- ・出前講座は、大変よい取組だと思います。専門的な情報が得られるとともに、地域住民と市職員との信頼関係も構築できることにつながるものです。
- ・生涯スポーツの振興については、多様化、広域化やスポーツ離れなどもあり、健康づくり、地域の人との関わりづくりが非常に難しくなっています。起爆剤になる事業の企画と地道な情報提供が必要だと思います。

#### 【図書館事業】

- ・図書館事業は、ボランティアも活用して、非常に積極的に事業をされて、図書館のイメージが随分変容してきたように思います。

#### 【就学前教育・保育】

- ・幼稚園管理運営について、認定こども園は、幼稚園、保育園の部分について国の管轄が別のため、書類等も煩雑になっていました。平成 27 年度から所管は統一されたようですが、特に、実施市町における長時部や短時部の組織体制の充実などが必要だと思います。
- ・療育事業については、教育関係機関とのかかわりが強く連携が不可欠です。子どもの育ちを切れ目なく支える観点からも、教育部局にあった方がよいのではないかと考えています。

最後に、この懇話会に参加して、改めて米原市がいろいろな施策を施し、予算をつぎ込み教育の充実を目指していることが再認識できました。今後更に、設定目標の達成は最優先ですが、その目標そのものが米原市にとって適切であったかも含めて検討を加えながら教育行政を推進されていくことが大切だと思います。

#### 4. 事務の管理および執行状況の点検および評価等

##### (1) 平成 26 年度重点目標の達成状況

米原市では、市の長期計画に沿った政策や市長の施政方針、さらには庁内部長会議で合意された重点事項等を踏まえ、部局別重点目標を設定し、目標達成に向けた取組を進め、成果を評価しています。

平成 26 年度終了時点における教育部の重点目標の達成状況は、以下のとおりです。

##### 【達成度】

達 成 度		項 目 数
達成度 5	目標を上回る成果	
達成度 4	目標をやや上回る成果	1
達成度 3	目標どおりの成果	1 2
達成度 2	目標をやや下回る成果	
達成度 1	目標を下回る成果	

計 13 項目

平成26年度部局別重点目標調査 教育部

部長 伊夫貴典隆 次長 田中博之

【仕事に対する姿勢】

教育部では、教育振興基本計画に基づき、教育、生涯学習分野において、子どもたちが心豊かに学ぶことができる環境づくり、市民の皆さんが生涯にわたって学ぶことができる学習環境づくりをすすめ、学校、家庭、地域、行政がそれぞれの責任を果たしながら連携して、米原市の自然や地域特性など「米原らしさ」を生かした施策を総合的に進めます。

- ・米原らしさを生かした特色ある教育を進めるとともに、米原っ子の「生きる力」を育みます。
- ・学校、家庭、地域の役割分担と連携を図りながら、力を合わせて子どもの未来を応援します。
- ・安心・安全で質の高い教育が受けられる環境をつくります。
- ・多様な学習機会を提供し、生涯を通じて学ぶ意欲を高めます。
- ・地域の歴史・文化に対する意識を高め、地域文化を育みます。

【重点目標】

(単位：千円)

重点目標タイトル	重点目標の概要	成果目標達成指標	重点目標達成に向けた主な事務事業(細事業)		事務事業(細事業)の概要	成果目標達成指標	上半期進捗状況		上半期の取組結果(成果目標達成指標等)		進捗度	下半期の取組方針	年度末達成状況			
			新規	継続			予算額	所管名(局・課)	上半期の取組結果(成果目標達成指標等)	進捗度			取組結果(達成状況)	成果目標達成指標	達成度	今後の取組方針
1 安全で快適な教育環境をつくる	エアコンの設置をはじめ学校施設の改修整備に取り組み、未来を担う子どもたちに安心・安全で快適な教育環境を提供する。 安全でバランスのとれた給食を提供し、子どもたちの健やかな成長を育む。	1 1 ③	1	3	小学校施設整備事業	エアコン設置工事、PHSの整備、大原小・河南小グラウンド設計、春照小エレベーター工事、トイレ洋式化設計	・よりよい教育環境の整備	749,365	教育総務課	9 小学校空調工事は2学期開始までに完了。春照小エレベーター設置工事・給水管改修工事、2小学校PHSシステム入替設置工事は12月の工期内完了を目指して工事中。3小学校トイレ改修設計業務は小中学校のトイレ洋式化整備方針検討も並行して実施しており、秋頃までを目途に作業を進めている。2小学校グラウンド改修設計業務は今後計画的に進める。	順調	3 小学校トイレ改修設計業務は小中学校のトイレ洋式化整備方針検討を並行して実施しており、秋頃までを目途に作業を進めている。2小学校グラウンド改修設計業務は今後計画的に進める。	・9 小学校空調工事は2学期開始までに完了した。 ・春照小学校のエレベーター工事・給水管改修工事と2小学校のPHSシステム工事も予定通り完了した。 ・小学校トイレ改修設計業務と小中学校のトイレ洋式化整備方針を決定すると共に2小学校のグラウンド改修設計業務の実施年度を見直した。	より良い教育環境の整備	3:目標通りの成果	・小学校長寿命化計画を策定し、学校施設の延命化の方針を決定すると共に、喫緊の課題である非構造部材の耐震化工事、トイレの洋式化工事、伊吹小学校のエレベーター設置工事を進める。
			1	3	2 中学校施設整備事業	エアコン設置工事、PHSの整備、大東中グラウンド工事、双葉中テニスコート設計、米原中体育館防水、双葉中配膳室防水	・よりよい教育環境の整備	146,448	教育総務課	6 中学校空調設置工事設計業務は、小学校と同じ工程により来年の残暑に間に合うように進めることが最良と考へる。現在、6校の設計中である。大東中学校グラウンド改修工事、双葉中PHSシステム入替設置工事は12月の工期内完了を目指して工事中。双葉中テニスコート改修工事設計業務は、生涯学習課との協議を踏まえ、現地において学校施設として整備することとし、設計業務の入札事務を進める。	順調	中学校空調は、12月補正提案を目指して現在設計中である。大東中学校グラウンド改修工事、双葉中PHSシステム入替設置工事は12月の工期内完了を目指して工事を進める。双葉中テニスコート改修工事設計業務は、生涯学習課との協議を踏まえ、現地において学校施設として整備することとし、設計業務の入札事務を進める。	・6 中学校の空調設置工事設計業務を完了し、工事費を予算化すると共に3月末に入札公告を行った。 ・大東中学校のグラウンド改修工事は天候の影響により年度末の完成となった。 ・双葉中学校のテニスコート改修工事は次年度で砂の流出を防止する修繕を行うこととした。	より良い教育環境の整備	3:目標通りの成果	・6 中学校の空調設置工事については、残暑の時期までに完了を目指して整備を進める。 ・中学校長寿命化計画を策定すると共に喫緊の課題である非構造部材耐震化工事、トイレの洋式化と双葉中学校のテニスコートの改修工事を進める。
			1	2	3 学校給食運営事業	バランスのとれた安全で安心な学校給食の提供 アレルギーを持つ子どもたちに配慮した給食の提供	・地場産物活用率向上 ・残菜率5%減少	282,860	学校給食課	できる限り地場産物を取り入れてバランスのとれた安全安心な学校給食の提供ができた。「6月の地場産物活用率34%(H26年度目標率32%)」を全教育施設に達成・残飯を削減する意識を植え付けることができた。(1学期平均残菜・残飯率「東部0.1%、西部11.6%」)	概ね順調	・地場産物活用率の向上を維持し、安全安心な給食提供を図る。 ・残菜率削減に向けての取組推進	・平成26年度給食食材の地場産物の使用率は前年度より約5%増加して36.7%となり、安全で鮮度の高い食材の使用が可能となった。 ・残菜ゼロの取組については、残菜率10%であったものが、7%まで削減された。	・地場産物活用率向上 ・残菜率5%減少	3:目標通りの成果	・アレルギー対応等安心安全な学校給食の提供に努めると共に、地場産食材の利用増進を図る。 ・学校園の協力をいただきながら残菜の削減に取組む。 ・給食費の改定に向けた検討を進める。
2 地域(保護者)の教育的ニーズに応えた、特色ある教育の推進	市内小学校児童に確かな学力を保障し、きめ細かく専門的な学習指導の充実を図る。少子化に伴う小規模校の課題を整理し、小規模校の良さを生かした教育の充実を図る。 米原らしさを生かした特色ある教育を進める。 いじめ、問題行動の未然防止を図る。 市内小中学校の特別支援学級を中心とし、特別な支援を要する児童生徒の学習支援の充実を図る。	1 1 ①	1	1	確かな学力を保障する体制整備・各校の状況に応じた学習支援	各校できめ細かく専門的な学習支援、学習指導の充実を図るために学力状況調査、生活実態調査を実施	・市教育センター学力状況調査、生活実態調査の全国レベル数値を超える	2,138	学校教育課	・学力状況調査、生活実態調査の分析結果を各学校に周知し、各学校と指導法の改善策の検討を進めている。	順調	・市内小中学校の改善策をまとめ、各学校に周知することにより、指導法の改善に努める。	・各学校における学力向上策を冊子に纏めると共に研修会での周知により、各校で改善を進めた。 ・先進地の学校長による講演会や家庭学習の手引きを作成し学力向上につなげた。	・市教育センター学力状況調査、生活実態調査の全国レベル数値を超える	3:目標通りの成果	・学力状況調査、生活実態調査の分析結果を周知すると共にICT機器の活用を促しながら指導法の改善検討を進め学力向上に努める。
			1	1	2 小規模校の教育の充実	小規模校の良さを更に生かすため、地域人材の専門的な力を取り入れたり、地域人材との交わりによって社会性を高めたりするなど地域に根ざした学校づくりを進める。 教育フォーラムの開催 魅力ある学校づくりを進めるため、校長の裁量によって予算を執行できる学校予算制度を生かす。 非常勤講師の時間数を増やし、臨免解消に努める。	・教育への満足度向上	3,720	学校教育課	・特色ある学校づくり事業を市内全小中学校に委託し、地域に根ざした学校づくりを進めている。実施状況を校長ヒアリングで確認し、地域連携、小中学校連携の推進について助言した。 ・学校経営予算においては、約50%の執行状況で、ICT機器等、校長の思いを踏まえた執行になっている。	概ね順調	・特色ある学校づくり事業では、各中学校区で教育フォーラムを開催し、合同での環境学習会を開くなど特色ある学校づくり事業を通じて、小規模校の充実につなげた。 ・学校経営予算により、引き続き教育活動の充実を努める。 ・非常勤講師による専門的な指導を継続して実施する。	・各中学校区単位での教育フォーラムを開催し、地域と共に学校行事を進めたり、合同での環境学習会を開くなど特色ある学校づくり事業を通じて、小規模校の充実につなげた。 ・学校経営予算については、校長がより使いやすいものとし、効果的な活用につなげた。 ・非常勤講師の雇用により、学習指導の充実につなげた。	・教育への満足度向上	3:目標通りの成果	・柏原、河南中学校区において学校支援地域本部事業を立ち上げると共に引き続き各中学校区での教育フォーラムを開催し、地域に根ざした特色ある学校づくりを進める。 ・学校経営予算(校長枠)を活かし、現場に寄り添った学校づくりを進める。
			1	1	3 いじめ、問題行動の未然防止	米原市いじめ問題対策連絡協議会を設置する。 米原ストップいじめプロジェクトによるいじめ問題への対応を進める。	・いじめ、問題行動の未然防止	2,406	学校教育課	米原ストップいじめプロジェクトにおいていじめ問題に対応する。 米原市いじめ問題調査委員会の設置に向けての取組を進めている。	概ね順調	・条例の制定により、いじめ問題調査委員会を設置し、重大事態に対応する。	・いじめ問題専門員会では各学校における問題についてアセスメントを行い、解決に向けての検討を行うと共に、重大事態についてはいじめ問題調査委員会を開催し調査を開始した。	・いじめ、問題行動の未然防止	3:目標通りの成果	学校や教育委員会等関係機関が連携し、いじめ問題の未然防止に努めると共に重大事態に対してはいじめ問題調査委員会により対応していく。

施策レベル			事務事業(細事業) レベル					上半期進捗状況			年度未達成状況			
重点目標タイトル	重点目標の概要	成果目標達成指標	重点目標達成に向けた主な事務事業(細事業)	事務事業(細事業)の概要	成果目標達成指標	予算額 うち一般 財源額	所管名 (局・課)	上半期の取組結果 (成果目標達成指標等)	進捗度	下半期の取組方針	取組結果(達成状況)	成果目標達成指標	達成度	今後の取組方針
3 多様な学習機会を提供し、生涯を通じて学ぶ意欲を高める	「いつでも、どこでも、だれでも」スポーツに親しめる社会を構築するため策定したスポーツ推進計画に基づき、米原市らしさを生かしたスポーツの推進を図る。 多様な学習機会を提供し、学習意欲を高めるとともに、その成果を地域づくりにつなげる取組を進める。 未来を担う子どもたちを育てる上で、基本となる家庭での教育力の向上を図るための取組を進める。	・スポーツ競技者および指導者の増加 ・ルッチ大学入学者の増加 ・まなびサポーター登録者の増加	1 2 ④	1 スポーツ推進事業	スポーツ推進計画に基づき、スポーツの振興を図るとともに、東京オリンピック、2巡目国体を視野に入れた、競技者、指導者の育成を図る。	1,730 1,730	生涯学習課	・実施計画の策定に向けた調査書作成について関係部局との調整中 ・トップアスリート交流事業は、相手先の変更により、再調整中	やや遅延	・実施計画調査書をとりにまとめ後に審議会を開催し、実施計画を作成	・関係部署の職員によるスポーツ推進検討委員会およびスポーツ推進審議会において、スポーツ推進計画に基づく実施計画を策定した。 ・トップアスリート交流事業として、バレーボール教室を開催した。	・スポーツ施策の推進による競技者、指導者の増加	3:目標通りの成果	スポーツ推進計画に基づき、米原市らしさを生かしたスポーツの推進を図る。
			1 3 ③	2 地域人材育成事業	ルッチ大学やまなびサポーター制度の充実により地域づくりにつなげる。	1,061 1,061	生涯学習課	・大学7期生・大学院6期生の講義について企画運営する。 ・社会教育委員会議および意見交換の場としてテーマ会議を開催 ・出前講座の実施(148講座申込済) ・まなびサポーター(7講座申込済) ・成人式実行委員会委員の募集中	順調	・ルッチ大学・大学院の講義を企画運営する。 ・公開講座および卒業生による交流会を開催する。	・出前講座は、新たなメニューの追加や広報により利用実績が大幅に増えた。 ・ルッチ大学7期生・大学院6期生の講義カリキュラムを企画運営をはじめ、卒業生層を中心とした大学運営の中核組織(ルッチ未来会議)を立ち上げた。	・ルッチ大学入学者の増加、まなびサポーター登録者の増加	4:目標をやや上回る成果	ルッチ未来会議により現場的・実践的・自立的なルッチ大学の運営ができる仕組み作りを行う。
			1 1 ④	3 家庭の教育力向上事業	子どもの育ちに必要となる家庭での教育力を高める。	70 70	生涯学習課	・職員ワーキングチーム編成 ・職員ワーキングチーム会議(9/18) ・社会教育委員会議およびテーマ会議において家庭教育力向上について協議 ・先進地事例研究(資料等収集)	やや遅延	・職員ワーキングチーム会議および社会教育委員会議において「子育て家庭教育マニュアル」を作成 ・講演会の開催	・職員ワーキングチーム会議および社会教育委員会議において協議を行い、家庭教育リフレットを作成した。 ・家庭教育力向上について、社会教育委員会議や人権推進協議会と合同で講演会を開催した。	・「子育て家庭教育マニュアル」の作成	3:目標通りの成果	引き続き家庭の教育力向上に向けて、職員ワーキング会議を開催し、家庭教育リフレットを利用した効果的な啓発や内容の充実を図っていく。
			1 1 ③	4 読書活動推進事業	子どもたちの読解力を高めるため、小さい頃から本に親しめる環境を提供する。 学校と連携し「うち読」の支援。	647 216	図書館・学校教育課	学校と図書館が連携し、基礎学力、調べ学習の力の向上を図っている。 ・県立図書館の協力を得てモデル的に坂田小学校の図書館の改造に取り組んだ	順調	引き続き学校と図書館が連携を図りながら、事業を進める。	『第2次子ども読書活動推進計画』を策定した。 ・多くのボランティアの方に学校での読書支援に協力していただくと共に交流会(3回)や研修会(2回)成果発表会を開催するなど子どもの読書活動の充実につなげた。	・こどもの学力(国語力)の向上	3:目標通りの成果	引き続き学校と図書館が連携を図りながら、事業を進める。
4 歴史文化による地域活性化	文化庁の「重要文化的景観」の選定による事業の推進により、東草野地域(甲津原、曲谷、甲賀、吉槻)の日々の生活に根ざした身近な景観の文化的な価値を正しく評価し、その資産を次代へと継承するとともに、地域を守る人とこの地を訪れる人との交流を図り、地域の活性化につなげる。 文化芸術の振興を図るため、「下倉祺世基金」を活用し、魅力ある芸術展覧会を開催することなどにより、市民の文化芸術への関心を高める。 伝統行事など指定文化財の継承支援や、合併10年を迎える米原市にとって「これぞ米原」といえる地域資源の確立に取り組む。	・重要文化的景観選定後における文化的景観保存管理計画に基づき整備事業を推進 ・文化芸術の振興を図るため、既存基金を活用し、魅力ある芸術展覧会の運営を図る。 ・指定文化財の継承を支援し、合併10年を迎える米原市の「これぞ米原」として「これぞ米原」に向け取り組む。	1 2 ③	1 文化的景観事業	重要文化的景観の選定後における景観事業の推進(五色の滝散策道整備、桂の大木調査)	2,132 1,066	歴史文化財保護課	・五色の滝整備、カツラの木調査一地元と整備構想協議中 ・先進選定地との交流-10/18、奥飛鳥(明日香村)予定	概ね順調	重要構成要素活用事業の地元を中心とした推進	・整備活用委員会を開催し今後の活動について協議を行うと共に宇も関係者も参加いただき先進地視察を行った。 ・五色の滝および桂の木周辺整備について地元協議を進めた。	・重要構成要素活用事業参加者の増加	3:目標通りの成果	・重要構成要素活用のため地元調整を進めると共に整備活用計画を策定し事業推進を図る。
			1 2 ②	2 文化のまちづくり推進事業	文化協会への助成に加え、芸術展覧会を盛り上げるため、既存の基金を活用し、絵画の講習会や賞金の設定などにより、芸術への関心を深める。	4,317 4,117	生涯学習課	・市芸術展覧会運営委員会2回開催 ・芸術協会理事会4回開催 ・芸術展覧会作品募集中(美術部門、音楽部門) ・文化協会小さな発表会1回実施	概ね順調	・市芸術展覧会の開催 ・文化協会の活動支援	・米原市芸術展覧会運営委員会や音楽DEまちづくり協会との協働により第9回米原市芸術展覧会を開催した。 ・米原市文化協会など団体や市民の文化活動を支援し、市民の芸術活動の更なる振興に努めた。	・文化協会への助成および芸術展覧会の開催	3:目標通りの成果	米原市芸術展覧会の開催をはじめ、米原市文化協会などの文化活動を支援することで、市民の芸術活動の更なる振興に努める。
			1 2 ③	3 文化財保護活動事業	指定文化財の継承を支援 ・流星の打ち上げによる後継者育成に向けて、関係者と県を交えた協議の継続と、火薬免許取得の経費の補助。	5,565 5,565	歴史文化財保護課	指定文化財補助金は、23団体のうち22団体交付済 ・関係者協議2回(6/20, 8/19) ・県の検査(9/24)ならびに打ち上げに向けた火薬庫等の現状確認(修理箇所等) ・打ち上げ協力者打診中	概ね順調	・打ち上げに向けての具体的な継続協議 ・県の検査	指定文化財補助金は、23団体のうち22団体交付済(1団体:見送り) ・関係者協議2回(10/9, 1/9) 流星の高度及び拡散対策協議 ・打ち上げ協力者打診中	流星の後継者育成	3:目標通りの成果	合併10周年と後継者育成を目指し、打ち上げの成功を目指す。

# 総合計画体系

政策	基本施策	単位施策	事務事業(成果表に準じた分類)	主管課	備考
1. 誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち					
1. 地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる					
①「生きる力」を育む教育の充実 ②給食関連施設や農業を通じた食育の充実 ③子どもを支える教育環境の充実 ④家庭や地域の教育力の向上					
			1. 事務局教育振興事業	教育総務課	校外活動等バス管理
			2. 小学校管理運営事業	教育総務課	小学校施設管理・バス通学補助
			3. 小学校教育振興事業	教育総務課	要保護準要保護児童修学援助(小) 特別支援教育就学奨励
			4. 小学校施設整備事業	教育総務課	
			5. 中学校管理運営事業	教育総務課	
			6. 中学校教育振興事業	教育総務課	要保護準要保護児童修学援助(中) 特別支援教育就学奨励
			7. 中学校施設整備事業	教育総務課	
			8. 学校給食総務管理事業	学校給食課	
			9. 学校給食事業	学校給食課	学校給食施設維持管理・運営事業
			10. 事務局教育振興事業	学校教育課	就学指導委員会、通級指導教室
			11. 教育センター事業	学校教育課	免許外指導等解消講師派遣・学力状況調査
			12. 子どもケアサポートセンター事業	学校教育課	子どもケアサポーター・教育相談・心の教育相談
			13. 小学校管理運営事業	学校教育課	
			14. 小学校教育振興事業	学校教育課	
			15. 中学校管理運営事業	学校教育課	
			16. 中学校教育振興事業	学校教育課	
			18. 生涯学習のまちづくり事業	生涯学習課	
			32. 幼稚園管理運営事業・教育振興事業	保育幼稚園課	
			33. 幼稚園施設整備事業	保育幼稚園課	
			34. 学校統合検討事業	保育幼稚園課	
			35. 次代を担う青少年育成事業	子育て支援課	
			36. 少年センター事業	こども家庭課	
2. 誰もが文化・芸術・スポーツを楽しみ健やかに暮らせるまちをつくる					
①文化芸術の振興 ②市民文化活動への支援 ③文化遺産の保存活用 ④競技スポーツの充実 ⑤スポーツ振興のための支援 ⑥スポーツ環境の整備					

# 総合計画体系

政策	基本施策	単位施策	事務事業(成果表に準じた分類)	主管課	備考
			21. 文化のまちづくり事業	生涯学習課	
			26. 体育施設管理経費	生涯学習課	
			27. 生涯スポーツ推進体制整備事業	生涯学習課	
			22. 文化芸術振興施設管理運営事業	生涯学習課	
			28. 文化財保護事業	歴史文化財保護課	
			29. 文化財施設管理運営事業	歴史文化財保護課	
			30. 文化的景観保護推進事業	歴史文化財保護課	
		3. 人生を豊かにする学びを活かせるまちをつくる			
		①地域で学ぶ環境づくりの推進 ②学びの場づくりの推進 ③学びを活用できる環境づくりの推進 ④図書館整備の充実			
			17. 社会教育総務管理事業	生涯学習課	
			18. 生涯学習のまちづくり事業	生涯学習課	
			20. 地域人材育成事業	生涯学習課	ルッチ大学運営事業
			23. 伊吹薬草の里文化センター管理運営事業	生涯学習課	
			24. 成人式開催事業	生涯学習課	
			25. 公民館管理運営事業	生涯学習課	
			31. 図書館管理運営事業	図書館	
		4. 一人ひとりが尊重され平和を大切にするまちをつくる			
		①多様な学習機会の充実 ②多文化共生の推進 ③男女共同参画の推進			
			19. 人権教育推進事業	生涯学習課	人権教育啓発推進事業
	2. 市民の絆で築く心と体の健康なまち				
		3. 高齢者や障がいのある人がいきいきと元気に暮らせるまちをつくる			
		④高齢者の健康づくりの促進			
			27. 生涯スポーツ推進体制整備事業	生涯学習課	
	3. 田舎都市が魅せるいやしのまち				
		3. 美しい風景を守り維持するまちをつくる			
		②地域の良さを活かした景観の形成			
			30. 文化的景観保護推進事業	歴史文化財保護課	

(2) 点検および評価等の結果

主要な施策の成果説明書の事業ごとに、教育委員会に関連する事務を 36 事業に分類し、事業ごとに点検および評価等を行いました。

○ 事業ごとに、総合計画上の位置付け、政策・基本施策・単位施策・基本事業を記載しています。

(ア) 平成 26 年度の予算額、決算額、執行率および決算における財源内訳を下表「財源内訳の略称」のとおり示し、当該事業の概要を記載しています。

(イ) 事業の指標として、平成 26 年度における進捗度および市民一人あたりのコスト等をあげています。

① 市民一人あたりの金額は、決算額を平成 26 年度末現在の米原市人口 39,982 人で除した数値です。

(ウ) 対象事業の主な実績を記載しています。

(エ) 対象事業の達成度を A から E の 5 段階の評価を行い、評価の内容をまとめています。

【評価ランク】

A	期待以上に達成できた	・当該年度の当該計画以上に成果が上げられた ・当初計画以上に早く事業が完了した
B	期待をやや上回る程度に達成できた	・変更は生じたが、期待をやや上回る成果があった ・初期の目的をおおむね達成できた
C	期待どおり	・前年度と同様の実績であった ・ほぼ計画どおり事業を実施できた
D	やや不十分である	・期待を下回る実績であった ・事業は、実施できたが、成果についてはやや課題が残った
E	不十分である	・当該年度の計画が実施できなかった

【財源内訳の略称】

財源の名称	略号	財源の名称	略号
分担金および負担金	分	寄付金	寄
使用料および手数料	使	繰入金	繰
国庫支出金	国	繰越金	越
県支出金	県	諸収入	諸
財産収入	財	一般財源	一般
市債	債		

【対象事業の評価一覧】

対象事業の評価を行った結果の主管課別評価は以下のとおりとなりました。

番号	事務事業名	評価	主管課
1	事務局教育振興事業	C	教育総務課
2	小学校管理運営事業	C	〃
3	小学校教育振興事業	C	〃
4	小学校施設整備事業	B	〃
5	中学校管理運営事業	C	〃
6	中学校教育振興事業	C	〃
7	中学校施設整備事業	B	〃
8	学校給食総務管理事業	C	学校給食課
9	学校給食事業	C	〃
10	事務局教育振興事業	B	学校教育課
11	教育センター事業	B	〃
12	子どもケアサポートセンター事業	B	〃
13	小学校管理運営事業	C	〃
14	小学校教育振興事業	B	〃
15	中学校管理運営事業	C	〃
16	中学校教育振興事業	B	〃
17	社会教育総務管理事業	B	生涯学習課
18	生涯学習のまちづくり事業	C	〃
19	人権教育推進事業	C	〃
20	地域人材育成事業	B	〃
21	文化のまちづくり事業	C	〃
22	文化芸術振興施設管理運営事業	B	〃
23	伊吹薬草の里文化センター管理運営事業	C	〃
24	成人式開催事業	C	〃
25	公民館管理運営事業	C	〃
26	体育施設管理経費	B	〃
27	生涯スポーツ推進体制整備事業	B	〃
28	文化財保護事業	C	歴史文化財保護課
29	文化財施設管理運営事業	C	〃
30	文化的景観保護推進事業	C	〃

番号	事務事業名	評価	主管課
31	図書館管理運営事業	C	図書館
32	幼稚園管理運営事業	C	保育幼稚園課
33	幼稚園施設整備事業	A	〃
34	学校統合検討事業	B	〃
35	次代を担う青少年育成事業	C	子育て支援課
36	少年センター事業	C	こども家庭課

主管課名	A	B	C	D	E	対象事業数
教育総務課		2	5			7
学校給食課			2			2
学校教育課		5	2			7
生涯学習課		5	6			11
歴史文化財保護課			3			3
図書館			1			1
保育幼稚園課	1	1	1			3
子育て支援課			1			1
こども家庭課			1			1
計	1	13	22			36

事業番号	1													
款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育振興費									
事業名	継続	事務局教育振興事業			主管課	教育委員会 教育総務課								
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち												
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる												
	単位施策	子どもを支える教育環境の充実												
事業費（円）	26年度	25年度	財源内訳（円）	26年度	25年度									
予算額	10,298,000	5,321,000	国 費	0	0									
うち繰越	0	0	県 費	0	0									
決算額	8,630,025	3,225,701	市 債	0	0									
うち繰越	0	0	その他	0	0									
執行率（％）	83.8	60.6	一般財源	8,630,025	3,225,701									
80%以下の理由			その他の内訳（26年度）											
事業コスト		事業費	人件費（0.40人役）	計										
決算額		8,630 千円	2,988 千円	11,618 千円										
市民1人当たり（39,982人）		216 円	75 円	291 円										
<b>事業の目的および内容</b>														
<p>(1)総合的な学習を通じ、子どもたちに幅広い体験ができるようバスを運行し、校外活動の充実や学校間の交流を促進します。</p> <p>(2)県立米原高等学校の未登記となっている用地2筆の所有権移転登記を行います。</p>														
<b>事業の実績</b>														
※小学校児童数2,139人、中学校生徒数1,246人（平成26年5月1日現在）														
<p>(1)平成26年度から新たに学校支援バスをバス事業者への委託により運行したほか、伊吹地域スクールバス3台、山東小学校スクールバス1台、河南小学校スクールバス1台を校外活動等のため運行しました。</p> <table border="0"> <tr> <td>校外活動延べ</td> <td>71回</td> <td>7,496,025 円</td> </tr> <tr> <td>内訳</td> <td>学校支援バス運行経費</td> <td>6,806,700 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>校外活動バス運転手賃金</td> <td>689,325 円</td> </tr> </table> <p>(2)県立米原高等学校用地の所有権移転登記が未登記の2筆のうち、1筆の境界確認作業を進めました。</p> <p style="text-align: right;">1,134,000 円</p>						校外活動延べ	71回	7,496,025 円	内訳	学校支援バス運行経費	6,806,700 円		校外活動バス運転手賃金	689,325 円
校外活動延べ	71回	7,496,025 円												
内訳	学校支援バス運行経費	6,806,700 円												
	校外活動バス運転手賃金	689,325 円												
<b>評価の内容</b>					<b>評価</b>									
市内外への校外活動の実施により、日常の学校生活では得ることのできない体験学習・環境学習および創作活動などの様々な体験を通じて子どもたちの社会性を養う一助となりました。					C									

事業番号	2					
款	10 教育費	項	2 小学校費	目	1 学校管理費	
事業名	継続	小学校管理運営事業			主管課	教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる				
	単位施策	子どもを支える教育環境の充実				
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度	
予算額	41,832,000	38,730,000	国 費	2,570,000	0	
うち繰越	0	0	県 費	17,000	199,000	
決算額	38,991,692	35,001,382	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	0	0	
執行率(%)	93.2	90.4	一般財源	36,404,692	34,802,382	
80%以下の理由			その他の内訳(26年度)			
事業コスト		事業費	人件費(1.05人役)	計		
決算額		38,992 千円	7,845 千円	46,837 千円		
市民1人当たり(39,982人)		975 円	196 円	1,171 円		
児童1人当たり(2,139人)		18,229 円	3,668 円	21,897 円		
事業の目的および内容						
(1)小学校施設の適切な維持管理により、安全な学習環境を確保し円滑な施設の管理運営を行います。 (2)徒歩通学が困難な児童のためにスクールバスを運行し、安全な通学環境を確保します。						
事業の実績 ※小学校児童数2,139人(平成26年5月1日現在)						
(1)小学校施設や設備を適切に維持管理するため、各種管理業務等を委託しました。 10,639,099 円 警備保障、各種設備保守点検、非構造物調査業務など						
(2)事務機器等のリース契約を継続して行い、情報学習や学校事務に活用しました。 1,465,004 円						
(3)施設の運営に必要な管理備品を購入しました。 3,793,150 円 児童用机、椅子、PHS端末機など						
(4)安全な通学環境を確保するため、バス通学者への助成を行いました。 2,471,780 円 バス等利用児童数(単位:人)						
学校名	湖国バス	まいちゃん号	合 計			
柏原小学校	37	0	37			
米原小学校	0	16	16			
河南小学校	4	0	4			
息長小学校	12	12	24			
合 計	53	28	81			
※息長小学校は、登校に湖国バス、下校にまいちゃん号を利用しています。						
(5)伊吹地域(北部、中部、東部)3台、山東小学校および河南小学校のスクールバスの計5台を運行しました。 13,462,623 円						
(6)老朽化が進んでいた伊吹地域中部スクールバス1台を更新しました。 5,828,027 円						
(7)市内小中学校の通学の在り方に関して検討委員会を設け検討し、通学支援の基準や安全確保などについて決定しました。 検討委員会経費(15人) 198,900 円						
評価の内容					評価	
(1)施設維持管理および運営のため、各種管理業務委託の実施や事務機器等のリース、施設に必要な備品の購入により、適切な学習環境の確保につなげることができました。 (2)小学校児童の遠距離通学に対してスクールバスを運行し、安全な通学環境の確保につなげることができました。					C	

事業番号	3					
款	10 教育費	項	2 小学校費	目	2 教育振興費	
事業名	継続	小学校教育振興事業			主管課	教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる				
	単位施策	子どもを支える教育環境の充実				
事業費（円）	26年度	25年度	財源内訳（円）	26年度	25年度	
予算額	12,188,000	14,817,000	国 費	643,000	475,000	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	11,261,477	13,775,137	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	0	0	
執行率（％）	92.4	93.0	一般財源	10,618,477	13,300,137	
80%以下の理由			その他の内訳（26年度）			
事業コスト		事業費	人件費（0.35人役）	計		
決算額		11,261千円	2,615千円	13,876千円		
市民1人当たり（39,982人）		282円	65円	347円		
児童1人当たり（2,139人）		5,265円	1,223円	6,488円		
<b>事業の目的および内容</b>						
<p>(1)小学校コンピュータ教室の機器を継続的に配備し、情報学習の強化を図ります。</p> <p>(2)経済的や身体的な理由により就学が困難な児童を援助し、安心できる学習環境を確保します。</p>						
<b>事業の実績</b>		※小学校児童数2,139人（平成26年5月1日現在）				
(1)情報学習の強化を図るため、コンピュータ機器の継続リースを行いました。		775,008円				
(2)経済的や身体的な理由により、就学が困難な児童の安心できる学習環境を確保するため、学用品費や給食費等の一部を援助しました。		10,486,469円				
要保護		11,735円				
準要保護		9,084,690円				
特別支援教育就学奨励費		1,390,044円				
支給対象者の5年間の推移（単位：人）						
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
要保護	0	1	1	0	1	
準要保護	132	141	138	150	144	
特別支援教育就学奨励費	32	54	49	45	46	
<b>評価の内容</b>					評価	
<p>(1)コンピュータ教室の機器を継続的に配備することで、適切な学習環境の確保につなげることができ、情報学習の強化を図ることができました。</p> <p>(2)経済的や身体的な理由により就学が困難な児童を援助することで、学習環境の確保と義務教育の円滑な実施に寄与することができました。</p>					C	

事業番号	4					
款	10 教育費	項	2 小学校費	目	3 施設整備費	
事業名	継続	小学校施設整備事業			主管課	教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる				
	単位施策	子どもを支える教育環境の充実				
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度	
予算額	671,514,000	387,338,000	国 費	126,923,000	139,132,000	
うち繰越	112,749,000	185,888,000	県 費	0	0	
決算額	669,032,761	251,323,344	市 債	379,400,000	72,100,000	
うち繰越	111,804,480	177,413,850	そ の 他	106,935,480	13,558,850	
執行率(%)	99.6	64.9	一般財源	55,774,281	26,532,494	
80%以下の理由	その他の内訳(26年度) 地域の元気づくり基金繰入金 100,355,000円 繰越事業費等充当財源繰越金 6,580,480円					
事業コスト	事業費	人件費(1.45人役)	計			
決算額	669,033 千円	10,833 千円	679,866 千円			
市民1人当たり(39,982人)	16,733 円	271 円	17,004 円			
児童1人当たり(2,139人)	312,778 円	5,065 円	317,843 円			
<b>事業の目的および内容</b>						
<p>(1)老朽施設の解消や不具合箇所の補修など緊急性の高いものから計画的に整備を進め、安全で安心な学習環境を確保します。</p> <p>(2)子どもたちの安全で快適な環境を確保するため、全小学校に空調設備を設置するとともに、順次バリアフリー化を進めます。</p>						
<b>事業の実績</b> ※小学校児童数2,139人(平成26年5月1日現在)						
<p>(1)全小学校空調設備設置工事 549,197,280 円  内訳 空調設備設置工事費 546,194,880 円  工事監理業務委託料 3,002,400 円  快適な環境を確保するため、全小学校の教室に空調設備(主にガスヒートポンプ式)を設置しました。</p>						
						
<p>(2)春照小学校エレベーター設置等バリアフリー化工事 52,731,000 円  内訳 工事費 51,836,760 円  工事監理業務委託料 894,240 円  子どもの安全と円滑な学校生活を確保するため、エレベーターの設置などバリアフリー化を進めました。</p>						
<p>(3)春照小学校給水管改修工事 17,798,400 円  衛生的で安全な環境を確保するため、老朽化が進む給水設備を改修しました。</p>						
<p>(4)坂田小学校電話設備改修工事 4,642,920 円  安全安心な環境を確保するため、電話設備を改修しました。</p>						

**事業の実績**

- |   |              |
|---|--------------|
| (5)息長小学校電話設備改修工事<br>安全安心な環境を確保するため、電話設備を改修しました。   | 4,035,960 円  |
| (6)米原市小学校遊具改修工事<br>安全を確保するため、老朽化により危険な遊具を改修しました。  | 5,486,400 円  |
| (7)伊吹小学校エレベーター設置等バリアフリー化工事設計業務<br>子どもの安全と円滑な学校生活を確保するため、エレベーター設置工事の設計等バリアフリー化を行いました。        | 4,190,400 円  |
| (8)小学校非構造物改修工事設計業務<br>安全安心な学習環境を確保するため、非構造物改修工事の設計を行いました。<br>(山東小学校：体育館およびランチルーム、大原小学校：体育館) | 723,600 円    |
| (9)小学校トイレ洋式化改修工事設計業務<br>快適な学習環境を確保するため、トイレ洋式化改修工事の設計を行いました。<br>(春照小、米原小および息長小学校)            | 4,492,800 円  |
|           |              |
| (10)その他小規模修繕等<br>その他不具合箇所の補修や突発的な修繕を行いました。  | 13,661,896 円 |

**評価の内容**

評価

各種の整備工事や不具合箇所の補修により、安全で快適な学習環境の確保につなげることができました。

B

事業番号	5																				
款	10 教育費	項	3 中学校費	目	1 学校管理費																
事業名	継続	中学校管理運営事業			主管課	教育委員会 教育総務課															
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち																			
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる																			
	単位施策	子どもを支える教育環境の充実																			
事業費（円）	26年度	25年度	財源内訳（円）	26年度	25年度																
予算額	14,783,000	8,803,000	国 費	0	0																
うち繰越	0	0	県 費	53,000	105,000																
決算額	13,263,119	7,954,965	市 債	0	0																
うち繰越	0	0	その他	0	0																
執行率（％）	89.7	90.4	一般財源	13,210,119	7,849,965																
80%以下の理由			その他の内訳（26年度）																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業コスト</th> <th>事業費</th> <th>人件費（0.65人役）</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決算額</td> <td>13,263 千円</td> <td>4,856 千円</td> <td>18,119 千円</td> </tr> <tr> <td>市民1人当たり（39,982人）</td> <td>332 円</td> <td>121 円</td> <td>453 円</td> </tr> <tr> <td>生徒1人当たり（1,246人）</td> <td>10,644 円</td> <td>3,897 円</td> <td>14,541 円</td> </tr> </tbody> </table>						事業コスト	事業費	人件費（0.65人役）	計	決算額	13,263 千円	4,856 千円	18,119 千円	市民1人当たり（39,982人）	332 円	121 円	453 円	生徒1人当たり（1,246人）	10,644 円	3,897 円	14,541 円
事業コスト	事業費	人件費（0.65人役）	計																		
決算額	13,263 千円	4,856 千円	18,119 千円																		
市民1人当たり（39,982人）	332 円	121 円	453 円																		
生徒1人当たり（1,246人）	10,644 円	3,897 円	14,541 円																		
<b>事業の目的および内容</b>																					
中学校施設の適切な維持管理により、安全な学習環境を確保し円滑な施設の管理運営を行います。																					
<b>事業の実績</b> ※中学校生徒数1,246人（平成26年5月1日現在）																					
(1)中学校施設や設備を適切に維持管理するため、各種管理業務等を委託しました。警備保障、各種設備保守点検、非構造物調査業務など				8,111,016 円																	
(2)事務機器等のリース契約を継続して行い、情報学習や学校事務に活用しました。				1,029,032 円																	
(3)施設の運営に必要な管理備品を購入しました。生徒用机、椅子、PHS端末機など				2,882,676 円																	
<b>評価の内容</b>					評価																
施設維持管理および運営のため、各種管理業務委託の実施や事務機器等のリース、施設に必要な備品の購入により、適切な学習環境の確保につなげることができました。					C																

事業番号		6			
款	10 教育費	項	3 中学校費		
目	2 教育振興費				
事業名	継続	中学校教育振興事業	主管課 教育委員会 教育総務課		
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる			
	単位施策	子どもを支える教育環境の充実			
事業費（円）	26年度	25年度	財源内訳（円）	26年度	25年度
予算額	15,559,000	13,319,000	国 費	565,000	367,000
うち繰越	0	0	県 費	0	0
決算額	14,584,975	11,111,900	市 債	0	0
うち繰越	0	0	その他	0	0
執行率（％）	93.7	83.4	一般財源	14,019,975	10,744,900
80%以下の理由			その他の内訳（26年度）		
事業コスト		事業費	人件費（0.35人役）	計	
決算額		14,585 千円	2,615 千円	17,200 千円	
市民1人当たり（39,982人）		365 円	65 円	430 円	
生徒1人当たり（1,246人）		11,705 円	2,099 円	13,804 円	
事業の目的および内容					
<p>(1) 中学校コンピュータ教室の機器を継続的に配備し、情報学習の強化を図ります。</p> <p>(2) 経済的や身体的な理由により就学が困難な生徒を援助し、安心できる学習環境を確保します。</p>					
事業の実績		※中学校生徒数1,246人（平成26年5月1日現在）			
<p>(1) 情報学習の強化を図るため、コンピュータ機器の継続リースを行いました。 3,997,152 円</p> <p>(2) 経済的や身体的な理由により、就学が困難な生徒の安心できる学習環境を確保するため、学用品費や給食費等の一部を援助しました。 10,587,823 円</p> <p>要保護 57,290 円</p> <p>準要保護 9,367,279 円</p> <p>特別支援教育就学奨励費 1,163,254 円</p>					
支給対象者の5年間の推移 (単位：人)					
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
要保護	3	3	1	0	1
準要保護	85	94	84	88	97
特別支援教育就学奨励費	17	21	22	22	24
評価の内容					評価
<p>(1) コンピュータ教室の機器を継続的に配備することで、適切な学習環境の確保につなげることができ情報学習の強化を図ることができました。</p> <p>(2) 経済的や身体的な理由により就学が困難な生徒を援助することで、学習環境の確保と義務教育の円滑な実施に寄与することができました。</p>					C

事業番号	7					
款	10 教育費	項	3 中学校費	目	3 施設整備費	
事業名	継続	中学校施設整備事業			主管課	教育委員会 教育総務課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる				
	単位施策	子どもを支える教育環境の充実				
事業費（円）	26年度	25年度	財源内訳（円）	26年度	25年度	
予算額	830,442,000	303,798,000	国 費	61,408,000	86,960,000	
うち繰越	49,794,000	193,698,000	県 費	0	0	
決算額	184,860,788	217,002,285	市 債	76,200,000	111,100,000	
うち繰越	48,252,240	173,739,900	その他	8,096,240	6,379,900	
執行率（％）	22.3	71.4	一般財源	39,156,548	12,562,385	
80%以下の理由	中学校空調設備整備工事費548,000千円を27年度へ繰り越したため。		その他の内訳（26年度） 繰越事業費等充当財源繰越金 8,096,240円			
事業コスト	事業費	人件費（1.05人役）	計			
決算額	184,861千円	7,845千円	192,706千円			
市民1人当たり（39,982人）	4,624円	196円	4,820円			
生徒1人当たり（1,246人）	148,364円	6,296円	154,660円			
事業の目的および内容						
<p>(1)老朽施設の解消や不具合箇所の補修など緊急性の高いものから計画的に整備を進め、安全で安心な学習環境を確保します。</p> <p>(2)子どもたちの安全で快適な環境を確保するため、全中学校に空調設備を設置するとともに、順次バリアフリー化を進めます。</p>						
事業の実績 ※中学校生徒数1,246人（平成26年5月1日現在）						
<p>(1)大東中学校エレベーター等バリアフリー化設置工事 42,593,040円 子どもの安全と円滑な学校生活を確保するため、エレベーターを設置などバリアフリー化を進めました。</p> <p>(2)大東中学校グラウンド改修工事 84,309,120円 良好な環境を確保するため、グラウンドを拡張し排水対策を施工しました。</p> <p>(3)双葉中学校電話設備改修工事 4,937,760円 安全安心な環境を確保するため、電話設備を改修しました。</p> <p>(4)米原・双葉中学校防水等改修工事 7,729,560円 安全で快適な環境を確保するため、校舎等の防水工事などを施工しました。</p> <p>(5)河南中学校スロープ設置工事 5,659,200円 学校施設のバリアフリー化を図るため、スロープを設置しました。</p> <p>(6)中学校空調設備等設置工事設計業務委託 11,534,400円 快適な学習環境を確保するため、空調設備等設置工事の設計を行いました。</p> <p>(7)中学校非構造物改修工事設計業務委託 2,624,400円 安全安心な学習環境を確保するため、非構造物改修工事の設計を行いました。 （大東中、米原中および河南中学校：格技場、伊吹山中学校：ランチルーム）</p> <p>(8)その他小規模修繕等 8,181,183円 その他不具合箇所の補修や突発的な修繕を行いました。</p>						
評価の内容					評価	
<p>各種の整備工事や不具合箇所の補修により、安全で快適な学習環境の確保につなげることができました。</p> <p>なお、中学校空調設備設置工事に対し追加で交付金を受けられることになりました。</p>					B	

事業番号	8										
款	10 教育費	項 6 保健体育費 目 4 学校給食費									
事業名	継続 学校給食総務管理事業	主管課 教育委員会 学校給食課									
総合計画上の位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち									
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる									
	単位施策	給食関連施設や農業を通じた食育の充実									
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度						
予算額	587,000	579,000	国費	0	0						
うち繰越	0	0	県費	0	0						
決算額	529,912	539,163	市債	0	0						
うち繰越	0	0	その他	0	0						
執行率(%)	90.3	93.1	一般財源	529,912	539,163						
80%以下の理由	その他の内訳(26年度)										
事業コスト	事業費	人件費(0.50人役)	計								
決算額	530千円	3,736千円	4,266千円								
市民1人当たり(39,982人)	13円	93円	106円								
<b>事業の目的および内容</b>											
給食施設および学校給食の適正かつ円滑な運営を図ります。											
<b>事業の実績</b>											
(1)学校給食運営委員会を3回開催し、学校給食の運営に関する協議事項の審議、意見を求めました。 委員報酬(学校給食運営委員)(3回) 88,000円 運営委員数 17人 (報酬支払対象11人)											
(2)食物アレルギー対応検討委員会を開催し、食物アレルギーを持つ園児・児童・生徒への代替食・除去食の対応および次年度に向けての検討を行いました。 委員報償費(食物アレルギー対応検討委員)(1回) 4,000円  平成26年度の食物アレルギー対応人数  東部給食センター分 67人 西部給食センター分 38人 計105人(平成25年度:97人)  食物アレルギー食品別一覧(人数)											
項目	卵	牛乳	乳製品	甲殻類	魚介類	種実類	大豆	果物	野菜	小麦	その他(チョコレート等)
東部	29	11	7	8	12	21	6	14	1	0	4
西部	20	6	6	7	15	9	0	11	3	1	3
(注)1人で複数の食物アレルギーを持っている子どもがいるため、実人数は105人です。											
(3)保護者の給食費口座振替について、各金融機関へ口座振替手数料を負担しました。 給食費保護者負担金口座振替手数料 430,912円(39,954件)											
<b>評価の内容</b>					評価						
(1)運営委員会では委員から意見を聴取し、給食業務の円滑な運営に反映しました。 (2)食物アレルギー対応検討委員会では食物アレルギーへの適切な対応を検討することにより、アレルギーを持つ子どもへ安心安全な学校給食を提供することができました。					C						

事業番号	9					
款	10 教育費	項	6 保健体育費	目	4 学校給食費	
事業名	学校給食事業			主管課	教育委員会 学校給食課	
総合計画上の位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる				
	単位施策	給食関連施設や農業を通じた食育の充実				
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度	
予算額	331,807,000	331,879,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	325,281,903	327,917,110	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	187,920,735	191,473,021	
執行率(%)	98.0	98.8	一般財源	137,361,168	136,444,089	
80%以下の理由	<b>その他の内訳(26年度)</b> 東部給食センター調理研修室使用料 6,000円 講座受講料 31,150円 学校給食用牛乳供給事業補助金 18,633円 廃食油売却収入 25,825円 学校給食保護者負担金 184,978,327円 保育所入所保護者負担金(給食費分) 2,860,800円					
事業コスト	事業費	人件費(8.50人役)	計			
決算額	325,282 千円	63,504 千円	388,786 千円			
市民1人当たり(39,982人)	8,136 円	1,588 円	9,724 円			
<b>事業の目的および内容</b>						
食生活を取り巻く社会環境が大きく変化し生活の多様化が進む中、米原市の将来を担う子どもたちにバランスの取れた安全で安心な学校給食を提供するため、適正な施設の維持管理および業務の運営を行います。						
<b>事業の実績</b>						
学校および園にアレルギー食を含めた安心安全な給食を提供するため、給食センターの適正な管理運営と、食材に地場産物を積極的に取り入れ、特徴ある献立作成に努めました。 学校給食衛生管理基準に基づく衛生面に配慮し、厨房・機械設備の維持点検を行いました。 調理実習や研修事業を展開し、食育の推進に努めました。						
(1)給食提供数(職員を含む) 平成27年3月現在						
区分	東部給食センター		西部給食センター		計	
	校園数	食数	校園数	食数	校園数	食数
幼稚園・認定園	4	497 食	1	96 食	5	593 食
小学校	6	1,231 食	3	1,098 食	9	2,329 食
中学校	5	784 食	2	597 食	7	1,381 食
合計	15	2,512 食	6	1,791 食	21	4,303 食
(2)給食回数と主食の内容						
項目	東部給食センター		西部給食センター			
米飯給食	155 回		155 回			
パン給食	22 回		22 回			
麺給食	18 回		18 回			
合計	195 回		195 回			
(3)東部・西部給食センターにおける食育推進事業						
①食に関する指導体験学習(発達段階に応じた食に関する指導を実践) グリーンピースのさやむぎ体験(2年生10回) 地場産物の収穫体験:プロッコリー収穫体験(1回)や大根収穫体験(1回) 赤かぶ漬け体験(1回) 味噌作り体験(6回)						
②食に関する指導特別給食 給食を通じて、栄養バランスを考えて食品を選択することを実践し、先生や友人と楽しく会食したり卒業前の良い思い出作りの場にもなりました。また、食事のマナーなどを学ぶ機会にもなりました。 お鍋給食とミニバイキング(15回) バイキング給食(7回) お楽しみ給食(5回)						

**事業の実績**

③保護者への食育

市内各校園で親子給食（給食試食会）や保護者への食に関する講演を実施しました。  
 親子給食での講演5回（209人）  
 健康教室1回  
 センター見学・試食・食育4回  
 親子料理教室2回  
 市民を対象とした親子料理教室を調理研修室で4回開催（参加者160人）

④食育に関する情報発信

給食だよりなどでレシピや食育の実践の様子などを紹介し、市公式ウェブサイトや市広報により給食の写真や献立について情報発信しました。

⑤地場産物の導入の促進

J Aと連携し、年間を通じた学校給食への地場産物の活用や、給食週間にも郷土料理や地場産物を献立に取り入れる等、地産地消メニューの開発を進めました。  
 地場産物活用率目標（食育計画 32.0%）  
 地場産物の活用率

平成25年度 平成26年度 県平均活用率

6月調査 30.2% ⇒ 34.0% 27.3%  
 11月調査 33.8% ⇒ 39.3% 27.1%

⑥給食でのアレルギー対策

アレルギー対応の申請をした園児・児童・生徒に除去食、代替食を提供しました。  
 アレルギー対応をする園児・児童・生徒の家庭に給食の使用食品の情報を伝え、保護者に確認を行いました。給食センター・家庭・学校・園と連携してアレルギー対応食を実施しました。

(4)特色ある給食

項目	東部給食センター	西部給食センター	計
バイキング給食	5回（中学3年生）	2回（中学3年生）	7回（中学3年生）
お鍋給食	8回（小学6年生）	6回（小学6年生）	14回（小学6年生）
季節の行事食	月1回	月1回	月1回
お誕生日給食			
カミカミメニュー			
日本食生活の日			
ふるさと滋賀給食の日			
セレクト給食（給食週間中）	1回（全校）	1回（全校）	1回（全校）
郷土料理	随時	随時	随時
地元食材の使用	随時	随時	随時
食べ物の旅給食	月1回	月1回	月1回
賄材料費	107,552,765円	79,489,381円	187,042,146円

(5)衛生管理

学校給食衛生管理基準に基づき、職員の検便検査（月2回）、ノロウイルス検便検査（年1回）、食材検査、施設定期検査およびふき取り検査（学期ごと）を行いました。

東部給食センター 710,653円  
 西部給食センター 521,630円

(6)施設・厨房機器の管理

施設の設備保守点検を実施し、機能の維持に努めました。

主な施設等維持管理業務

項目	東部給食センター	西部給食センター
衛生害虫防除業務	11回	11回
警備保障業務	年間	年間
自家用電気工作物保守点検	1回/月	1回/月
消防設備保守点検	2回/年間	2回/年間
厨房除害施設保守点検	1回/月	1回/月
業務委託料	3,472,491円	2,497,910円

**事業の実績**

(7)施設の主な運営経費

①子どもに美味しい給食を提供する臨時職員を配置して直営による調理業務を実施しました。

臨時職員賃金

東部給食センター 29,263,783円

西部給食センター 22,778,101円

②配送業務は、(公社)シルバー人材センターへの委託業務により対応しました。

配送業務委託

東部給食センター 9,637,920円

西部給食センター 2,891,376円

(8)給食センター施設営繕

給食センターにおいて営繕を行いました。

①西部給食センター

熱交換器修繕工事 1,026,000円

厨芥処理機修繕工事 550,800円

厨房機器修繕 852,660円

その他工事 7件 1,521,936円

その他営繕 2,099,151円

②東部給食センター

空調機・氷蓄熱ユニット屋外機修繕工事 1,512,000円

その他営繕 1,148,874円

**評価の内容**

(1)西部給食センターでは、地場産物を使った地産地消メニューの開発において特定非営利活動法人21世紀構想研究会が主催する全国学校給食甲子園に応募し、「特選」を受賞しました。  
 (2)給食の食材については、JAと連携し安心な地場産物を積極的に取り入れ、地場産物活用率は県平均27.1%を上回る39.3%となりました。  
 (3)給食メニューの多様化を図るため、月目標を定め各県の特徴ある料理を給食に取り入れたり、市内の行事に合わせた給食(蛍メニュー)やバイキング給食や特色ある給食としてお鍋給食を実施するなど、園児、児童、生徒に食への関心を高めることができました。  
 (4)東部給食センター調理研修室では、施設見学や試食を通じ地域のサロン活動の一環として体験していただいたり、親子活動として料理教室を開催し、利用促進を図りました。また、毎月広報にバランスの取れた食事として給食レシピを掲載し広く市民に紹介しました。  
 (5)毎月の食に関する指導、出前授業、収穫体験等を通して食への関心を高めることができました。  
 (6)食物アレルギー関係については食物アレルギーを持つ園児・児童・生徒の給食について、代替食・除去食の対応および検討を行い、アレルギーを持つ子どもに安心安全な学校給食を提供することができました。  
 (7)施設の適正な保守管理と改修工事、衛生基準に基づく徹底した衛生管理を行い、遅配なく安全な給食を子どもたちに届けることができました。

評価

C

事業番号	10				
款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育振興費
事業名	事務局教育振興事業	継続		主管課	教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる			
	単位施策	「生きる力」を育む教育の充実			
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度
予算額	17,217,000	12,446,000	国 費	0	0
うち繰越	0	0	県 費	900,880	61,000
決算額	13,931,395	10,132,313	市 債	0	0
うち繰越	0	0	その他	0	0
執行率(%)	80.9	81.4	一般財源	13,030,515	10,071,313
80%以下の理由			その他の内訳(26年度)		
事業コスト			事業費	人件費(1.13人役)	計
決算額			13,931 千円	8,442 千円	22,373 千円
市民1人当たり(39,982人)			348 円	211 円	559 円
児童生徒一人当たり(3,385人)			4,116 円	2,494 円	6,610 円
<b>事業の目的および内容</b>					
<p>(1)特色ある学校づくり事業を進め、地域に根ざした学校づくりを進めます。</p> <p>(2)いじめの防止、早期解決のための体制を強化するために、いじめ等対応支援員の配置、いじめ問題専門委員会、いじめ問題調査委員会の設置を行います。</p> <p>(3)就学指導委員会を設け、障がいのある幼児・児童・生徒の適切な就学先等の協議を行います。</p> <p>(4)通常学級在籍の障がいのある児童に対して、週1～2時間程度指導を行う通級指導教室を開催し、個々の児童の課題に応じた指導を行います。</p> <p>(5)特別支援教育総合推進事業を実施し、相談員が市内保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校を巡回し、障がいのある幼児・児童・生徒への支援の方法等の助言・相談を行います。また、教師志望の学生を配置し、支援を行います。</p> <p>(6)免許外指導等を解消するために中学校へ専門教科を指導する非常勤講師を派遣し、充実した学習指導を行います。</p> <p>(7)伊吹山へ登ろう事業や森林環境学習「やまのこ」事業などを行い、体験活動の充実に努めます。</p>					
<b>事業の実績</b>					
<p>(1)特色ある学校づくり事業 保護者や地域の人々の持つ豊かで専門的な力を取り入れ、様々な自然環境や文化的環境を教材にした地域に根ざした特色ある学校づくりを米原市内全小中学校で進めました。環境をテーマにした学習やトップアスリートを招へいしての体育学習、地域人材を活用した部活動支援等を行いました。 特色ある学校づくり支援事業 2,961,000円(市内全小中学校16校で実施)</p> <p>(2)いじめ対策関係事業 いじめ等対応支援員を配置し、いじめ問題専門委員会等を開催することによって、いじめ問題の把握、調査、対応等解決に努めました。 いじめ等対応支援員設置(1人) 967,000円 いじめ問題専門委員会開催(3回) 22,440円 いじめ問題調査委員会設置(2回) 86,860円</p> <p>(3)就学指導委員会(8回) 医師や専門的な識見を有する教育、福祉関係者等20人が委員となる就学指導委員会を開催し、障がいのある52人の幼児・児童・生徒について、調査、審議を行い適切な就学先等について答申を出しました(平成25年度対象児童:49人)。 委員報酬 8,000円</p> <p>(4)通級指導教室(かしわばら教室・まいばら教室) 58人の対象児童に対し、発音や発達障がいに関わる支援等、個々の児童の課題に応じた指導を行いました。また、発達検査や教育相談を実施しました(平成25年度対象児童:49人)。 通級指導教室(事務費・教材費等) 870,191円</p>					

**事業の実績**

- (5)特別支援教育総合推進事業として相談員による巡回相談と学生支援員の配置  
 支援が必要な市内保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校の幼児・児童・生徒への支援方法など  
 延べ85回（平成25年度：54回）の巡回による助言・相談等を行いました。また学生支援員により延べ  
 78回（平成25年度：49回）の支援を行いました。  
 就学相談等 53,960円  
 学生支援員報償費 78,000円

- (6)中学校非常勤講師派遣  
 専門教科を指導する非常勤講師を派遣し、学習指導の充実に努めました。  
 中学校非常勤講師（13人） 5,494,674円

- (7)伊吹山に登ろう事業  
 地域の誇りである伊吹山登山の体験学習を実施しました。 85,374円



▲伊吹山に登ろう事業

- (8)森林環境学習「やまのこ」事業  
 森林への理解と関心を深めるとともに、人と豊に関わる力を育むため、森林環境学習施設および  
 その周辺森林で体験型の学習を実施しました。  
 バス借上料 1,036,836円  
 事前事後学習消耗品 99,880円



▲森林環境学習「やまのこ」事業

**評価の内容**

- (1)特色ある学校づくり事業により、地域との連携を進め、学力、生活力の向上に努めました。  
 (2)いじめ等対応支援員の配置、いじめ問題専門委員会の実施、いじめ問題調査委員会の設置等  
 によりいじめの未然防止、解決（30件）につなげることができました。  
 (3)就学指導委員会、通級指導教室や相談員による巡回相談により、特別な支援が必要な児童・  
 生徒の個々の課題に応じた指導・支援を行いました。  
 (4)中学校へ専門教科を指導する非常勤講師を派遣し、充実した学習指導の実施に努め、学力向  
 上につなげました。

評価

B

事業番号	11					
款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育振興費	
事業名	継続	教育センター事業			主管課	教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる				
	単位施策	「生きる力」を育む教育の充実				
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度	
予算額	2,331,000	2,611,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	2,152,542	2,044,829	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	0	0	
執行率(%)	92.3	78.3	一般財源	2,152,542	2,044,829	
80%以下の理由	その他の内訳(26年度)					
事業コスト	事業費	人件費(1.83人役)	計			
決算額	2,153千円	13,672千円	15,825千円			
市民1人当たり(39,982人)	54円	342円	396円			
児童生徒当たり(3,385人)	636円	4,039円	4,675円			
事業の目的および内容						
<p>(1)市内の保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校の教職員を対象にした研修を実施し、指導力の向上に努めます。</p> <p>(2)小中学校の児童・生徒の総合学力調査を行い、その結果を踏まえ家庭学習の充実と授業改善を進めます。また、学級集団づくりに関する調査研究、郷土愛に関する調査研究を行います。</p>						
事業の実績						
<p>(1)市内の保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校の教師を対象に、全職員研修1回、若手職員研修、組織リーダー研修、教頭研修などの職層研修を12回、特別支援教育講座、教育法規講座、授業力アップ講座、地域探訪講座、情報教育講座、就学前講座、校園内研究講座などの希望研修を年11回実施し、延べ628人の参加がありました。満足度アンケートでは全講座平均96.4%の肯定的回答を得ました。 教育センターおよび各部研修会講師謝礼 242,750円</p> <p>(2)小中学校の児童・生徒の総合学力調査を5月に実施し、その分析結果を基に、指導法の工夫改善に関する実践研究を行いました。また、学級集団づくりに関する調査を行い、学力との関係を明らかにしました。さらに、平成28年度の改訂発行を目指し、社会科副読本「わたしたちの米原市」に準拠したワークシートを作成し、各校に配布しました。そして、それらの成果を調査研究発表大会において発表し、研究紀要にまとめました。 調査研究発表大会：平成27年2月18日(会場：ルッチプラザ) 参加人数：122人 学力状況調査委託料 938,350円</p> <p>(3)教育資料の作成に関する事業 米原市教育センターだより「はぐくみ」 研究紀要「米原教育」 研究論文集の発行 印刷製本費 357,285円</p> <p>(4)その他 各教育関係部会補助金および負担金 489,731円</p>						
評価の内容					評価	
<p>(1)教師力の向上を目指して、市内保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校の教職員に各種研修・講座を開催し、今日的課題に即した実践的な研修を行いました。</p> <p>(2)総合学力調査は、基礎的な学力の定着、思考力・判断力・表現力の育成を目指すための基礎資料として活用することができました。</p> <p>(3)教職員の専門性、指導力の向上を目標に調査研究部会(3部会)を開催しました。 部会では、学力向上に向けての授業改善、よりよい学級集団づくり、副読本の活用を通じた郷土愛の醸成に努めました。</p> <p>(4)教育研究奨励事業として93点(平成25年度：85点)の研究論文(個人・グループ・校園研究)の応募があり、自主的な教育研究への意識の高さが伺えました。</p>					B	

事業番号	12																
款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育振興費												
事業名	継続	子どもサポートセンター事業			主管課	教育委員会 学校教育課											
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち															
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる															
	単位施策	「生きる力」を育む教育の充実															
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度												
予算額	37,697,000	25,726,000	国 費	0	0												
うち繰越	0	0	県 費	480,000	413,000												
決算額	36,921,092	25,263,111	市 債	0	0												
うち繰越	0	0	その他	0	0												
執行率(%)	97.9	98.2	一般財源	36,441,092	24,850,111												
80%以下の理由	その他の内訳(26年度)																
<table border="1"> <tr> <td>事業コスト</td> <td>事業費</td> <td>人件費(1.50人役)</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>決算額</td> <td>36,921千円</td> <td>11,207千円</td> <td>48,128千円</td> </tr> <tr> <td>市民1人当たり(39,982人)</td> <td>923円</td> <td>280円</td> <td>1,203円</td> </tr> </table>						事業コスト	事業費	人件費(1.50人役)	計	決算額	36,921千円	11,207千円	48,128千円	市民1人当たり(39,982人)	923円	280円	1,203円
事業コスト	事業費	人件費(1.50人役)	計														
決算額	36,921千円	11,207千円	48,128千円														
市民1人当たり(39,982人)	923円	280円	1,203円														
<b>事業の目的および内容</b>																	
<p>市内小中学校に子どもケアサポーターやスクーリングケアサポーターの配置、適応指導教室の開設、教育相談の充実により、発達障がい等、特別な支援が必要な児童生徒の個々の課題に応じた対応を行うとともに、不登校児童・生徒の学校、学級復帰に向けた支援をします。</p>																	
<b>事業の実績</b>																	
<p>(1)学校への子どもケアサポーター派遣 子どもケアサポーター20人を市内9小学校、6中学校に派遣しました。2人のスクーリングケアサポーターを3小学校に年間227回(886時間)派遣しました。 ①特別な支援が必要な児童生徒205人(平成25年度:209人)に個々の課題に応じた、きめ細かな指導支援を行いました。 ②不登校傾向のある児童生徒に対して学力や生活力の向上に向けての支援を行いました。</p> <p>賃金 34,629,778円 需用費 100,879円 役務費 16,685円</p> <p>(2)不登校児童・生徒に対する適応指導教室の運営 適応指導教室では、6人の入級児童生徒と2人の体験入級生徒を2人の指導員が週3回、年間120回の指導を行いました。1人が在籍校へ復帰、5人が放課後登校できるようになりました。さらに、適応指導教室支援員による学校訪問を実施し、相談・指導・支援等を行いました。また、適応指導教室への通級希望者のため体験活動を実施しました。</p> <p>賃金 1,819,250円 需用費 41,872円 役務費 38,248円</p> <p>(3)児童・生徒の心の安定を図る教育相談 こころの教育相談事業では、心理判定職員(臨床心理士)1人が4会場(セラピールーム:山東庁舎と3公民館)において、年間相談延べ回数269回、39件の児童生徒や保護者、関係する教職員の相談を受けました。</p>																	
<b>評価の内容</b>					評価												
<p>(1)特別な支援を必要とする児童・生徒や不登校による別室登校の児童・生徒への個別支援をすることにより、心の安定を図り学習課題に意欲を持って取り組む姿が見られるようになりました。</p> <p>(2)不登校傾向の児童・生徒の保護者と学校、適応指導教室指導員、心理判定員との連携や相談を密にすることにより、適応指導教室への通所や在籍校への復帰、放課後登校等の成果が見られました。また、適応指導教室における体験活動は、児童・生徒の自立を助けるための有効な活動となりました。</p> <p>(3)児童・生徒の不登校、うつ状態等の様々な心配について相談対応し、引きこもりの改善、再登校、症状の緩和、保護者の安定といった成果が見られました。</p>					B												

事業番号	13				
款	10 教育費	項	2 小学校費	目	1 学校管理費
事業名	小学校管理運営事業			主管課	教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる			
	単位施策	子どもを支える教育環境の充実			
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度
予算額	74,879,000	69,882,000	国 費	0	0
うち繰越	0	0	県 費	0	0
決算額	71,595,685	65,151,397	市 債	0	0
うち繰越	0	0	その他	1,037,000	1,076,820
執行率(%)	95.6	93.2	一般財源	70,558,685	64,074,577
80%以下の理由	<b>その他の内訳(26年度)</b> 小学校共済掛金保護者負担金 917,700円 小学校施設使用料 119,300円				
<b>事業コスト</b>		<b>事業費</b>	<b>人件費(0.30人役)</b>	<b>計</b>	
決算額		71,596 千円	2,241 千円	73,837 千円	
市民1人当たり (39,982人)		1,791 円	56 円	1,847 円	
児童1人当たり (2,139人)		33,472 円	1,048 円	34,520 円	
<b>事業の目的および内容</b>					
(1)市内9小学校の児童が安全・安心で質の高い教育を受けられるよう、適切な学校管理を行うとともに、児童が健やかに学校生活を過ごせるように児童、教職員の健康管理を行います。 (2)校長は学校評議員の意見を参考にして、地域や社会に開かれた学校づくりを一層推進し、地域に根ざした特色ある学校づくりを進めます。					
<b>事業の実績</b> ※小学校児童数 2,139人(平成26年5月1日現在・・・学校基本調査基準日)					
(1)一般管理 小学校の児童が安全・安心で質の高い教育を受け入れられるよう、適切な学校管理を行いました。 ①学校評議員報酬(45人) 440,000 円 ②光熱水費 36,888,336 円 ③通信運搬費 2,666,828 円 ④葉刈り、剪定、雪つりなどの委託料 604,880 円 ⑤事務機器使用料 1,335,443 円 ⑥学校用務員賃金 10,778,691 円 (正規用務員の配置のない柏原小、山東小、大原小、伊吹小、春照小、米原小、河南小、息長小に配置)					
(2)健康管理 小学校の児童が健やかに学校生活を過ごせるように児童、教職員の健康管理を行いました。 ①児童・教職員健康診断業務委託 3,130,920 円 ②校医、歯科医、薬剤師報酬 3,891,480 円 ③日本スポーツ振興センター共済掛金 2,011,090 円 ④結核、心臓精密検査 5,314 円 ⑤飲料水検査(年1回) 52,097 円					
<b>評価の内容</b>					評価
(1)各学校施設、設備の適切な管理運営に努めました。 (2)児童の健やかな学校生活の基礎となる健康診断を児童、教職員に実施し、健康管理に努めることができました。 (3)学校評議員研修会を開き、学校と家庭・地域との連携の在り方について協議を行いました。また、学校評議員制度によって、校長が地域の声を的確に把握しながら学校運営を行うことができました。					C

事業番号	14				
款	10 教育費	項	2 小学校費	目	2 教育振興費
事業名	継続 小学校教育振興事業	主管課			教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる			
	単位施策	「生きる力」を育む教育の充実			
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度
予算額	41,423,000	43,077,000	国 費	1,398,000	4,200,000
うち繰越	0	0	県 費	0	0
決算額	40,080,821	41,833,240	市 債	0	0
うち繰越	0	0	その他	290,000	0
執行率(%)	96.8	97.1	一般財源	38,392,821	37,633,240
80%以下の理由	その他の内訳(26年度) まいばらガンバレ!ふるさと応援寄付金基金 繰入金 290,000円				
事業コスト	事業費	人件費(0.59人役)	計		
決算額	40,081千円	4,408千円	44,489千円		
市民1人当たり(39,982人)	1,002円	110円	1,112円		
児童1人当たり(2,139人)	18,738円	2,061円	20,799円		
<b>事業の目的および内容</b>					
<p>(1)市内9小学校の児童に対して、地域の人材を活用した教育活動や修学旅行、校外活動などの様々な体験活動、国際理解協力員による国際理解教育の充実を図り、「生きる力」の育成に努めます。</p> <p>(2)より良い学習環境を整えるため、教材の整備に努めます。</p>					
<b>事業の実績</b>					
<p>(1)修学旅行や校外活動に対する補助等を行い、教育の振興に努めました。 修学旅行、校外活動補助金 1,760,340円</p> <p>(2)市内の小学校に国際理解教育協力員(4人)を配置し、外国の言語や文化に関心が持てるような学習活動を展開するなど、外国語活動、国際理解教育の推進を図りました。 国際理解教育推進事業 17,362,667円</p> <p>(3)より良い学習環境を整えるため教材備品を購入しました。 また、理科備品については国庫補助を受け充実を図りました。 (理科備品の全国平均充足率52.3% 米原市立小学校平均充足率44.4%) 理科教材備品 2,796,591円 教育振興備品 2,493,758円</p> <p>(4)各学校の教育目標を達成するために、学校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度を実施し、学校の状況に応じた執行が可能となりました。 授業力向上を目的とした書画カメラ・プロジェクター等のICT機器の導入や先進地研修、体力向上を目的とした10分間運動のための体育備品整備等各校の実状や教育目標に合わせた取組を全ての小学校で実施しました。 学校経営予算制度 2,844,131円</p> <p>(5)各小学校教育振興費 校内研究会、総合学習、スキー教室など講師謝礼 241,000円 消耗品費(教材プリント用印刷用紙、理科実験用消耗品等) 10,267,026円 バス借上料、土地借上料 14,000円 児童用図書 1,586,366円</p>					
					
					▲校外活動の様子
<b>評価の内容</b>					評価
<p>(1)教育活動を充実するための必要な経費の支出や補助を行うことで、各校の教育目標の実現に向けた取組を展開することができました。今年度新たに学校経営予算制度を導入したことで、より各学校の実状に応じた環境改善、校長の学校運営方針に沿った取組ができました。</p> <p>(2)国際理解教育協力員により、5年生・6年生の外国語活動に加え、1年生から4年生までの外国語活動を行い、児童の外国語や異文化に対する理解を深めることができました。</p>					B

事業番号	15					
款	10 教育費	項	3 中学校費	目	1 学校管理費	
事業名	継続	中学校管理運営事業			主管課	教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる				
	単位施策	子どもを支える教育環境の充実				
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度	
予算額	56,123,000	52,964,000	国費	0	0	
うち繰越	0	0	県費	0	0	
決算額	51,436,945	49,568,596	市債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	1,358,020	1,345,850	
執行率(%)	91.7	93.6	一般財源	50,078,925	48,222,746	
80%以下の理由			その他の内訳(26年度) 中学校共済掛金保護者負担金 529,920円 中学校施設利用料 828,100円			
事業コスト		事業費	人件費(0.30人役)	計		
決算額		51,437千円	2,241千円	53,678千円		
市民1人当たり(39,982人)		1,287円	56円	1,343円		
生徒1人当たり(1,246人)		41,282円	1,799円	43,081円		
事業の目的および内容						
<p>(1)市内7中学校の生徒が安全・安心で質の高い教育が受けられるよう、適切な学校管理を行うとともに、子どもたちが健やかに学校生活を過ごせるよう生徒・教職員の健康管理を行います。</p> <p>(2)校長は学校評議員からの意見や意向を参考にして、地域や社会に開かれた学校づくりを一層推進し、地域に根ざした特色ある学校づくりを進めます。</p>						
事業の実績 ※中学校生徒数 1,246人(平成26年5月1日現在・・・学校基本調査基準日)						
<p>(1)一般管理 中学校の生徒が安全・安心で質の高い教育を受けられるよう、適切な学校管理を行いました。</p> <p>①学校評議員報酬(30人) 320,000円 ②光熱水費 21,309,290円 ③通信運搬費 2,238,866円 ④葉刈り、剪定などの委託料 635,046円 ⑤事務機器使用料 1,205,765円 ⑥学校用務員賃金 6,758,100円 (正規用務員の配置のない柏原中、東草野中、伊吹山中、河南中、双葉中に配置) ⑦臨時事務職員賃金(東草野中に配置) 1,666,800円</p> <p>(2)健康管理 中学校の生徒が健やかに学校生活を過ごせるように生徒、教職員の健康管理を行いました。</p> <p>①生徒・教職員健康診断業務委託 3,345,516円 ②校医、歯科医、薬剤師報酬 2,514,960円 ③日本スポーツ振興センター共済掛金 1,170,140円 ④結核、心臓精密検査 113,314円 ⑤飲料水検査(年1回) 40,500円</p>						
事業の成果					評価	
<p>(1)各学校施設、整備の適切な管理運営に努めました。</p> <p>(2)生徒の健やかな学校生活の基礎となる健康診断を生徒、教職員に実施し、健康管理に努めることができました。</p> <p>(3)学校評議員研修会を開き、学校と家庭・地域との連携の在り方について協議を行いました。また、学校評議員制度によって、校長が地域の声を的確に把握しながら学校運営を行うことができました。</p>					C	

事業番号	16				
款	10 教育費	項	3 中学校費	目	2 教育振興費
事業名	中学校教育振興事業			主管課	教育委員会 学校教育課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる			
	単位施策	「生きる力」を育む教育の充実			
事業費（円）	26年度	25年度	財源内訳（円）	26年度	25年度
予算額	44,495,000	41,298,000	国 費	1,604,000	3,425,000
うち繰越	0	0	県 費	450,000	617,000
決算額	43,294,581	39,482,074	市 債	0	0
うち繰越	0	0	その他	9,861,000	11,043,000
執行率（％）	97.3	95.6	一般財源	31,379,581	24,397,074
80%以下の理由	その他の内訳（26年度） 滋賀県市町村振興協会市町交付金 9,571,000円 まいばらガンバレ！ふるさと応援寄付金基金 繰入金 290,000円				
事業コスト	事業費	人件費（1.02人役）	計		
決算額	43,295千円	7,620千円	50,915千円		
市民1人当たり（39,982人）	1,083円	191円	1,274円		
生徒1人当たり（1,246人）	34,747円	6,116円	40,863円		
<b>事業の目的および内容</b>					
(1)市内7中学校の生徒に対して、地域人材を活用した教育活動や修学旅行、校外活動等の様々な体験活動、部活動の公式大会参加に対して補助等を行い、「生きる力」の育成に努めます。 (2)より良い学習環境を整えるため、教材の整備に努めます。					
<b>事業の実績</b>					
(1)修学旅行、校外活動および部活動の公式大会参加に対する補助等を行い、教育の振興に努めました。 修学旅行、校外活動補助金、生徒派遣補助金 6,839,220円					
(2)市内の中学校に外国語指導助手（4人）を配置し、外国の言語や文化に関心が持てるような学習活動を展開するなど英語学習の推進を図りました。 外国語指導助手配置事業 17,703,305円					
(3)より良い学習環境を整えるため教材備品を購入しました。 国庫補助を受け理科備品の充実を図りました。 (理科備品の全国平均充足率30.4% 米原市立小学校平均充足率23.5%) 理科教材備品 3,209,652円 教育振興備品 1,703,443円					
(4)各学校の教育目標を達成するために学校長に一定の予算執行権限を設けた学校経営予算制度を実施し、学校の状況に応じた執行が可能となりました。 授業力向上を目的とした書画カメラ・タブレット端末・電子黒板機能付きプロジェクター等ICT機器の導入、体力向上を目的とした体育備品整備等各校の実状や教育目標に合わせた取組を全ての中学校で実施しました。 学校経営予算制度 2,029,690円					
(5)各中学校教育振興費 総合学習、校内研究会など講師謝礼 159,000円 消耗品費（教材プリント用印刷用紙、理科実験消耗品等） 8,308,658円 生徒用図書 1,287,672円					
(6)その他主な経費 東草野中学校休校記念イベント 450,000円 子ども輝き人権教育推進事業 230,000円（地域ぐるみ人権教育推進 米原・河南学区） 中学2年生職場体験活動キャリア教育経費 616,618円					
<b>評価の内容</b>					評価
(1)教育活動を充実するための必要な経費の支出や補助を行うことで、各校の教育目標の実現に向けた取組を展開することができました。今年度新たに学校経営予算制度を導入したことで、より各学校の実状に応じた環境改善、校長の学校運営方針に沿った取組ができました。 (2)外国語指導助手により、生徒の外国語や異文化に対する理解を深めることができました。					B



▲東草野休校記念イベント

事業番号	17					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	
事業名	継続	社会教育総務管理事業			主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
	基本施策	人生を豊かにする学びを活かせるまちをつくる				
	単位施策	学びを活用できる環境づくりの推進				
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度	
予算額	466,000	421,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	328,721	219,791	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	0	0	
執行率(%)	70.5	52.2	一般財源	328,721	219,791	
80%以下の理由	公用車の相乗り等、職員等の社会教育関係の出張旅費抑制に努めたため。		その他の内訳(26年度)			
事業コスト	事業費	人件費(0.60人役)	計			
決算額	329千円	4,483千円	4,812千円			
市民1人当たり(39,982人)	8円	112円	120円			
事業の目的および内容						
<p>(1)社会教育行政に対して専門家および市民の意見を取り入れるため、社会教育委員会議を開催します。</p> <p>(2)社会教育関係の研究会、団体等の研修に参加することで職員等の資質向上に努めます。</p> <p>(3)家庭の教育力を向上させるため、家庭教育リーフレット、広報まいばら、伊吹山テレビなどを活用し、市全域に啓発を行います。</p>						
事業の実績						
<p>(1)家庭の教育力向上事業</p> <p>①家庭教育リーフレットの内容検討・作成 家庭の教育力の向上を図るため、社会教育委員会議と庁内ワーキングチームが連携し、家庭教育リーフレットを作成しました。5,000部作成 家庭教育フォーラム、学校のPTA総会、子育て世代対象講演会や講座等で配布</p> <p>②家庭の教育力向上講演会 『子どもの笑顔をみるために ～地域で子どもを育む方策・取組について～』 講師 mottoひょうご 事務局長 栗木 剛 氏 開催日：11月15日(土) 場所：市民交流プラザ 参加人数：54人参加</p> <p>(2)社会教育委員会議</p> <p>①定例会議の開催(3回) ワークショップ形式を取り入れるなど、会議運営を工夫しました。</p> <p>②テーマ会議の開催(2回) 個別のテーマ(家庭の教育力向上)に絞った会議を開催し、家庭教育リーフレットを作成しました。</p> <p>③本市委員と他市委員の意見交換会や共同研修を行いました。</p> <p>(3)社会教育関係研究大会の事例発表 社会教育関係研究大会で、市内の社会教育関係者に事例発表を行っていただき、米原市の取組を県内外へ発信しました。</p> <p>①近畿地区社会教育研究大会の事例報告 「音楽でまちづくり事業」</p> <p>②滋賀県人権教育研究大会での事例報告 「米原公民館における子どもの人権擁護に注力した事業」</p>						
評価の内容					評価	
<p>(1)重要施策として位置付けた「家庭の教育力向上事業」について、社会教育委員会議と庁内ワーキングチームが連携し、家庭教育リーフレットを作成することができました。</p> <p>(2)市内の社会教育関係者が行っている先進的な取組を県内外へ発信することができました。</p>					B	

事業番号	18					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	
事業名	継続	生涯学習のまちづくり事業			主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
	基本施策	人生を豊かにする学びを活かせるまちをつくる				
	単位施策	学びを活用できる環境づくりの推進				
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度	
予算額	13,496,000	12,524,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	12,696,993	12,243,432	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	988,756	1,020,602	
執行率(%)	94.1	97.8	一般財源	11,708,237	11,222,830	
80%以下の理由			その他の内訳(26年度) 大原生涯学習センター管理経費負担金 988,756円			
事業コスト	事業費	人件費(0.33人役)	計			
決算額	12,697千円	2,465千円	15,162千円			
市民1人当たり(39,982人)	318円	62円	380円			
<b>事業の目的および内容</b>						
(1)市民の生涯学習活動を支援するとともに、学んだ成果を生かして様々な地域課題の解決や豊かなまちづくりに取り組んでいただくための支援に努めます。 (2)市民の生涯学習活動施設である生涯学習センターの維持管理、利用者対応を行います。						
<b>事業の実績</b>						
(1)米原市女性の会活動事業補助 350,000円 女性の社会活動への参加の推進を図るため、米原市女性の会に対し、事業費の補助を行いました。 【主な活動】 グリーンカーテン推進事業としてゴーヤの苗を配布し、省エネ活動の推進に努めました。 障がい者の婚活について、「障がい者の自立を支える会」から講師を招いて研修会を行い、障がい者の出会いから結婚に至るまで支援が必要であることを学びました。 男女共同参画研修会に参加した後、講師との懇談会を開催したり、滋賀県身体障害者福祉協会の皆さんの講演を聞いたりして、交流と研修を行いました。						
(2)まなびサポーター事業 90,000円 学んだ成果を生かし、市民が指導者(支援者)としてまちづくりや人づくりに取り組んでいただく制度の運用を行いました。 まなびサポーター登録総数:133人 利用実績:12回(平成25年度23回 対前年度増減率▲47.8%)						
(3)出前講座事業 市民の依頼に応じて市の職員等が講師となり、市民生活や生涯学習の推進に役立つ情報をお届けしました。 利用実績:246回(平成25年度176回 対前年度増減率+39.8%)						
(4)大原生涯学習センター 1,753,107円 維持管理および施設利用者対応業務を行いました。 利用人数:1,857人(平成25年度1,806人 対前年度増減率+2.8%)						
(5)山東生涯学習センター 指定管理委託料:7,551,000円 指定管理者:タウンルッチ 利用人数:7,184人(平成25年度7,149人 対前年度増減率+0.5%) 事業:貸館業務、施設管理運営 施設の貸館業務や施設の適正な維持管理ができました。						
(6)柏原生涯学習センター 指定管理委託料:2,222,000円 指定管理者:米原市柏原区 利用人数:6,024人(平成25年度6,158人 対前年度増減率▲2.2%) 事業:貸館業務、施設管理運営 施設の貸館業務や施設の適正な維持管理ができました。						
<b>評価の内容</b>					評価	
(1)まなびサポーター事業を展開し、学びを通じた行政との協働のまちづくり、市民が学んだ成果を生かす知の循環型学習環境整備に努めました。 (2)生涯学習センターにおいては、地域住民の身近な学びの場、くつろぎの場として、学びの機会を提供し、利用者に喜んでいただける事業を実施することができました。					C	

事業番号	19				
款	10 教育費	項 5 社会教育費 目 1 社会教育総務費			
事業名	継続 人権教育推進事業	主管課 教育委員会 生涯学習課			
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
	基本施策	一人ひとりが尊重され平和を大切にするまちをつくる			
	単位施策	多様な学習機会の充実			
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度
予算額	1,674,000	1,692,000	国 費	0	0
うち繰越	0	0	県 費	0	0
決算額	1,476,230	1,412,558	市 債	0	0
うち繰越	0	0	その他	245,333	242,666
執行率(%)	88.2	83.5	一般財源	1,230,897	1,169,892
80%以下の理由	その他の内訳(26年度) 人権教育推進協議会等事業費助成金 245,333円				
事業コスト	事業費	人件費(1.35人役)	計		
決算額	1,476千円	10,086千円	11,562千円		
市民1人当たり(39,982人)	37円	252円	289円		
事業の目的および内容					
人権問題の早期解消とともに、人権が尊重されるまちづくりのため、地域ぐるみの教育啓発活動、人材育成活動を推進します。					
事業の実績					
(1)地域人権リーダー研修会 ①ハートフル・フォーラムの説明会を兼ねて平成26年度のテーマ「意識と人権」「同和問題」に沿った内容の研修会を開催しました。 開催日：7月9日(水) 場所：市民交流プラザ 参加人数：227人(平成25年度 238人) 内容：平成26年度テーマに関するビデオ視聴、ハートフル・フォーラム事例発表					
(2)米原市人権教育推進協議会活動事業費補助および事業推進を行いました。 ①活動事業費に対する補助 1,381,958円 ②きらめき人権講座(4回シリーズ)の開催					
開催日	テーマ	講師	場所	参加人数	
7月18日(金)	「私たちと人権 ～互いに笑顔でくらす社会を～」	白井 俊一氏	米原公民館	52人	
8月20日(水)	「意識の変化 家族の変化 社会の変化 ～なぜ? 男女の壁～」	高橋 啓子氏	人権総合センター	53人	
9月25日(木)	「明るいまちづくりと人権」	平塚 敏行氏	人権総合センター	68人	
11月15日(土)	「子どもの笑顔を見るために ～地域で子どもを育む方策・取組について～」	栗木 剛 氏	市民交流プラザ	54人	
③ハートフル・フォーラムの自治会での開催 基本テーマ 「意識と人権」「同和問題」 ハートフル・フォーラムが各自治会で開催されました。 87自治会で開催(開催率：81.3%) 2,806人(平成25年度 82自治会、1,565人)					
④人権を考えるつどい(人権政策課と共催) 「人が人を はぐくみ つながり 認めあう」 講師：落合 恵子氏 開催日：11月9日(日) 場所：米原公民館 参加人数：350人					
評価の内容					評価
(1)地域リーダー研修会や講座に、多くの方に参加していただくことができました。 (2)多くの自治会で、ハートフル・フォーラムを開催していただき、人権意識の向上を図ることができました。					C

事業番号	20				
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費
事業名	地域人材育成事業	継続		主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
	基本施策	人生を豊かにする学びを活かせるまちをつくる			
	単位施策	学びの場づくりの推進			
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度
予算額	945,000	1,061,000	国 費	0	0
うち繰越	0	0	県 費	0	0
決算額	871,850	749,495	市 債	0	0
うち繰越	0	0	その他	154,000	292,000
執行率(%)	92.3	70.6	一般財源	717,850	457,495
80%以下の理由			その他の内訳(26年度) 社会教育事業関係受講料 154,000円		
事業コスト	事業費	人件費(0.60人役)	計		
決算額	872千円	4,483千円	5,355千円		
市民1人当たり(39,982人)	22円	112円	134円		
学生1人当たり(31人)	28,129円	144,613円	172,742円		
<b>事業の目的および内容</b>					
<p>まちづくりリーダーの人材育成を図り、協働のまちづくりを推進するため、“個人の学習成果をまちづくりに生かす”をコンセプトとしたまちづくり市民大学「ルッチ大学」および「ルッチ大学院」を開講します。</p>					
<b>事業の実績</b>					
<p>(1)ルッチ大学(7期生)【18回開講】</p> <p>①まなびの深化 カリキュラムに基づき、各分野から実践型の講師を招き、現代の社会問題や、地域課題等をテーマとした講義のほか、まちづくり実践現場における現地研修を継続して行いました。</p> <p>②実践的事例研究の始動 1年目で蓄積した知見を原動力として、2年目はグループ編成を行い、実践的事例の調査研究、テーマの絞り込みを実施しました。</p> <p>(2)ルッチ大学院(6期生)【13回開講】</p> <p>①ゼミを中心とした講義 大学の2年間で学んだ成果や実践経験に基づき、研究をより深めました。</p> <p>②現地フィールドワークの実施 まちづくりの現場は地域であるという問題意識から、多くの現地フィールドワークを実施しました。</p> <p>③実践活動の実施 放課後児童クラブへの出前事業、市内イベントでのブース設置等、実践の場を多く設けました。卒業生・現役生によるイベントの支援も行いました。</p> <p>(3)公開講座の開催 兵庫県篠山市で古民家を中心とした活動を展開するまちづくり団体代表の加古佳代子氏による講演会を開催し、ルッチ大学を広く知ってもらうこと、成果の市民への還元、卒業生ネットワーク構築強化の場となりました。</p> <p>(4)ルッチみらい会議(ルッチ大学運営会議)の設立 ルッチ大学の卒業生は200人を越え、その多くが何らかの形でまちづくり活動・社会貢献に携わっています。これら卒業生、関係者の力を結集して、次代の「まちづくりリーダー」を育成する大学運営を企図してルッチみらい会議を設立しました。</p>					
<b>評価の内容</b>					評価
<p>(1)大学運営の多くの場で、講師のコーディネート、公開講座のプラン作成などの具体的な形で卒業生の参画を得ることができました。</p> <p>(2)事業効果を更に高め、次代を担っていく人材を輩出するため、卒業生を中心としたルッチみらい会議を設立し、市民の手による大学運営に向けた動きをスタートすることができました。</p>					B

事業番号	21					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費	
事業名	継続	文化のまちづくり事業			主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
	基本施策	誰もが文化・芸術・スポーツを楽しみ健やかに暮らせるまちをつくる				
	単位施策	市民文化活動への支援				
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度	
予算額	4,317,000	3,441,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	4,047,994	3,300,959	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	230,500	123,000	
執行率(%)	93.8	95.9	一般財源	3,817,494	3,177,959	
80%以下の理由	その他の内訳(26年度) 市展出品参加料 130,500円 下倉祺世基金繰入金 100,000円					
事業コスト	事業費	人件費(0.80人役)	計			
決算額	4,048 千円	5,977 千円	10,025 千円			
市民1人当たり(39,982人)	101 円	149 円	250 円			
<b>事業の目的および内容</b>						
<p>(1)芸術を創造し、鑑賞する喜びを享受し、文化の薫り高いまちづくりを目指して、米原市芸術展覧会を開催します。</p> <p>(2)市民の芸術文化の振興を図るため、米原市文化協会の活動事業に対する支援を行います。</p>						
<b>事業の実績</b>						
<p>(1)米原市芸術展覧会の開催 880,894円</p> <p>①芸術展覧会運営委員会の開催 計3回</p> <p>②美術部門展覧会 会期：10月11日(土)～18日(日) 場所：市民交流プラザ 出品数：絵画部門 66点、彫刻・工芸部門 32点 書部門 27点、写真部門 125点、 合計 250点(うち市内在住者出品数 93点)(平成25年度 331点)</p> <p>③音楽部門最終審査発表会 開催日：12月7日(日) 場所：市民交流プラザ 出品数：96点(うち市内在住者出品数 87点)(平成25年度 98点)</p> <p>(2)音楽でまちづくり事業委託業務 723,600円</p> <p>①作詞・作曲教室の実施 米原小学校6年生クラス、河南小学校6年生クラスにて実施</p> <p>②音楽部門最終審査発表会への出品 出品数：85点</p> <p>(3)米原市文化協会事業補助金 2,443,500円</p> <p>①米原市文化協会 会員数：1,407人、団体数：106団体(平成26年4月1日現在)</p> <p>②各支部支援事業 4支部の活動に対して補助し、旧町単位ごとの4公民館で文化祭を開催しました。</p> <p>③部会交流事業 支部単位にとらわれない交流事業として、芸能発表会、交流作品展、交流研修会を開催しました。</p> <p>④機関誌「天ノ川」の発行 機関誌を全戸配布し、文化協会所属団体の活動内容を紹介しました。</p>						
<b>評価の内容</b>					評価	
<p>(1)芸術展覧会については、全体で前年度比4.5%増、市内在住者では5.9%増の出品があり、米原市芸術展覧会の定着化、市民の創作活動の活性化を促すことができました。</p> <p>(2)文化協会においては、各地域における文化祭の開催や部会間交流事業などを行い、米原市の文化振興に貢献することが出来ました。</p>					C	

事業番号		22	
款	10 教育費	項	5 社会教育費
目	1 社会教育総務費		
事業名	継続	文化芸術振興施設管理運営事業	主管課
		教育委員会 生涯学習課	
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち	
	基本施策	誰もが文化・芸術・スポーツを楽しみ健やかに暮らせるまちをつくる	
	単位施策	文化芸術の振興	
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)
予算額	71,775,000	102,168,000	国 費
うち繰越	0	0	県 費
決算額	64,842,214	98,735,486	市 債
うち繰越	0	0	その他
執行率(%)	90.3	96.6	一般財源
80%以下の理由			その他の内訳(26年度)
			施設等使用料 2,121,620円
			ラウンジ共益費 20,700円
			施設管理経費負担金 4,392,984円
			自主事業入場料 3,663,397円
			その他諸収入 370,819円
事業コスト		事業費	人件費(1.46人役)
決算額		64,842千円	10,908千円
市民1人当たり(39,982人)		1,622円	273円
計			
75,750千円			
事業の目的および内容			
(1)市民交流プラザ(ルッチプラザ)は市民の文化活動、生涯学習、健康福祉サービスを通じて様々な交流ができる市民協働活動の拠点施設としての機能の充実を目指し、自主事業および貸館業務の質的向上に努めます。			
(2)ベルホール310は県内屈指の音楽専門ホールであり、文化情報の発信拠点として重要な地域資源であるという認識の下、地域の音楽文化の向上を目指し、プラスクリニック、ピアノコンクールや自主公演などを企画、実施します。			
(3)市民交流プラザの施設や設備の適切な維持管理に努め、経年劣化に伴う設備の改修や修繕を行い、利用者の利便性の向上を図ります。			
事業の実績			
市民交流プラザ(ルッチプラザ)の管理運営および自主企画事業を実施しました。			
(1)管理運営			
①	臨時職員賃金(3人分)	4,152,375円	
②	燃料費、光熱水費(電気、ガス、水道、下水道代)	22,567,002円	
③	管理委託料(清掃、機械設備保守点検、夜間管理代行)	11,253,332円	
④	公演委託料	9,938,000円	
⑤	修繕費	783,702円	
⑥	その他(印刷、通信運搬費、使用料、補助金など)	3,665,552円	
(2)自主事業(公演事業)			
①	年間23回の事業実施(平成25年度19回)	入場者数:4,948人(平成25年度4,497人)	
②	入場料収入	3,663,397円(平成25年度3,196,615円)	
No.	開催日	イベント名	入場者数
1	4/6(日)	第27回 りれーピアノ発表会	81人
2	4/27(日)	大友剛「絵本とマジックと音楽の世界」(共催)	227人
3	5/11(日)	ひこね第九オーケストラ音楽アンサンブル(共催)	119人
4	5/25(日)	田島茂代&森靖博ジョイントコンサート(共催)	190人
5	6/14(土)	奥華子コンサートツアー2014弾き語り君と僕の道(共催)	315人
6	7/13(日)	ロザンのお笑い課外授業【完売】	369人
7	8/2(土)	じゃんぐるっち	約500人
8	8/6(水)	ファーストクラシックコンサート(2回公演)	332人
9	8/20(水),21(木)	プラスクリニック	70人
10	8/22(金)	プラスクリニック&コンサート(成果発表)	210人
11	8/31(日)	栗コーダーカルテットコンサート	292人
12	9/4(木),5(金)	体験教室アウトリーチ(4回実施)(公共ホール音楽活性化事業)	163人
13	9/6(土)	前田啓太パーカッションワールド(公共ホール音楽活性化事業)	67人

**事業の実績**

No.	開催日	イベント名	入場者数
14	10/26(日)	第4回ルッチプラザピアノコンクール1次審査	65人
15	11/23(日)	第4回ルッチプラザピアノコンクール本選	58人
16	11/24(月)	ピアノコンクール 金子三勇士による公開レッスン	15人
17	12/14(日)	国府弘子スペシャルトリオwith小松亮太クリスマスコンサート	153人
18	1/11(日)	オペラ「カルメン」ハイライト(共催)	241人
19	1/17(土)	金子三勇士によるピアノコンサート共演者公開リハーサル	33人
20	1/18(日)	金子三勇士ピアノコンサート	173人
21	1/24(土)	NHKラジオ放送公開録音 民謡をたずねて(共催)	353人
22	2/22(日)	生バンド演奏によるカラオケ大会(共催)	約400人
23	3/15(日)	八代亜紀ふれあいコンサート(2回公演)	522人

(3)貸館事業

平成26年度ホール利用件数(貸館) 107回 利用者数(貸館) 17,296人  
 (平成25年度ホール利用件数(貸館) 120回 利用者数(貸館) 13,689人)

(4)平成26年度ルッチプラザ・ベルホール310稼働率

	開館 日数	ホール		スタジオを含む	
		稼働日数	稼働率	稼働日数	稼働率
4月	26	7	26.9%	11	42.3%
5月	27	12	44.4%	15	55.6%
6月	25	7	28.0%	15	60.0%
7月	27	15	55.6%	20	74.1%
8月	27	14	51.9%	18	66.7%
9月	25	6	24.0%	15	60.0%
10月	27	14	51.9%	24	88.9%
11月	26	17	65.4%	22	84.6%
12月	24	12	50.0%	13	54.2%
1月	24	10	41.7%	12	50.0%
2月	24	17	70.8%	19	79.2%
3月	26	9	34.6%	12	46.2%
合計	308	117	38.0%	196	63.6%
平成25年度	307	137	44.6%	147	47.9%

(5)平成26年度ベルホール310サポーターミーティング活動実績

- ①自主事業公演の運営協力
- ②サポーター企画生バンドによるカラオケ大会の企画、実施
- ③「じゃんぐるっち」の企画運営協力。8月2日に全館タイアップの夏祭りイベントとして実施

(6)平成26年度ルッチガーデン活動実績

年間を通じた施設内外の植栽、観葉植物の管理

(7)「じゃんぐるっち」開催

複合施設であるルッチプラザの事業として夏祭り「じゃんぐるっち」を実施しました。警察や消防署の協力を得て地震体験や救急体験コーナーの設置をはじめ、子ども向けのゆるキャラショー、健康推進員の手作りスイーツ配布、映画上映、模擬店、デイスーツセンターのお楽しみコーナーや図書館のウォークラリーなど、全館をあげてのイベントを開催し、市内の親子を中心に夏休みのひとときを過ごす場を提供しました。イベントには、約500人来場いただきました。



「じゃんぐるっち」開催の様子

(8)設備の改修工事

- ①温水ヒーターの老朽化に伴う改修工事 7,226,280円
- ②電話設備の老朽化に伴う改修工事 3,070,440円

**評価の内容**

(1)共催事業を拡充したことで市予算の負担額を抑えて、前年度より多い年間23回の公演事業を行い、集客数を増加させることができました。例年定期的を実施している事業が定着してきたことによって、市内だけでなく市外からの利用者も増えました。こうした取組によって利用者へ広く、文化や芸術に触れる機会を提供し、文化の振興を図ることができました。

(2)運営に当たっては、ベルホール310サポーターミーティング、ルッチガーデンのボランティア組織とともに協働して実施することができました。ルッチプラザの夏祭り「じゃんぐるっち」では、サポーターミーティング以外にも、デイスーツセンター、健康推進員、ルッチ大学生、文化協会所属団体、警察署、消防署、税務署など、各方面からの参画を得て開催することができ、多くの親子連れや地域の子どもたちが来館して、市民交流の場を創出することができました。

評価

B

事業番号	23																
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	1 社会教育総務費												
事業名	継続	伊吹薬草の里文化センター管理運営事業		主管課	教育委員会 生涯学習課												
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち															
	基本施策	人生を豊かにする学びを活かせるまちをつくる															
	単位施策	学びの場づくりの推進															
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度												
予算額	55,390,000	56,918,000	国 費	0	0												
うち繰越	0	0	県 費	0	0												
決算額	55,236,062	56,808,327	市 債	0	0												
うち繰越	0	0	その他	0	0												
執行率(%)	99.7	99.8	一般財源	55,236,062	56,808,327												
80%以下の理由			その他の内訳(26年度)														
<table border="1"> <tr> <td>事業コスト</td> <td>事業費</td> <td>人件費(0.15人役)</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>決算額</td> <td>55,236千円</td> <td>1,121千円</td> <td>56,357千円</td> </tr> <tr> <td>市民1人当たり(39,982人)</td> <td>1,382円</td> <td>28円</td> <td>1,410円</td> </tr> </table>						事業コスト	事業費	人件費(0.15人役)	計	決算額	55,236千円	1,121千円	56,357千円	市民1人当たり(39,982人)	1,382円	28円	1,410円
事業コスト	事業費	人件費(0.15人役)	計														
決算額	55,236千円	1,121千円	56,357千円														
市民1人当たり(39,982人)	1,382円	28円	1,410円														
<b>事業の目的および内容</b>																	
<p>市民の生涯学習やサークル活動を支援するために、研修室、図書室、薬草風呂、薬草園、ジョイホールなどを備えた施設「伊吹薬草の里文化センター」の管理運営について、市民がより利用しやすい施設運営を目指し、指定管理者による施設の運営を行います。</p>																	
<b>事業の実績</b>																	
<p>(1)指定管理者により、施設の管理および各種事業の展開を行いました。  伊吹薬草の里文化センター指定管理委託料 49,579,000円  指定管理者：公益財団法人 伊吹山麓スポーツ文化振興事業団  利用者数：46,604人(平成25年度 43,568人 対前年度増減率+7.0%)  うち ホール：6,024人(平成25年度 7,540人 対前年度増減率▲20.1%)  公民館講座：31種類 延べ120回開講  ホール事業：コンサート事業、子どもだけの映画会 ほか  薬草フェスタ、秋の伊吹文化祭、子どもたちの文化祭、息吹の奏夏まつり、伊吹山音楽祭 ほか  薬草風呂、薬草園、いぶき図書室の管理運営  薬草風呂利用者：36,018人(平成25年度 37,562人 対前年度増減率▲4.1%)</p> <p>(2)施設設備修繕 1,255,867円  設備の不具合箇所を修繕しました。  消防設備点検結果による不良箇所の修繕 594,000円  ハーブラウンジ空調修繕 246,240円  水道漏水修繕 172,800円 ほか</p> <p>(3)改修工事設計  防水改修工事設計業務 864,000円</p> <p>(4)施設改修工事  施設の改修工事を行いました。  水中ポンプ改修工事 3,427,920円</p>																	
<b>評価の内容</b>					評価												
<p>公民館をはじめ、ホール、薬草風呂、いぶき図書室、薬草園などを有した複合施設として、地域の特色を生かし、伊吹山や薬草の里にふさわしい事業を含め、子どもから高齢者まで誰もが参加しやすい幅広い事業を実施することができました。</p>					C												

事業番号	24																				
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 青少年育成費																
事業名	継続	成人式開催事業			主管課	教育委員会 生涯学習課															
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち																			
	基本施策	人生を豊かにする学びを活かせるまちをつくる																			
	単位施策	地域で学ぶ環境づくりの推進																			
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度																
予算額	768,000	738,000	国 費	0	0																
うち繰越	0	0	県 費	0	0																
決算額	716,882	626,456	市 債	0	0																
うち繰越	0	0	その他	0	0																
執行率(%)	93.3	84.9	一般財源	716,882	626,456																
80%以下の理由	その他の内訳(26年度)																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業コスト</th> <th>事業費</th> <th>人件費(0.25人役)</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決算額</td> <td>717千円</td> <td>1,868千円</td> <td>2,585千円</td> </tr> <tr> <td>市民1人当たり(39,982人)</td> <td>18円</td> <td>47円</td> <td>65円</td> </tr> <tr> <td>対象者1当たり(483人)</td> <td>1,484円</td> <td>3,867円</td> <td>5,351円</td> </tr> </tbody> </table>						事業コスト	事業費	人件費(0.25人役)	計	決算額	717千円	1,868千円	2,585千円	市民1人当たり(39,982人)	18円	47円	65円	対象者1当たり(483人)	1,484円	3,867円	5,351円
事業コスト	事業費	人件費(0.25人役)	計																		
決算額	717千円	1,868千円	2,585千円																		
市民1人当たり(39,982人)	18円	47円	65円																		
対象者1当たり(483人)	1,484円	3,867円	5,351円																		
<b>事業の目的および内容</b>																					
新成人の明るい未来と今後の地域貢献を願い、誓い合う機会として成人式を開催します。																					
<b>事業の実績</b>																					
<p>新成人を家族や恩師など関係者が一堂に会して祝福する場として、また今後の人生への希望や決意とともに、郷土愛や社会貢献について認識してもらう場として、成人式を開催しました。</p> <p>新成人者の有志により実行委員会を組織し、企画運営を行いました。</p> <p>実行委員会の開催 3回開催</p> <p>成人式の開催 平成27年1月11日(日) 県立文化産業交流会館</p> <p>対象者数：483人(平成25年度 457人 対前年度増減率+5.7%)</p> <p>参加人数：392人(平成25年度 367人 対前年度増減率+6.8%)</p> <p>参加率：81.2%(平成25年度 80.3% 対前年度増減率+1.1%)</p>																					
<b>式典内容</b> 1 オープニングアトラクション 2 市長式辞 3 来賓祝辞 4 二十歳のメッセージ(新成人代表) 5 思い出のアルバム上映 6 記念写真撮影																					
<b>評価の内容</b>					評価																
新成人者の有志による実行委員会での成人式の企画を行い、当日も実行委員が主になって成人式を開催しました。					C																

事業番号	25					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	3 公民館費	
事業名	継続	公民館管理運営事業			主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
	基本施策	人生を豊かにする学びを活かせるまちをつくる				
	単位施策	地域で学ぶ環境づくりの推進				
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度	
予算額	112,607,000	91,835,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	108,422,900	89,347,942	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	0	0	
執行率(%)	96.3	97.3	一般財源	108,422,900	89,347,942	
80%以下の理由	その他の内訳(26年度)					
事業コスト	事業費	人件費(0.36人役)	計			
決算額	108,423 千円	2,690 千円	111,113 千円			
市民1人当たり(39,982人)	2,712 円	67 円	2,779 円			
<b>事業の目的および内容</b>						
<p>(1)公民館では、地域住民の身近な学びの場として、生涯を通じて学ぶ意欲を持ち、生きがいと潤いのある暮らしを送っていただくために各種事業を行い、地域の活性化を図っています。</p> <p>(2)指定管理者制度を導入し、地域性を生かした使いやすい施設とするため、地域に密着した団体に管理運営を委託します。</p>						
<b>事業の実績</b>						
<p>(1)指定管理者により、各施設の管理および各種事業の展開を行いました。</p> <p>①米原公民館 指定管理委託料 26,927,000円 指定管理者：NPO法人FIELD 利用者数：49,268人(平成25年度 50,006人 対前年度増減率▲1.5%) 事業：親子広場、親子で工作、米原一日遠足、ロビーサロン事業、公民館まつり ほか 【実績】親子で参加できる講座などを開催するとともに、ロビーで講座で作成した作品の発表の場を提供するなど、子どもたちや利用者との交流を深める運営がされました。</p> <p>②近江公民館 指定管理委託料 31,645,000円 指定管理者：NPO法人おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会 利用者数：38,830人(平成25年度 26,811人 対前年度増減率+44.8%) 事業：キッズ布遊び教室、ものづくり教室、和みのヨガ教室、農の匠料理教室 ほか 【実績】子どもを対象とした事業や伝統文化の継承など地域に根ざした特色のある事業を展開するとともに、利用者のニーズに応える講座を開催するなど、柔軟な運営がされました。</p> <p>③山東公民館 指定管理委託料 27,850,000円 指定管理者：NPO法人カモンスポーツクラブ 利用者数：21,874人(平成25年度 22,453人 対前年度増減率▲2.6%) 事業：初めての園芸教室、パソコン講座、ちょいブラ歴史散歩、公民館まつり ほか 【実績】子どもから高齢者まで、参加しやすい様々な講座を開講するとともに、公民館利用団体の学習の成果発表の場を設けるなど、地域学習の交流拠点となる運営がされました。</p> <p>(2)施設設備修繕 571,071円 施設や設備等の不具合箇所を修繕し、利用しやすい施設としました。 米原公民館 駐車場区画線補修 258,120円 近江公民館 ホール空調ダクト修繕 187,920円</p> <p>(3)施設改修工事 21,155,040円 施設の改修工事を行いました。 近江公民館 駐車場整備工事 18,066,240円 近江公民館 防犯カメラ設置工事 859,680円 山東公民館 非常用照明設備改修工事 2,229,120円</p>						
<b>評価の内容</b>					評価	
<p>(1)地域住民の身近な学びの場、くつろぎの場として、学びの機会を提供し、利用者に喜んでいただける事業を実施することが出来ました。</p> <p>(2)指定管理者による施設管理運営により、効率的で効果的な運営ができました。</p> <p>(3)施設の修繕や改修を行ったことにより、利用者の利便性や安全性が高まりました。</p>					C	

事業番号	26					
款	10 教育費	項	6 保健体育費	目	2 体育施設費	
事業名	継続	体育施設管理経費			主管課	教育委員会 生涯学習課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
	基本施策	誰もが文化・芸術・スポーツを楽しみ健やかに暮らせるまちをつくる				
	単位施策	スポーツ環境の整備				
事業費（円）	26年度	25年度	財源内訳（円）	26年度	25年度	
予算額	94,062,000	81,441,000	国 費	0	8,000,000	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	93,525,462	80,568,508	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	26,250	11,825,380	
執行率（％）	99.4	98.9	一般財源	93,499,212	60,743,128	
80%以下の理由			その他の内訳（26年度） 体育施設使用料（ウッドピア） 26,250円			
事業コスト		事業費	人件費（0.68人役）	計		
決算額		93,525 千円	5,080 千円	98,605 千円		
市民1人当たり（39,982人）		2,339 円	127 円	2,466 円		
<b>事業の目的および内容</b>						
<p>(1)市民の心身の健全な発達と文化、体育、スポーツの普及および振興を図るため、市内体育施設において、市民が身近で気軽にスポーツに親しむことができる場を提供します。</p> <p>(2)伊吹第2グラウンドは、民間企業との契約により使用していましたが、市有地とするため用地を購入します。</p>						
<b>事業の実績</b>						
<p>(1)指定管理者に社会体育施設の管理運営を委託しました。</p> <p>①市民体育館、山東グラウンド：NPO法人カモンスポーツクラブ 3,411,000 円  体育館 11,243人（平成25年度 12,277人 対前年度増減率▲8.4%）  グラウンド 14,306人（平成25年度 14,387人 対前年度増減率▲0.6%）</p> <p>②伊吹第1、第2グラウンド：（公財）伊吹山麓スポーツ文化振興事業団 4,110,000 円  第1G 8,147人（平成25年度 8,064人 対前年度増減率+1.0%）  第2G 10,879人（平成25年度 11,733人 対前年度増減率▲7.3%）</p> <p>③米原野球場、すばーく米原：NPO法人MOSスポーツクラブ 5,035,000 円  野球場 2,792人（平成25年度 2,410人 対前年度増減率+15.9%）  すばーく 11,749人（平成25年度 8,733人 対前年度増減率+34.5%）</p> <p>④近江グラウンド：NPO法人おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会 3,620,000 円  グラウンド 5,907人（平成25年度 5,328人 対前年度増減率+10.9%）</p> <p>⑤山東B&amp;G海洋センター：㈱スポーツプラザ報徳 15,150,000 円  体育館 8,642人（平成25年度 10,304人 対前年度増減率▲16.1%）  プール 24,920人（平成25年度 23,618人 対前年度増減率+5.5%）</p> <p>⑥伊吹B&amp;G海洋センター：（公財）伊吹山麓スポーツ文化振興事業団 8,150,000 円  プール 3,227人（平成25年度 4,565人 対前年度増減率▲29.3%）</p> <p>⑦双葉総合体育館：近江スポーツクラブ 11,150,000 円  体育館 14,584人（平成25年度 15,727人 対前年度増減率▲7.3%）</p>						
<p>(2)社会体育施設の維持管理のため、必要な業務を行いました。</p> <p>①施設維持管理委託料（河南中学校ナイター照明保安管理委託） 108,648 円  ②米原地域学校開放施設利用調整等業務委託料 1,750,000 円  ③土地借上料（近江グラウンド 2,295.39㎡） 1,200,000 円  ④光熱水費（河南中学校ナイター照明電気代） 931,797 円  ⑤備品購入（プール清掃用備品購入） 597,240 円</p>						
<p>(3)財産取得（グラウンド用地）  伊吹第2グラウンド用地を購入しました。  春照1852番地、雑種地、9,035㎡ 36,745,345 円</p>						
<b>評価の内容</b>					評価	
指定管理者により体育施設の適切な維持管理が行われ、様々な市民ニーズに合ったスポーツの場の提供ができたことにより、市民相互の交流やスポーツ活動の拠点施設としての役割が果たせました。					B	

事業番号		27																												
款	10 教育費	項	6 保健体育費																											
		目	3 体育振興費																											
事業名	生涯スポーツ推進体制整備事業		主管課																											
			教育委員会 生涯学習課																											
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち																												
	基本施策	誰もが文化・芸術・スポーツを楽しみ健やかに暮らせるまちをつくる																												
	単位施策	スポーツ振興のための支援																												
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)																											
予算額	29,337,000	35,198,000	国 費																											
うち繰越	0	0	県 費																											
決算額	27,887,100	32,815,553	市 債																											
うち繰越	0	0	その他																											
執行率(%)	95.1	93.2	一般財源																											
80%以下の理由			その他の内訳(26年度) 社会体育事業参加費 12,000円																											
事業コスト	事業費	人件費(2.10人役)	計																											
決算額	27,887千円	15,689千円	43,576千円																											
市民1人当たり(39,982人)	697円	392円	1,089円																											
事業の目的および内容																														
<p>(1)市民の健全なスポーツの推進を図るため、スポーツ推進委員によるニュースポーツの指導や地域でのスポーツ活動、出前講座の実施により健康増進を図ります。</p> <p>(2)幅広い世代の市民が、いつでもどこでもスポーツに親しむことができる「生涯スポーツ社会」の実現を目指し、総合型地域スポーツクラブや体育協会をはじめ各種団体が開催する健康、体力づくりの活動やイベントへ支援を行います。</p> <p>(3)平成36年の滋賀国体を見据え、市内の小中学生を対象に、県内外のトップアスリートを招き、高度な技術の習得と選手との交流によりスポーツに親しむ機会づくりに取り組みます。</p> <p>(4)スポーツ基本法に基づく米原市スポーツ推進計画を推進するため、具体的施策の実施、進捗管理、評価を行うため、実施計画を策定します。</p>																														
事業の実績																														
<p>(1)米原市スポーツ推進委員を平成26年4月から2年任期で委嘱し、地域でのスポーツ活動や市内スポーツイベントの企画、運営に活躍いただきました。また、スポーツ推進委員の資質向上、研さんのため各種研修会へ出席いただきました。</p> <p>スポーツ推進委員報酬(委員数:31人) 1,165,298円</p> <p>【主な活動内容】</p> <p>①お気軽スポーツ体験(ニュースポーツ)4地区 総参加者103人(平成25年度135人)</p> <p>②出前講座年間9回実施 総参加者648人(平成25年度678人)</p> <p>③夢高原かつとび伊吹の企画、運営、準備等</p> <p>④いきいき健康ウォークの企画・運営、参加者300人(平成25年度187人)</p> <p>⑤全国、近畿、滋賀県スポーツ推進委員研修会 総参加者23人</p> <p>(2)市民のスポーツの推進を図るため、各スポーツ団体に補助金を交付し活動支援を行いました。</p> <p>①市体育協会(加盟団体数:18団体)市民大会13競技、総参加者1,245人 3,200,212円</p> <p>②市スポーツ少年団(加盟数:21団体、513人)本部主催3事業、参加者434人 2,290,278円</p> <p>③総合型地域スポーツクラブ(市内4クラブ) 2,000,000円</p> <p>④(公財)伊吹山麓スポーツ文化振興事業団 15,260,000円</p>																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th colspan="2">平成26年度</th> <th>平成25年度</th> </tr> <tr> <th>事業数</th> <th>参加者(人)</th> <th>参加者(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>いぶきスポーツクラブ</td> <td>25</td> <td>4,444</td> <td>5,614</td> </tr> <tr> <td>カモンスポーツクラブ</td> <td>20</td> <td>6,804</td> <td>6,949</td> </tr> <tr> <td>MOSスポーツクラブ</td> <td>16</td> <td>3,963</td> <td>2,888</td> </tr> <tr> <td>近江スポーツクラブ</td> <td>21</td> <td>4,316</td> <td>4,418</td> </tr> <tr> <td>(公財)伊吹山麓スポーツ文化振興事業団</td> <td>21</td> <td>2,590</td> <td>2,594</td> </tr> </tbody> </table>				名称	平成26年度		平成25年度	事業数	参加者(人)	参加者(人)	いぶきスポーツクラブ	25	4,444	5,614	カモンスポーツクラブ	20	6,804	6,949	MOSスポーツクラブ	16	3,963	2,888	近江スポーツクラブ	21	4,316	4,418	(公財)伊吹山麓スポーツ文化振興事業団	21	2,590	2,594
名称	平成26年度		平成25年度																											
	事業数	参加者(人)	参加者(人)																											
いぶきスポーツクラブ	25	4,444	5,614																											
カモンスポーツクラブ	20	6,804	6,949																											
MOSスポーツクラブ	16	3,963	2,888																											
近江スポーツクラブ	21	4,316	4,418																											
(公財)伊吹山麓スポーツ文化振興事業団	21	2,590	2,594																											
<p>(3)米原市スポーツ推進計画に掲げる基本方針を推進するため、具体的な施策を実施し、進捗管理、事業評価を行うため、実施計画を策定しました。</p> <p>米原市スポーツ推進審議会 年間2回開催</p>																														

**事業の実績**

- (4)平成36年の滋賀国体を見据え、市内の小中学生を対象に、県内外のトップアスリートを招き、高度な技術の習得と選手との交流によりスポーツに親しむ機会づくりを行いました。  
 トップアスリート交流事業委託（藤田幸光氏のバレーボール教室） 200,000 円  
 （11月2日開催、参加者：スポ少3団体32人、中学校バレー部4校38人、指導者10人）
- (5)幼児を対象にした運動遊びや高齢者の元気塾などでスポーツアドバイザーによる指導、助言を行いました。  
 ①シニア元気塾等への派遣（64回、542人）（平成25年度 72回、498人）  
 ②児童クラブ等への派遣（20回、324人）（平成25年度 55回、1,161人）  
 ③出前講座等への派遣（6回、283人）（平成25年度 10回、631人）
- (6)市民の健全なスポーツの推進を図るため、国際競技大会や国内競技大会に出場する選手に対し、激励金を交付し活動を支援しました。 1,058,000 円  
 平成26年度実績 48件、245人（平成25年度 51件、277人）
- (7)米原市の特性を生かしたスポーツイベントの支援を行いました。  
 ①西日本小学生中学生6人制ホッケー選手権大会 100,000 円  
 （小学生35チーム、中学生56チーム）（平成25年度 小学生45チーム、中学生62チーム）  
 ②国民体育大会ホッケー競技近畿ブロック大会 500,000 円  
 （近畿2府4県の成年男女、少年男女、計24チームが参加）  
 ③いきいき健康ウォーク2014 100,000 円  
 （柏原地先、参加者300人）（平成25年度 187人）  
 ④夢高原かっつび伊吹2014 参加者1,231人、完走者1,053人 490,618 円  
 （平成25年度は悪天候により中止）
- (8)親子のふれあいと体力の向上を図るため、親子カヌー体験事業を米原市カヌー指導者会に委託しました。 300,000 円  
 ①春の承水溝カヌー体験 4月13日（日）  
 参加者84人、指導者5人  
 ②びわこマリンフェスタin米原 9月7日（日）  
 参加者39人、スタッフ24人  
 ③市内各種団体のカヌー教室指導  
 実施団体：カモンスポーツクラブ、いぶきスポーツクラブ  
 志賀谷子ども会、米原体育振興会、SCプラザ  
 開催日：6月22日から8月9日まで5回開催、総参加者95人



夢高原かっつび伊吹2014



春の承水溝カヌー体験

**評価の内容**

- (1)米原市スポーツ推進委員やスポーツアドバイザーによるニュースポーツの実技指導や運動遊び、出前講座など子どもから高齢者までがスポーツ活動に参加したことにより、健康増進、体力の維持向上が図れ、スポーツを通じて参加者同士のつながりや運動の楽しさを知っていただく機会となりました。
- (2)生涯スポーツ社会の実現を目指した総合型地域スポーツクラブや市体育協会をはじめとするスポーツ関係団体が開催するスポーツ活動やイベントを支援することにより、幅広い世代の市民参加が得られました。
- (3)「希望と元気あふれるスポーツコミュニティまいばら」を10年後の目指す将来像として掲げる米原市スポーツ推進計画を推進するため、実施計画を策定しました。今後は、実施計画により毎年度の事務事業の評価・検討を行い、推進計画の実現を目指します。

評価

B

事業番号	30					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 文化財保護費	
事業名	継続	文化的景観保護推進事業			主管課	教育委員会 歴史文化財保護課
総合計画上の 位置づけ	政策	田舎都市が魅せるいやしのまち				
	基本施策	美しい風景を守り維持するまちをつくる				
	単位施策	地域の良さを活かした景観の形成				
事業費（円）	26年度	25年度	財源内訳（円）	26年度	25年度	
予算額	2,000,000	2,000,000	国 費	1,000,000	1,000,000	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	1,860,116	1,897,422	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	0	0	
執行率（％）	93.0	94.9	一般財源	860,116	897,422	
80%以下の理由			その他の内訳（26年度）			
事業コスト		事業費	人件費（0.60人役）	計		
決算額		1,860 千円	4,483 千円	6,343 千円		
市民1人当たり（39,982人）		47 円	112 円	159 円		
事業の目的および内容						
<p>文化的景観事業の推進により、地域を守り、次の世代へと継承していけるよう東草野地域（甲津原、曲谷、甲賀、吉槻）の日々の生活に根ざした身近な景観の文化的な価値を正しく評価し、人々が訪れ、他地域との交流を推進し、地域の活性化につなげます。</p>						
事業の実績						
<p>東草野地域の身近な景観が国の「重要文化的景観」の選定を受けたことから、今後の整備活用に向けて、整備活用委員会を組織して啓発資料作成や先進地域との交流を図りました。</p> <p>(1)整備活用計画の策定に向けた委員会の立ち上げと開催（委員14人） ①整備活用計画委員会の開催 2回【開催日：8月12日(火)、3月25日(水)】</p> <p>(2)啓発事業（現地見学会） ①「曲谷石切り場跡ミステリーツアー」 開催日：11月24日(祝) 参加人数：9人 ②「冬の東草野満喫ツアー」 開催日：平成27年2月14日(土) 参加人数：27人</p> <p>(3)先進地域との交流 日 時：10月18日(土) 訪問先：奥飛鳥（奈良県明日香村） 参加人数：20人</p>						
評価の内容					評価	
<p>(1)「冬の東草野満喫ツアー」などの現地見学会では、雪深い東草野の冬の景色やオコナイを伝える地域の人々とのふれあいを通して、東草野の魅力を発信できました。</p> <p>(2)先進地での住民同士の交流では、地域住民が地域の魅力を再発見することの大切さを学びました。</p>					C	

事業番号	31				
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	4 図書館費
事業名	継続 図書館管理運営事業	主管課	教育委員会 図書館		
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
	基本施策	人生を豊かにする学びを活かせるまちをつくる			
	単位施策	図書館整備の充実			
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度
予算額	56,725,000	49,485,000	国費	0	0
うち繰越	0	0	県費	428,000	421,000
決算額	54,750,254	48,110,778	市債	0	0
うち繰越	0	0	その他	105,146	116,390
執行率(%)	96.5	97.2	一般財源	54,217,108	47,573,388
80%以下の理由	その他の内訳(26年度) 利用者コピー収入 66,510円 公衆電話使用料 2,236円 本のリサイクル事業協力金 36,400円				
事業コスト	事業費	人件費(5.00人)	計		
決算額	54,750千円	37,355千円	92,105千円		
市民1人当たり(39,982人)	1,369円	934円	2,303円		
事業の目的および内容					
(1)市民が求める資料や情報を収集・整理し提供することで市民の自己学習を支援し、生活に役立ち親しまれる図書館運営を行うとともに、適切な維持管理に努めます。 (2)子どもたちが多くの本と出会い、本を通して豊かな心、生きる力を育むよう、市民ボランティアと共に子どもたちの読書環境の整備・充実を図ります。					
事業の実績					
(1)山東・近江図書館管理運営事業					
	山東図書館		近江図書館		
図書購入費	6,199,558円		5,319,954円		
臨時職員賃金	14,433,800円		7,013,527円		
貸出冊数	292,445冊(対前年度増減率▲2.1%)		183,020冊(対前年度増減率+4.5%)		
蔵書冊数(平成27年3月末現在)	図書	131,119冊		124,301冊	
	視聴覚資料	2,452点		—	
うち平成26年度購入分	図書	4,088冊		3,527冊	
	視聴覚資料	14点		—	
利用者数	5,254人(対前年度増減率▲4.4%)		3,530人(対前年度増減率+0.2%)		
予約・リクエスト件数	11,905件		8,445件		
その他	図書館協議会(5回)、蔵書点検実施、各種イベント、リサイクル開催など				
近江図書館においては、築15年が経過し、老朽化に伴う設備の不具合の改善を図るため、空調設備などの修繕を行いました。空調修繕費 1,490,400円					
(2)本はともだち「おはなし隊」派遣事業(「本はともだち号」で、絵本や紙芝居を配本) ①おはなし隊巡回…週2回、保育所や幼稚園で絵本や紙芝居を貸し出し、読み聞かせを行いました。(貸出冊数:17,981冊、ボランティアの参加人数:185人) ②定期配本の実施…毎月、幼稚園・保育所等の18か所に100冊の絵本や紙芝居を配本しました。					
(3)読書活動推進事業 ①ボランティアの協力により、市内小学校の全クラスに巡回文庫を実施しました。 ②コーディネーターが中心となり、学校、家庭および地域が連携し、子どもたちの読書活動の支援を行いました。また平成26年度は、坂田小学校において学校図書館の改造を実施し、学習の場として児童が主体的に本を使って学べる環境を整えました。 ③おはなしの講習会や交流会を開催し、ボランティアの育成や情報交換をするとともに、成果報告会を開催し、子どもたちの読書活動の取組やボランティアの活動を紹介しました。 ④本との出会いで子どもの生きる力を育むことを目標として、「米原市子ども読書活動推進計画(第2次計画)」を策定しました。					
評価の内容					評価
(1)両館で約475,000冊(対前年度増減率+0.4%)の貸出しができ、市民の暮らしに役立つ情報を提供することができました。					C
(2)学校やボランティアと連携し、学校図書館の改造や巡回文庫などを実施することにより、子どもたちの読書環境を充実することができました。					
(3)配本車で市内保育所や幼稚園に出向き、子どもたちに幼児期から絵本に親しむ機会を提供することにより、絵本やお話を介しての子育て支援ができました。					

事業番号	32					
款	10 教育費	項	4 幼稚園費	目	1 幼稚園管理費	
事業名	継続	幼稚園管理運営事業			主管課	こども未来部 保育幼稚園課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる				
	単位施策	子どもを支える教育環境の充実				
事業費（円）	26年度	25年度	財源内訳（円）	26年度	25年度	
予算額	78,759,000	83,335,000	国 費	1,582,000	2,000	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	74,446,663	80,722,586	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	そ の 他	17,834,971	24,581,789	
執行率（％）	94.5	96.9	一般財源	55,029,692	56,138,797	
80%以下の理由	その他の内訳（26年度） 幼稚園保育料 12,000,100円 幼稚園共済掛金保護者負担金 70,308円 通園バス利用者負担金 3,687,000円 教育実習生受入金 345,000円 太陽光発電売電収入 1,732,563円					
事業コスト	事業費	人件費（1.45人役）	計			
決算額	74,447 千円	10,833 千円	85,280 千円			
市民1人当たり（39,982人）	1,862 円	271 円	2,133 円			
幼稚園児1人当たり（434人）	171,537 円	24,961 円	196,498 円			
<b>事業の目的および内容</b>						
<p>(1)市内5幼稚園の園児が安心して教育が受けられるよう、適切に園の管理を行うとともに、園児・教職員の健康管理を通じて、子どもたちが健やかに園生活を過ごせるようにします。</p> <p>(2)幼稚園評議員からの意見等を聞きながら、教育方針や計画を立て、地域に根差した特色ある園づくりを進めます。</p> <p>(3)いぶき認定こども園（いぶき幼稚園）、山東幼稚園、ふたば幼稚園および平成26年9月から開園するかなん認定こども園（醒井幼稚園）の園児を対象にスクールバスを運行し、通園時の安全性を確保します。</p> <p>(4)18歳未満の兄弟姉妹の2人目以降のお子様の保育料を無料化し、子育て家庭の経済的負担の軽減を図ります。</p>						
<b>事業の実績</b>						
(1)幼稚園入園児数（平成27年3月31日現在）（単位：人）						
幼稚園名	3歳児	4歳児	5歳児	合計	前年比	
山東幼稚園	24	30	29	83	▲13	
いぶき幼稚園	21	24	15	60	▲6	
米原幼稚園	34	29	25	88	0	
醒井幼稚園	5	12	10	27	▲3	
ふたば幼稚園	45	62	69	176	▲19	
合計	129	157	148	434	▲41	
(2)園内研究会・研修会等の開催状況						
保育者の資質向上を目指して、以下のとおり園内研究会等を開催しました。						
幼稚園名	開催回数	平成26年度研究主題				
山東幼稚園	11	自分の想いを言葉で伝え合う子どもの姿を求めて いろいろな材質の紙を中心とした環境の構成や教師の援助の在り方を追求する				
いぶき幼稚園	9	身近な環境の中で、主体的に遊ぶ子を目指して ～生き生きと身体を動かす環境づくりとは～				
米原幼稚園	10	主体性を育み、生き生きと遊ぶ子を目指して ～「わたし、やってみよう」を育む環境の構成～				
醒井幼稚園	9	一人一人が安心して過ごせる保育を目指して ～新しい環境に慣れ人と関わる力を養うための保育者の援助と環境の構成～				
ふたば幼稚園	22	子どもが夢中になって遊ぶことができる環境の構成 -「もの」に視点を当て、遊びの環境を探る-				

(3)主な経費 ①園の管理、臨時講師の賃金等に係る経費 60,304,026円 ②バスの運行に係る経費 14,142,637円 (4)18歳未満の兄弟姉妹の2人目以降のお子様が入園した場合、保育料の無料化を行いました。 【軽減額(年額) 15,207,300円(対象延べ人数2,640人)】	
<b>評価の内容</b>	<b>評価</b>
(1)園内研究会等の開催により、保育者の資質向上に努め、幼児教育の充実を図ることができました。 (2)幼児の健康管理に努め、幼児の健康増進を図ることができました。	<b>C</b>

平成26年度保育料の軽減等の状況

	幼稚園保育料 <sup>※1</sup>	保育所保育料	計
国の徴収基準額(a)	29,943,900円	323,506,690円	353,450,590円
市の徴収基準額(b)	27,207,400円	196,437,440円	223,644,840円
国基準からの軽減額(c=a-b) <sup>※2</sup>	2,736,500円	127,069,250円	129,805,750円
国基準からの軽減率(c/a)	9.1%	39.3%	36.7%
第2子以降保育料軽減後の徴収額(d)	12,000,100円	158,519,450円	170,519,550円
国基準からの軽減額(e=a-d)	17,943,800円	164,987,240円	182,931,040円
国基準からの軽減率(e/a)	59.9%	51.0%	51.8%

※1 幼稚園保育料については、平成26年度までは国の徴収基準額が定められていないため、普通交付税の算定における基準授業料6,300円に人数を乗じて参考基準額としています。

※2 保育所の国からの軽減額には18歳未満の兄弟姉妹の3人目以降で2歳児以下のお子さんが入所した場合の20%軽減に要した費用を含んでいます。

【軽減額(年額) 2,180,120円(対象延べ人数561人)】

	幼稚園保育料	保育所保育料	計
市の徴収基準額(b)	27,207,400円	196,437,440円	223,644,840円
第2子以降保育料軽減後の徴収額(d)	12,000,100円	158,519,450円	170,519,550円
第2子以降保育料の軽減額(f=b-d)	15,207,300円	37,917,990円	53,125,290円
第2子以降保育料の軽減率(f/b)	55.9%	19.3%	23.8%
軽減対象者延べ人数	2,640人	3,512人	6,152人

事業番号	33				
款	10 教育費	項	4 幼稚園費	目	3 施設整備費
事業名	継続 幼稚園施設整備事業	主管課	こども未来部 保育幼稚園課		
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち			
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる			
	単位施策	子どもを支える教育環境の充実			
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度
予算額	1,712,194,000	742,315,000	国 費	0	0
うち繰越	387,200,000	91,704,000	県 費	10,973,000	0
決算額	1,712,039,531	327,138,372	市 債	1,582,700,000	301,700,000
うち繰越	387,196,880	72,735,600	その他	20,696,880	3,735,600
執行率(%)	100.0	44.1	一般財源	97,669,651	21,702,772
80%以下の理由	その他の内訳(26年度) 児童福祉事業寄附金 1,000,000円 平和の緑づくり事業助成金 300,000円 繰越事業費等充当財源繰越金 19,396,880円				
事業コスト	事業費	人件費(1.30人役)	計		
決算額	1,712,040 千円	9,712 千円	1,721,752 千円		
市民1人当たり(39,982人)	42,820 円	243 円	43,063 円		
保幼就園児1人当たり(1,389人)	1,232,570 円	6,992 円	1,239,562 円		
<b>事業の目的および内容</b>					
(1)かなん認定こども園建設事業 既存の息郷保育園と醒井幼稚園ともに築30年以上が経過して老朽化が著しく、また、就園児の減少により適正規模の集団が確保できないなどの課題があったことから、平成25年度に引き続き旧息郷小学校グラウンドにおいて、この2園を統合した認定こども園の建設を行います。					
(2)(仮称)おうみ認定こども園建設事業 新興住宅地が多い近江地区では、乳幼児数が多く一時預かり事業など多様な保育ニーズもあり、現在の施設では対応が困難になっています。このため、近江にし保育園、近江ひがし保育園およびふたば幼稚園の3園を統合して、双葉中学校北側において、幼児と乳児の発達特性の違いを考慮したきめ細やかな保育・教育を提供できるよう幼児部と乳児部の2棟に分かれた認定こども園の建設を行います。					
<b>事業の実績</b>					
(1)設計監理委託料					
かなん認定こども園建設工事設計監理業務			1,496,250円		
おうみ認定こども園建設工事監理業務			5,292,000円		
おうみ認定こども園乳児棟設計監理業務			1,719,400円		
(2)工事請負費					
かなん認定こども園建築工事外			417,999,048円		
おうみ認定こども園幼児棟建築工事外			858,030,720円		
おうみ認定こども園乳児棟建築工事外			356,837,400円		
おうみ認定こども園周辺舗装工事外			41,256,864円		
(3)備品購入費					
かなん認定こども園用備品購入			6,435,687円		
おうみ認定こども園用備品購入			14,562,024円		
(4)負担金補助及び交付金					
おうみ認定こども園乳児棟水道加入負担金			820,800円		
おうみ認定こども園広場公共下水道受益者負担金			5,070円		
					
▲おうみ認定こども園幼児棟の外観			▲かなん認定こども園の外観		
			▼かなん認定こども園の玄関		
					
<b>評価の内容</b>					
(1)かなん認定こども園については、平成26年9月1日に開園し、スムーズな園統合ができました。					評価 A
(2)おうみ認定こども園については、保護者の意向を踏まえて幼児棟との同一敷地内に乳児棟の建築を平成26年度末までに終え、4月から園児を迎えることができました。					

事業番号	34					
款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育振興費	
事業名	継続	学校統合検討事業			主管課	こども未来部 保育幼稚園課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる				
	単位施策					
事業費（円）	26年度	25年度	財源内訳（円）	26年度	25年度	
予算額	6,574,000	898,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	0	0	
決算額	5,206,453	677,912	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	0	0	
執行率（％）	79.2	75.5	一般財源	5,206,453	677,912	
80%以下の理由	引越業務に係る委託料が安価となったため。		その他の内訳（26年度）			
事業コスト	事業費	人件費（1.90人役）	計			
決算額	5,206 千円	14,195 千円	19,401 千円			
市民1人当たり（39,982人）	130 円	355 円	485 円			
保幼就園児1人当たり（1,389人）	3,748 円	10,220 円	13,968 円			
<b>事業の目的および内容</b>						
<p>(1) 醒井幼稚園および息郷保育園を統合する「かなん認定こども園」の平成26年9月開園に向けて、備品の移設等の準備を進めます。</p> <p>(2) 「（仮称）おうみ認定こども園」は平成27年4月開園に向け、ふたば幼稚園、近江にし保育園および近江ひがし保育園の統合がスムーズに行えるよう新園設置協議会での調整の下、開園準備を進めます。</p>						
<b>事業の実績</b>						
<p>ふたば幼稚園、近江にし保育園および近江ひがし保育園の統合に向け、「（仮称）おうみ認定こども園設置協議会」を開催し、円滑な統合が図れるよう協議を行うとともに、平成27年4月に開園するための必要な準備を行いました。</p> <p>また、かなん認定こども園の平成26年9月開園に向け、引っ越し作業等を行いました。</p> <p>(1)（仮称）おうみ認定こども園設置協議会の開催 21人の委員により、新しい園の保育目標と組名、園章のデザイン、園歌の歌詞、服装の規定、PTA規約・役員選出、通園バスの運行計画の検討を行いました。 新園設置協議会委員報償（21人、会議9回開催） 468,000円</p> <p>(2) おうみ認定こども園の園章のデザインおよび園歌の歌詞の選定 園章のデザイン・園歌の歌詞を一般公募し、決定しました。 園歌・園章募集成績謝礼 250,548円 【応募状況】園歌の歌詞： 応募件数 14件（一般12、園児・児童・生徒2） 園章デザイン： 応募件数 41件（一般8、園児・児童・生徒33）</p> <p>(3) その他の主な経費 かなん認定こども園・おうみ認定こども園の開園に係る備品等移設業務委託料 2,120,040円 かなん認定こども園・おうみ認定こども園の園旗等作成業務委託料 352,836円</p>						
<b>評価の内容</b>					評価	
<p>(1) かなん認定こども園を平成26年9月から開園することができました。</p> <p>(2) （仮称）おうみ認定こども園設置協議会で協議を重ねていただき、平成27年4月からの開園準備を整えました。</p>					B	



おうみ認定こども園園章

事業番号	35					
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 青少年育成費	
事業名	継続	次代を担う青少年育成事業			主管課	こども未来部 子育て支援課
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち				
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる				
	単位施策	子どもを支える教育環境の充実				
事業費（円）	26年度	25年度	財源内訳（円）	26年度	25年度	
予算額	2,630,000	2,630,000	国 費	0	0	
うち繰越	0	0	県 費	482,000	96,000	
決算額	2,248,711	2,314,981	市 債	0	0	
うち繰越	0	0	その他	0	0	
執行率（％）	85.5	88.0	一般財源	1,766,711	2,218,981	
80%以下の理由	その他の内訳（26年度）					
事業コスト		事業費	人件費（1.30人役）	計		
決算額		2,249 千円	9,712 千円	11,961 千円		
市民1人当たり（39,982人）		56 円	243 円	299 円		
事業の目的および内容						
<p>青少年の健全育成や地域で子どもを育てる環境づくり、家庭の教育力向上のため、関係団体への活動助成を行います。</p> <p>活動助成団体：米原市青少年育成市民会議、米原市子ども会育成連合会、米原市PTA連絡協議会</p>						
事業の実績						
<p>(1)市青少年育成市民会議への活動助成（補助金：1,048,826円）</p> <p>「青少年健全育成」「子どもの安全確保」「非行防止・環境浄化」「家庭教育・子育て支援」等の活動助成</p> <p>①あいさつ運動の実施：年間9回、毎回約200人参加</p> <p>②青少年育成大会開催：10月18日（土）、ルッチプラザベルホール310、約300人参加 中学生広場（市内中学生の意見発表） 青少年育成顕彰、あいさつ運動標語入賞者表彰 教育講演会（市PTA連絡協議会と合同開催）</p> <p>③青色回転灯パトロール：年間19回</p> <p>④支部ごとの事業（軽スポーツ事業、創作体験事業等）を行い、体験や異世代交流の場を提供した。</p> <p>(2)市子ども会育成連合会への活動助成（補助金：1,020,478円）</p> <p>①創作体験事業（ふれあいの里フェスティバル）の実施 10月5日（日）、伊吹薬草の里文化センター、約200人参加</p> <p>②支部事業（4支部）および各単位子ども会（94団体）への助成 （スポーツ事業、芸術文化事業、清掃活動、親子旅行、クリスマス会など）</p> <p>③ジュニアリーダー養成講習会：年間9回、9人参加</p> <p>④子ども会活動実践記録「ほたる第10集」の発行</p> <p>⑤会員数：2,858人（平成25年度 3,105人）</p> <p>(3)市PTA連絡協議会への活動助成（補助金：179,407円）</p> <p>市内のPTA会員の家庭教育力の向上および教育啓発事業等への活動助成</p> <p>①教育講演会開催：10月18日（土）、ルッチプラザベルホール310、約300人参加 講師：水谷 修（みずたに おさむ）氏 演題：子どもたちに明るい未来を ～家庭と地域の教育力を高めて～</p> <p>②会員数：3,581人（平成25年度 3,532人）</p>						
評価の内容					評価	
<p>(1)青少年育成市民会議では、あいさつ運動や巡回パトロールを定期的実施し、青少年の健全育成と非行防止を図ることができました。</p> <p>(2)子ども会育成連合会では、創作体験活動を実施することで子どもの自主性と協調性を伸ばすとともに、地域の子ども達を地域で育てる力を高めました。</p> <p>(3)PTA連絡協議会では、教育講演会を実施し、家庭教育力の向上を図ることができました。</p>					C	

事業番号	36																
款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	2 青少年育成費												
事業名	少年センター事業			主管課	こども未来部 こども家庭課												
総合計画上の 位置づけ	政策	誇りといきがいと笑顔で紡ぐ心豊かなまち															
	基本施策	地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる															
	単位施策	子どもを支える教育環境の充実															
事業費(円)	26年度	25年度	財源内訳(円)	26年度	25年度												
予算額	3,544,000	3,649,000	国 費	0	0												
うち繰越	0	0	県 費	1,356,450	1,356,700												
決算額	3,188,808	3,192,869	市 債	0	0												
うち繰越	0	0	その他	0	0												
執行率(%)	90.0	87.5	一般財源	1,832,358	1,836,169												
80%以下の理由	その他の内訳(26年度)																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業コスト</th> <th>事業費</th> <th>人件費(3.00人役)</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決算額</td> <td>3,189千円</td> <td>22,413千円</td> <td>25,602千円</td> </tr> <tr> <td>市民1人当たり(39,982人)</td> <td>80円</td> <td>561円</td> <td>641円</td> </tr> </tbody> </table>						事業コスト	事業費	人件費(3.00人役)	計	決算額	3,189千円	22,413千円	25,602千円	市民1人当たり(39,982人)	80円	561円	641円
事業コスト	事業費	人件費(3.00人役)	計														
決算額	3,189千円	22,413千円	25,602千円														
市民1人当たり(39,982人)	80円	561円	641円														
<b>事業の目的および内容</b>																	
<p>(1) 青少年の非行防止・犯罪の未然防止のために少年補導委員や関係機関との連携の下、日常的な補導活動・有害環境浄化活動等を実施しました。</p> <p>(2) 不登校・非行、無職少年やニート・引きこもりの青少年および家族からの相談を受け自立へ向けた支援を実施しました。</p>																	
<b>事業の実績</b>																	
<p>(1) 街頭補導、深夜パトロール、登下校指導、声掛け活動を定期的実施 (延べ202回実施)</p> <p>(2) 環境浄化活動として、有害図書等立入り調査・シンナー薬物等立入り調査・白ポスト・有害図書回収活動の実施(月2回定期回収、回収総数1,820点)(平成25年度:回収総数1,987点)</p> <p>(3) 少年およびその家族等からの不登校・いじめ・問題行動等に関わる相談実施(375件)(平成25年度:312件)</p> <p>(4) 「少年の主張作文集」発行…作品募集および文集作成・発行…年1回 「少年センターだより」の発行…年3回</p> <p>(5) 薬物乱用防止啓発活動として、薬物乱用防止セミナーおよび薬物乱用防止教室実施…8回</p> <p>(6) 無職少年対策指導員や少年補導委員の研修実施…8回</p> <p>(7) 小中学校や警察署、保護司会等との情報交換 ※中学校・高等学校等の訪問36回</p> <p>(8) 職員および少年補導委員による補導活動 ※街頭指導活動(220回)啓発活動等(平成25年度:201回)</p> <p>(9) 相談活動(延べ375件) ※不登校・非行・交遊関係・いじめ・学業 ※就労相談については若者自立ルーム「あおぞら」との連携</p> <p>[主な経費]</p> <table border="1"> <tr> <td>少年補導職員賃金(1人)</td> <td>1,642,488円</td> </tr> <tr> <td>補導委員報償費(37人)</td> <td>555,000円</td> </tr> <tr> <td>印刷製本費</td> <td>266,760円</td> </tr> </table>						少年補導職員賃金(1人)	1,642,488円	補導委員報償費(37人)	555,000円	印刷製本費	266,760円						
少年補導職員賃金(1人)	1,642,488円																
補導委員報償費(37人)	555,000円																
印刷製本費	266,760円																
<b>評価の内容</b>					評価												
<p>市教育委員会、米原警察署、少年補導委員等と連携し、パトロールや啓発活動、補導・指導活動を行うことで青少年の非行防止や再発防止等の健全育成を図ることができました。</p> <p>また、他機関と連携して問題行動等の相談に継続的な支援を行い、解決につながったケースもありました。</p>					C												

**平成26年度  
幼稚園学校評議員・園運営委員による学校・園 評価**

4：よくできている　3：できている　2：あまりできていない　1：できていない

**1 園経営全体に関わること・・・・・・・・・・・・・・・・・・評価**

**3.63**

**視点① 園の目指す園経営の基本や子ども像は、地域の子どもたちの実態に合ってる。**

- ・子どもたちの生き生きとした活動の様子を見てみると、園の先生方が、子ども一人一人を大切にされた指導に努力しておられることがよくわかりました。
- ・統合前の子どもの実態や地域の実態などを踏まえた、園の目標とめざす子ども像が具体的にわかりやすい。
- ・こども園という環境の中、大きな幹のある安心できる取り組みをされている。
- ・幼稚園の教育目標「心豊かで生き生きと活動する子どもの育成」、研究主題「子どもが夢中になって遊ぶことができる環境の構成」の実践に向けて、熱心に保育しておられると思います。

**視点② 園の教育（保育）目標、教育（保育）推進の基本、園の様子等を保護者や地域にわかりやすく説明し、地域に開かれた信頼される園づくりに取り組んでいる。**

- ・園行事について、保護者には毎月の便りで周知しているが、保護者全体に十分理解できるような工夫が必要と感じました。
- ・園だよりを多くの地域の方が見てくださるので良いと思います。園、保護者、地域とう連携していくか、今後の取組を期待したい。
- ・写真の掲示や総会などでの発表が良かった。ほどよく保育参加などがあり、歌や遊びの様子など、日々の生活を通して成長する姿を確認でき、安心することができた。
- ・月々の行事計画表や各クラス便りや保護者向けのお便りもわかりやすく、先生方や子ども達の日常生活の活動や表情がよく読み取れていると思います。それらのことは、園長先生のリーダーシップのもと、職員の方の共通理解と和やかな雰囲気の中で、先生方が安定して子ども達一人一人に対応できたと評価されています。
- ・保護者との信頼づくりに力を入れておられる様子がよくわかります。職員の皆さんのケアや感性等も高める支援も期待しています。
- ・今年度は、認定こども園開園に向けて教職員方々の大変な努力であったと推察する。日々の園経営全体に関わるあらゆることが、「こども園だより」を通して、細部まで伝わってくる。視点①～⑦まで総合的に判断しても、よく経営していると思う。
- ・保護者への連絡（情報発信）は、担当する年齢により、先生方も負担に差があるでしょうが、先生による差が出ないようにしてください。

**視点③ 園長のリーダーシップのもと、教職員が一丸となって、園の教育（保育）目標達成に向け、協力して取り組んでいる。**

- ・園長のリーダーシップのもと、教職員の働きやすい環境作りによく努められ、教職員のまとまりが、園児・保護者に安心感信頼感を与えておられるように感じられた。
- ・認定こども園開設に伴う統合であり、子どもの仲間づくりや職員間の情報共有や共通理解が図れるのか心配していたが、園長・副園長を中心に園全体で努力していることは評価に値する。ただ、昨今の社会状況から言えることは、経済的不安や虐待等々の要支援、要保護を必要とする困難な家庭（園児）が増加していると考えられるが、全てに行き届いた取組として全体のものとなっているのか懸念される。

- ・園の防災管理・危機管理も、認定こども園に移行することで、さらに重要になります。先生方が一堂に会する機会がないのであれば、特に重要です。また、こども園の職員勤務体制が早朝保育から14時以降の体制まで、複雑になるので、職員間の情報の共有、共通の課題について、意見調整を図っていくことが特に大切である。

**視点④ 特別支援保育推進に向け、障がいのある子どもの視点に立ち、子どものニーズを把握し、きめ細かな支援の充実を図っている。**

- ・園長のリーダーシップのもと、職員間で協力した体制が取られていると感じましたが、特別支援担当職員が、日替わりであるため、教育（保育）の観点からきめ細かな連携面に不安を与えるため、このような体制を解消に向けた努力をお願いしたい。
- ・要支援の必要なお子さん、保護者の対応は何かと多忙な園では大変でしょうから、教委に常に相談を持ちかけ、必要な家庭に同伴してもらったり、同席して話し合いの場を設ける機会を多く持つことが園長の責務でもありましょうか。
- ・障がいのある子どもは、発達障がい・食物アレルギーなど、対応パターンが個々に違うので、研修は大切である。

**視点⑤ 保護者や地域との連携を図り、地域の教育力を生かした取組を積極的に推進している。**

- ・地域のあり様が変わっていく中での連携にご苦労は多いと思いますが、各種の事業や畑づくり、遠足などを通して取組が進むことを期待しています。
- ・広々とした園舎や運動場で思いっきり走りまわられる環境は子どもたちにとって最大の教育（保育）環境となり、地域と連携した地域ぐるみの教育（保育）のはじまりである。地域力を遠慮なく利用して、子育て・親育ちを推進してほしい。
- ・私自身が、事業に参画し活動することにより、地域住民から、より身近な相談者として親しみを持って受け入れられるようになってきているので、連携が取れているように思う。

**視点⑥ 教育・福祉・保健等関係機関との連携を図り、子どもの育ちをつなぎ、ともに支える取組を行っている。**

- ・高齢者の多い地域なので、老人会とも無理のない形で参加や参観を呼びかけるのも地域ぐるみで子育て支援をしていく雰囲気盛り上げるのではないかな。
- ・ディサービス・サロン訪問や、米原高校生、中学生との交流等、園外のいろいろな人との関わり方の体験を通してコミュニケーション能力の育成に努めている。
- ・各視点が全てしっかり取組ができ、園長、主任の地元での経験と実績が園経営に活かされている。地域の信頼も厚く、それが子どもの育ちに大きくつながっている。

**視点⑦ 全ての子育て家庭に対する支援の取組を積極的に行っている。**

- ・ふれあい訪問（子どもの各家庭に出向いて、園での遊びを三者で楽しめる機会）は、園と家庭の連携と信頼関係づくりとして有意義なものになったと思う。さらに、子どもにとっても、そのふれあいの中で保育者に対する親近感・安心感など、心の支えとなる思いが膨らんだことと思う。
- ・地域へ出向いての支援センターの取組は、地域の保護者のつながりもでき、とてもよかった。
- ・園児数が多い中、全ての子育て家庭に対する支援は難しいと思うが、これこそが、今の子どもと家庭にはとても大切なことなので、今後、考えていってほしい。

**視点① 基本的な生活習慣の定着を図るため、生活に必要な習慣や態度が生活体験を通して養わ**

れるよう生活指導の工夫に努めている。

- ・職員が率先してしっかり生活習慣に力が付くよう行動していることで、子どもたちも自然に行動が伴っているように感じた。
- ・一人一人の園児の成長にあわせて、基本的な生活習慣の自立に向けて、家庭との連携を図りながら繰り返し、丁寧に取り組んでおられる。  
子どもたちは、教師との温かいふれあいの中で、安心して、基本的な生活習慣の自立へと向かっていくと思います。心地よさや満足感を味わえるように、ゆったりと援助していくことも大切だと思います。
- ・3歳児の保育の重要性、大切さなどから、丁寧に見守られ保育されていることに感心し、安心させてもらうことができました。先生方の評価も良く、資質向上や自信、先への保育の意欲をもっていただけることを信じていけると確信しています。頑張ってください。
- ・家ではなかなか身に付かない生活習慣が園に行くことにより、楽しく身に付ける様子を見て、集団や保育者の関わりの大きさを感じている。
- ・地域の子どもの育てるという意味で、「あいさつ」の強化などこども園、小学校、中学校で一体化した共通の取組が一つでも明確に実践できていくと良いと感じた。
- ・基本的な生活習慣はとても大切なことですが、園だけで身に付けさせていくことは難しいことです。
- ・最近の家庭内において基本的習慣(日常的な挨拶)すらできていないように思う。家庭の機能や役割が低下しているように感じる。このような家庭をどのように巻き込み、一緒に考え、子どもたちに習慣付けいくかも考えてほしい。

**視点② 社会の決まりや集団生活のルールの習得に向け、教職員の共通理解のもとに取り組んでいる。**

- ・人なつっこく気持ちよく挨拶をしてくれる子どもたちが多いと思いますが、ルール面の習得でいうと少し弱い気がします。
- ・園の中で、社会の決まり、集団生活のルールなど身に付くことも多いが、実際に地域の中に入ることで、実体験として身に付くこともあります。安全に気を付けながら、様々な人と接し、地域と関わる機会を多く設けてほしい。

**視点③ 子どもたちの望ましい食習慣の形成に園全体で取り組んでいる。**

- ・職員が少ない状況で、収穫した野菜を全員で食べられるのは素晴らしい。子どもが、食べ物に対して関心を強めると思う。
- ・自分で栽培して食べた野菜は嫌いなものであっても食べる自信につながるものです。そのような食育もいいなと思いました。
- ・同室にて、全園児と給食をいただく機会がありました。「おいしいで」「この次はこれを食べて」「これは最後。残さんといてや」「食器の片づけはこうやって」と教えてくれました。分類もできて素晴らしい給食風景が忘れられません。量も多く、みんな大きくたくましく成長していくのだなと痛感したことがあります。
- ・まず、「食べること」を通して、基本的な挨拶の習慣を身に付けさせることが、幼児には最も効果的であろうと考えるが、日々明るい園舎で温かい雰囲気、和やかな給食の時間を演出されていたのがとても良かったと思う。

### 3. 豊かな感性や表現力の育成 . . . . . 評価

3.70

**視点① 全身（五感）を働かせた活動を展開している。**

- ・年齢に応じた運動（ボール・鉄棒等）が、十分できるよう外部からもう少し入ってもらうのは、無理なのでしょうか。

- ・米原の自然や文化等、良さを体験できる機会を多く持てると思います。(子ども歌舞伎、しゃぎり、醒井の湧水、オオムラサキの育成、やまんばの森、岩脇の列車塚など) 琵琶湖博物館にも行かれたとのこと、地元の魚や暮らしに触れる良い機会だったと思います。生まれ育った所の記憶が残るような取組も期待します。
- ・物にあふれた生活の中にいる子どもたちに、もっと地域の自然や地域の人材を活用した取組を取り入れた活動を展開してほしい。
- ・五感を働かせようと思うとそれなりに保護者と幼児のふれあいが大切だと思う。一人一人と目を合わせ、しっかりと話を聞いていただきたいと思う。五感という言葉聞き、久しぶりにすがすがしい気持ちになった。
- ・遊戯室での活動を見せていただきましたが、子どもたちは大きな声を出して、元気いっぱい走り回り、先生方と楽しんでいる姿を見て、嬉しくなりました。今後も、恵まれた広い園舎で力いっぱい体を動かし、子ども同士のふれあいを通して、心身ともにたくましく成長できるように工夫してください。
- ・保育園でしているダンスや歌を家で歌ってくれる。友だち一人一人を認めているようで、良いところ教えてくれる。教育に満足している。

**視点② 子どもたちが喜んで話したり、聞いたりすることができるよう、教職員がきめ細かな対応を心がけている。**

- ・子どもたちがうれしそうに話しかけたり、大人への関心をもってくれている様子を見ると、普段の生き生きとした活動がうかがえます。
- ・0～2歳児と3～5歳児の園児は、部屋が職員室や会議室、給食室などが間に入って、年齢の近い子らが集まる部屋の配置となっているからか、園室間の交流も盛んで、年齢差をあまり感じず好ましく感じた。
- ・子どもたちが豊かな感性や豊かな表現力をもつには、いつも一緒に居てくれる保育者の子どもの気付きに共感できる力量が大切です。そのためにも、保育者がゆとりをもって子どもたちと関わり、心穏やかに日々を過ごせると良いと思います。
- ・環境の構成・再構成は、とても大切なことです。同学年でも、クラスにより違うこともありますが、同じように進めることも必要なときがありますので、十分に話し合いをしてください。クラスの中に、季節の花・虫など、自然を十分取り入れるだけでも、子どもたちの感性が育ってきます

**視点③ 一人一人の子どもの主体性を大切に、満足感・充実感を味わえるような環境の構成および活動を展開している。**

- ・子ども一人一人が、自分の存在を感じることができる掲示物を工夫したり、段ボールを活用した教材づくりを工夫したりするなど、環境整備にとっても努力されていることを強く感じました。
- ・園児が自分は大切にされ、愛されていることが実感として味わわせるための環境作りによく努力されている。また、先生方も園児目線で、優しく傾聴されている姿が見られた。
- ・先生方が自信を持って一人一人の主体性を育む環境の構成をしておられます。五感を働かせながら活動を展開していくことの難しさを感じて反省しておられますが、悩まれ、工夫していくことこそが、いずれ先生方の自信となり、先生方の日々の保育への努力がきっと子ども達に変化を与える力になると感じています。失敗から工夫される力が付いて良好になっていくのではと感じます。
- ・子どもたちが何に興味を持ち、何をしたいのかを的確にとらえ、自ら進んでやろうとする環境づくり、活動内容を展開してほしい。
- ・ふれあいサロン・芋ほり栗拾い・天の川ふれあいフェスタ等いずれも園児たちの楽しいひとときの活動となり満足感や充実感をもって、心に残る思い出づくりになったことと思う。
- ・一つのことに集中することも大事だが、いろいろなことに挑戦していこうとする力も大事だ

と感じた。苦手なこともあきらめないで挑戦し、できるまでがんばる力も身に付けさせたいものだ。

- ・子どもたちにいろいろとやってあげようと思うと、アイデア・準備等に時間がかかり、先生方も大変だと思います。準備から子どもも関わるようにすると、たとえ、それを表現できる時間が短くなっても、その過程に意義があり、想像力アップの効果にもつながると思います。

#### 4. 健やかな体と豊かな心の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・評価

3.70

##### 視点① 心身ともに健康で安全な生活が行われるよう環境づくりを工夫している。

- ・年長組の行動や表情に1年生になる自覚がしっかり育っている様子を見て、様々な取組や指導がしっかりとされたことの成果だと感じました。
- ・運動会で、園児たちは自由にのびのびと活動し、体を動かすだけでなく、情緒面を働かせて活躍していたと感じた。どんな場面でも心身ともに健やかに育つ環境づくりができていたと思う。
- ・もっともっと広いグラウンドを走りまわらせ、もっともっと大きく高い小山を造って、駆け上がらせ、転がり降ろさせてやりたいと思う。
- ・川崎市の中1の男子の命が奪われるというとても悲しい事件が発生した。このことを通じて被害者と加害者両方の家庭環境が浮き彫りになってきた。その中で特に感じたことは、日常の家庭生活の中で親子の会話やふれあい、思いやり、いたわりあうことがいかに大切であるか非常に考えさせられる。子は親の背を見て育つ、三つ子の魂百までと言われるように、幼児教育だけでなく親も含めて教育していかなければならない時代にきていると思う。健やかな体と豊かな心の育成を親も含めて事業開催されることを望む。
- ・安全の意味で子どもたちの出入り口が職員室から見えないのが不安。

##### 視点② 自然や動植物、絵本や物語等に親しむ機会を個々や集団に合わせて取り入れている。

- ・四季折々の自然を生かした行事(栽培・薪拾い等)を通して、四季の移り変わりや自然の不思議さ等を身体で体験させておられる。
- ・山登りや芋ほり、琵琶湖への水遊びなど積極的な経験ができる取組をされている。
- ・良い絵本を見ることは子どもたちの成長に欠かせないものだ。一昔前には寝る前に絵本を読んだり、昔話を話したりしながら寝かせることが保護者の一日の最後の子どもとのふれあいの時間だった。最近は、いそがしさにかまけて、このような姿をみかけることが少なくなっているように感じる。園まかせでなく、もっと家庭や地域と一緒に心身ともに豊かな子どもの育成を図ろう。
- ・周囲の豊かな自然環境の中で、子どもたちの豊かな感性が磨かれるように、先生方の指導力を高める研修を、さらに積み重ねてください。また、地域の方々や保護者の協力をいただきながら、自然の中で安全安心な遊び場作りができるように、市と園と地域と保護者の協力体制を作り出してください。

##### 視点③ 自然環境にかかわり動植物などの飼育・栽培を通して、自然の不思議さやいのちの大切さに気づく取り組みをしている。

- ・園訪問を通して恵まれた自然環境や動植物との触れ合いを大切に活動に努めておられることを感じました。
- ・危ないということで家庭でも自然とふれあう機会が減っている。地域の高齢者などとの関わりにより、一層自然とふれあうことの必要性、安心、安全を保護者にわかってもらう必要がある。
- ・いのちの尊さ、大切さが軽んじられる傾向が強い昨今だけに、飼育や栽培を通して学ぶことに、もっともっと配慮が必要だと思う。

- ・地域には、恵まれた自然がたくさんあります。やまばな広場・琵琶湖・山など、自然にふれあい、「わあ、美しいなあ。」「おもしろいなあ。」と、不思議さなどを、五感（全身）を通して感じるなど、感動体験を多くしてほしいと思います。
- ・多彩な行事、鶏の飼育等（自然体験や地域の人々との交流等）を通して、園児を自然や園外の人々からも育てていただく姿勢で取り組んでおられる。

**視点④ 身近な大人や友だちと一緒に、調理したり食べたりする楽しい食体験の工夫に取り組んでいる。**

- ・野菜を育て、それを調理し食べることは、生命を育て、その生命をいただき、自分のいのちが変わっていくということを、子どもたちが、体験できる良い取組だと思います。将来、子どもたちが知識として学習した時にきっとこの体験と結びつくことと思います。幼稚園時代だからこそ、暮らしやいのちの営みなどに重点をおいた取組に期待したいです。
- ・季節ごとに調理や食べることのイベントがあり、家でも同じようにしたがつたり、楽しかったことを話すことが多いので、とても良い経験になっていると思う。「やきいもパーティー」「もちつき」等を通して、保護者も巻き込んで食への意欲やマナーによく取り組んでおられる。
- ・新園舎に移り、まだまだ園庭や植物の栽培、野菜の収穫・栽培などは、難しいと思います。地域には様々な人がおられます。様々な場所があります。声を出すことで、協力してくださる方もたくさんおられますので、どんどん協力をあおぎ、子どもたちに様々な実体験をさせてあげてほしいと思います。
- ・園児の給食時の笑顔や「給食は大変美味しくたくさんいただいている。そして今年は、風邪による臨時休園もなかった」との報告を受け、給食の先生方が頑張っておられ、うれしく思った。

**5. 人と関わる力の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・評価**

3.64

**視点① 一人一人の子どもが安心して自己表出できるような保育者との信頼関係づくりに努めている。**

- ・先生方が、明るく和やかな雰囲気野中で、各々一人一人の子どもの行動を観察しながら、きめ細かな指導をされており、園全体の保育力の向上にもつながっていると感じます。
- ・保護者との信頼づくりに力を入れておられる様子がよくわかります。職員の皆さんのケアや感性等も高める支援も期待しています。
- ・小さくてもしっかり自己主張している子どもたちにしっかり向き合い、受け止めて、聞いてあげられる大人がいることが大切だと日々感じている。
- ・人と関わる力は、人として生活していく中でも一番大切なことです。でも、一番は親との関わりです。それが、上手にできていなければ、次には進んでいけず、どこかで止まってしまいうトラブルも多くなります。（0歳から一步一步積み上げていかなければならないこともありますが。）家庭への援助・指導も合わせてお願いします。
- ・若い世代の保護者の考え方や生き方について、なかなか理解できないこともあります。現に親として頑張っておられる中、若い職員が接点役として、園との交流を深め、理解を求めていくことも大切なことです。それだけに、若い職員を育て、若い感性を引き出し、園経営に生かせる工夫をしてください。

**視点② 子どもが生活や遊びに主体的に取り組む、繰り返して体験できるような環境作りに取り組んでいる。**

- ・秋の運動会は、どの学年も楽しそうに体を動かしていました。協力したり、がまんしたり、動作を覚えたり、色々なことを学んでいるんだなあと思いました。メディアやインターネット

ト等の発達により、子どもたちも友だちと関らなくても一人で遊べる時代になったことで、自分から積極的に関っていく力の育成が、非常に大切だと思います。

- ・広い園舎になり、のびのびと活動している姿を見ると、新しく広い園舎になったことは、いろいろな面で成果をあげていると思う。廊下が広いことも行動範囲の広がりや交流の活発さにつながるだろうと期待していたが、思っていた通り、園室間の交流も盛んで、年齢差をあまり感じさせない活動ぶりを好ましく思っている。

### 視点③ 子ども同士と一緒に活動する中で、友だちのよさや自分との違いに気付いたり、互いに認め合ったりする支援を行っている。

- ・子ども達に「伝え合う力」を育成することを研究テーマに設定して、職員が一丸となって、「聞くこと」「話すこと」を大切にされた指導・支援に取り組んでおられることは、人と関わる力の基盤形成に大変有効な取組だと思います。
- ・大きい子が小さな子を導いているような様子も見られ、廊下の広さに入出口の広さも関わって、いい方向へ流れを助長してくれているように思う。
- ・子ども達は毎日の園生活の中で自分なりに対人関係を摸索しながら、また多方面にわたり挑戦しながら、友だちづくりに専念し、友だちや自分の長短所に気付いたり、相互に認め合ったりしていることでしょう。そこに先生方の一人一人に対する見守り、ことばかけなどの実践で子ども自身は大きくたくましく自信を付けていっているのではと伺えます。また、保護者からの熱い思いもアンケートから伺えます。ただ、今、現代の子どもを取り巻く社会性の悪はいつ、どんな時に子どもの心を傷つけ、墮落の道へと進んで行くか分からないことはとても不安ですが、先生方のきめ細かい見守りが子ども達の救いの神となりましょう。子ども達以上に親に厳しく伝えていっていただけるのも園の保育目的の一つだと感じます。意地悪をしたりされたり、暴言をいとも簡単に言ったり、難しい指導への心遣いを一層お願いするところです。このことは本当に第三者の連携が大切ですね。
- ・一人一人の子どもの良さを見つけ、認めて、安心して自己表出できる雰囲気も大切です。同年齢、異年齢との関わりの中で互いの違いを発見したり、一人一人の違いを認め合ったりしながら、仲間の大切さ、いのちの大切さに気づき人権感覚が育まれる教育（保育）を家庭、地域と一緒に進めよう。

# 平成26年度 小・中学校学校評議員による学校評価

4：よくできている 3：できている 2：あまりできていない 1：できていない

## 1 学校経営全体に関わること・・・・・・・・・・・・・・・・ 評価

小学校	3.56
中学校	3.60

視点① 学校の目指す学校像・子ども像は、地域や子どもたちの実態に合っている。

### 〔小学校〕

- ・学校の目指す学校像が具体的でわかりやすいうえに、学校経営によく浸透していると感じます。
- ・地域との交流を重視した事業の取組や歴史ある風土を教育に取り入れた運営がなされており、子どもたちにとって付加価値のある教育となっている。

### 〔中学校〕

- ・目指す学校像や生徒像は、短い言葉でまとめられて、実態にあったわかりやすいものになっている。

視点② 学校の教育目標、重点目標、学校の様子等を、学校便り等により保護者や地域にわかりやすく説明するなど、積極的に情報発信に努め、地域に開かれた信頼される学校づくりに取り組んでいる。

### 〔小学校〕

- ・学校便りが、毎月各字に回覧されているので、学校の様子が地域の方々にもよく理解されていると思います。また、学習支援は保護者にとって、学校や子どもたちの様子を見るいい機会になっていると思います。
- ・学校便り等で学校の様子や子どもたちの状況がわかりやすく伝えられており、保護者からも学校の情報発信に対する評価も高く、地域に開かれた信頼される学校づくりへの努力がよくわかります。
- ・学校目標に掲げている「国際社会をたくましく生き抜く子どもの育成」のもと、外国の人と接し、知り、英語を学ぶカリキュラムが工夫されて組まれていますが、根本にある「人とのちがいを認め合うこと」「自分に自信をもつこと」は多くの場面で学ぶことができるので、常にその意識をもって、先生方が取り組んでくださることを望みます。
- ・評議員の立場からして、学校教育の状況は学校便りなどで取組の方向性を感じ取れ、今、子どもたちに何が必要で指導しているかなどが地域でも良くわかる。また、保護者も忙しい中、情報源として重要なものであり、有効に活用し、知りたいことを記載してもらおうなどの要望をしてはと思う。
- ・HPは手軽にいつでもどこでも見られることから情報収集重要ツールであり更新頻度や内容の充実化をお願いします。

### 〔中学校〕

- ・学校便りが全学区民に届けられ、より詳しく学校の様子を知ることができ、内容もすばらしく、校長先生の熱意が伝わってきます。
- ・校長先生が発行しておられる学校便りは、字内の回覧文書で広く市民の目に触れ、学校の教育目標に沿って学校行事の取組やクラブ活動の活躍の様子等が紹介され、素晴らしい内容となっています。今後も是非こうした広報活動を続けていただきたいと思います。

視点③ 校長のリーダーシップのもと教職員が課題を共有し、学校の教育目標達成に向け、一丸となって取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・教育目標、目標達成のための具体策、スケジュールを決め校長先生の指揮のもとに活動されていることが随所に見られます。PDCAサイクルを回して改善に努力されている様子もうかがえます。グローバル化の時代、すでに実施されているのかもしれませんが、将来の国際人養成のための、教育目標も次年度入れられてはどうでしょうか。
- ・教育目標、重点目標、学校の様子を学校便りにより、保護者や地域にわかりやすく伝えることに努めて、積極的な情報発信により関係者に信頼されて、校長先生のリーダーシップによって教育目標達成に取り組んでおられてありがたい限りです。
- ・子どもと話をすると、小学校生活が楽しく、学校へ行くのが楽しみだということが伝わってくる。子どもの実態をしっかりと把握され、目指す子ども像に向け、校長先生の強いリーダーシップのもと、教頭先生を先頭に教職員が一丸となって取り組まれている。

〔中学校〕

- ・校長先生のリーダーシップのもと、学校教育目標の具現化に向けて、それぞれの先生方の個性が発揮され、一丸となって取り組まれています。
- ・校長先生のリーダーシップで学校が変わると言っても過言ではない。日々のコミュニケーションを通じて先生方との信頼関係を深めていただきたい。

2 自立した人間として生きていくための総合的な力「人間力」を育む教育の充実

..... 評価

小学校	3.37
中学校	3.35

視点① 学校は、あいさつ運動の推進や道徳教育の推進、いのち・人権を大切にする心の教育の推進および「いじめのない学校づくり」に向けていじめの未然防止・早期発見・早期解決に積極的に取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・あいさつ運動やいのち・人権を大切にする心の教育は、相手を思いやる心やいたわる心など子どもたちの豊かな人間性をはぐくみ、いじめの防止にもつながるものと考えられますので、引き続き取り組んでいただきたい。
- ・学校の授業の中で道徳教育も実践され、人権週間でも各学年のすばらしい取組もされています。継続するためにも家庭、地域との連携、協力でさらに効果を上げていただきたい。
- ・人権学習も学年に応じて行っていて良い。近年簡単にいのちを奪う事件が起こっている。今一度「いのちの尊さ」についてみんなで考える機会をつくっていただきたい。
- ・いじめについて、先生方は危機感をもっておられるが、児童や保護者の危機感が薄いのが心配である。未然防止、早期発見がたいせつ。学校だけで悩まず、多くの方に情報発信していただき、地域ぐるみでいじめをなくしていくことが必要だと思う。
- ・いじめ問題に対する取組は『個人情報や守秘義務』の観点から開示できる部分は限られるのかもしれませんが、重大な事件へと発展することを未然防止する責任は非常に重く、教職員間の縦の連携と外部機関との横の連携、そして家庭を含めた情報共有化に積極的に取り組んでいただきたい。

〔中学校〕

- ・人を傷つけても平気でいたり、いじめと感ずいても見て見ぬふりをしたり、自らのいのちを絶つ

たり、世間では、今、悲しい出来事がたくさん起こっている。生徒たちが、自分や友だちを愛し、温かい心をもった生徒たちに育ってくれるように引き続き道徳の授業の充実や、人権意識の向上に努めていただくようお願いしたい。

**視点② 学校は、児童生徒が社会性や規範意識を身につけ、望ましい勤労観や職業観を育てる系統的なキャリア教育に努めるなど、自己指導力を培う教育に積極的に取り組んでいる。**

※社会性

- ・集団をつくり他人とかかわって生活しようとする、人間の本能的性質

規範意識

- ・ルールや決まりを守る意識

自己指導力

- ・児童生徒が自己実現に向けて自らの目標を明確にし、その目標の達成に向けて自らを主体的に方向付けていくために求められる力

**[小学校]**

- ・登下校時に交通ルールを守ることは身につけてきていると思いますが、あいさつや会釈などの礼儀は身につけている子といない子があるので、継続して取り組んでほしい。身につけている子は顔の表情もいいです。
- ・6年生児童からの気持ちの良いあいさつは、非常に好感がもてる。高学年があいさつ運動の推進役になると、低学年にも良い影響を与えると思う。
- ・子どもはあいさつがきっちりでき、すばらしいと思う。スクールガードをさせていただいているときも、「おはようございます」「こんにちは」はもちろんのこと、「ありがとうございました」と言ってくれて、スクールガードの辛さも吹っ飛ぶ。また、6年生卒業の皆さんからは毎年、感謝の手紙を頂戴している。

**[中学校]**

- ・社会性や規範意識は教えてすぐに身につくものではない。様々な場面での指導が必要。特に家庭におけるしつけは大切。それを教員に求めることは酷であるが、地道な取組をお願いしたい。
- ・中学校の時から「キッズニア甲子園」「職場体験」を通して、将来の仕事について考える機会がありとても良いと思います。その体験の中で、1つの職場でもいろんな仕事があり、様々な人たちの力で成り立っていることを学んで、将来の仕事の選択肢の幅を広げてください。

**視点③ 学校は、児童生徒が運動やスポーツに親しみ、体力の向上を目指す教育の推進に取り組んでいる。**

**[小学校]**

- ・子どものスポーツ離れは顕著なもので、市内でも存続ができないスポーツ少年団もあるそうです。少子化の影響もあると思いますが、親の怠慢も影響していると思います。
- ・10分間運動に頑張っている子が多く、何でもひとつのことを継続することは自信につながるので、いい傾向であると思います。先生方の子どもへの意欲づけをうまく取り組んでいただいているからだと思います。
- ・体力の向上につきましても、10分間運動やスポーツ選手による講習会等、多様な取組を行っていて評価できます。
- ・体力向上を目標に運動やスポーツに親しませていただいていることは、ルールや決まりを守る意識が高められ、主体的に自らの目標を達成にがんばっていることは大切な教育だと喜ん

でおります。

- ・バス通学により、体力の低下が心配される。親子で通学路を歩くのも一計かもしれない。

〔中学校〕

- ・部活動の数について、学校長の説明で現状が良くわかったが、外部の講師を依頼するなどし、もう少し数を増やし、生徒の選択の幅を広めることはできないだろうか。

3 個性を生かしつつ一人一人に確かな学力を育む教育の充実

・・・・・・・・ 評 価

小学校	3.31
中学校	3.43

視点① 学校は、市や全国の学力学習状況調査の結果を分析し、児童生徒の実態に応じた学力向上策を立て、基礎基本の定着と確かな学力を育む教育の推進に取り組んでいる。

〔小学校〕

- ・基礎学力の補充時間を設けたり、詩の朗読・暗唱など学校全体で取り組まれ目に見える工夫がなされている。
- ・滋賀県は学力調査の結果では全国的に厳しい位置にありますが、二極化が進んでいることも影響しているのではないかと感じています。学校における朝自習・本読み・計算・プリント・ドリルを繰り返し積み重ねることで着実に力をつけながら、少人数指導の充実を図り、家庭学習を定着させるなど、地道に根気強く取り組んでいただけるようお願いしたいです。
- ・分析結果、強化方針を見えるようにしていただけるとありがたいです。先生方の指導・教育方法にバラツキがあるように思います。子どもには厳しく接してもらいたいです。競争意識をある程度もたせるべきです。これからは、グローバルでの競争になりますので、厳しい環境をもって体験させるべきです。

〔中学校〕

- ・国の動向もあり学力テストの重視等により、現場が振り回されるという苦労がある中、学力向上の具体的方策が設定され、特にプラス 10、プラス 30 の取組等小さな努力の積み重ねをキーワードに取り組まれているところがすばらしい。このように生徒にわかりやすいスモールステップを踏んでいくことが、時間はかかるが大切と思う。
- ・全国学力学習状況調査結果において、公表された滋賀全体の位置はかなり低い。中学校での基礎学力の定着は将来を決める大きな要因となるので、つまずいている生徒の指導は重要です。つまずいている生徒の原因は違うので、少人数指導ではなく個別指導でないとも効果は十分に期待できない。手厚い対策が必要である。
- ・全国や市の学力状況調査結果では全国水準ということだが、課題を細かく分析・整理して学力向上の取組をさらに充実させてほしい。特に、家庭学習の充実に関心をもちたい。

視点② 学校は、少人数指導等きめ細かな学習指導の工夫改善に、学校全体で取り組んでいる。

※少人数指導等

- ・本来 1 学級あたりの定数は 40 人（一部の学年は 35 人）であるが、全体をいくつかのグループに分けて、それぞれのグループに教師がつき指導する。または、1 学級に数人の教師が入り指導する。

〔小学校〕

- ・算数、外国語は特に理解できる子と理解できない子の差がつく教科で少人数指導は親にとつ

ても子どもにとっても良い取組だと思う。他の教科でも学力差が大きいと先生が認めたら、少人数指導をしていただければと思う。

- ・小学校は、基礎基本を中心に、学ぶことの楽しさを身につけると同時に、ちょっとしたつまずき等が原因で勉強への意欲や自信をなくす時期でもあると思います。少人数指導の利点を生かして、一人一人の理解度に応じたきめ細かな指導をお願いします。
- ・学校が少人数指導によってきめ細かな学習指導によって体験的に学習し、問題解決の能力向上が効果を上げているようであり、思考力・判断力・言語活動による表現力の育成に学校全体で取り組んでいただき成果を上げていただいていることをうれしく思っています。

**視点③ 学校は、読書活動の推進や児童生徒の思考力・判断力・表現力を育むため、言語活動の充実を図る取組を行なっている。**

**〔小学校〕**

- ・読めなかったり、書けなかったりすると悲しい思いをする。読めて理解できると思考し、また表現できる。今の映像での興奮に魅せられてしまうと、人間の持つ考える力は退化してしまうのではと思う。大人になったらどうなるだろうかと心配する。それまでに高校入試、大学入試、就職試験で失敗の人生になる。読書活動の推進は、小規模校ならではの学習方法があると思う。本はじめ読書教材の充実は、それこそPTA、地域が支援すべきと思う。
- ・読書活動では、教師や読書ボランティアによる読み聞かせ、巡回文庫等により身近に本がある環境から、自分で本を読むことにつながっていると実感します。また図書室には常時たくさんの本があり、新刊も入っています。図書委員会も貸し出しに協力してくれているので、もっと有効的に活用してほしいです。言語活動では、校長先生への暗唱を楽しみながらがんばっている児童や、心に響くような詩や難しい四字熟語などが廊下や階段などで掲示されていて、自然と関心が向くような環境作りの工夫が施されていると思います。
- ・読書活動の取組を通して、学校や家庭での読書の習慣化につなげていただきたいと思います。
- ・進んで本を読む子どもが多く、言語に対する感覚や感性を磨き、豊かな表現力を育むことをねらい、継続して取り組まれている詩の暗唱も一人一人の国語力を高めている。特に詩の暗唱という取組は、やればできるという自信と継続することの大切さを学ばせようとする取組でもあり、学校長が児童一人一人と接するという小規模校ならではの特徴を押さえた非常にユニークな取組と評価する。

**視点④ 学校は、体験的な学習や問題解決的な学習を重視した教育の推進に取り組んでいる。**

**〔小学校〕**

- ・子どもたちは人や自然、地域とのかかわりの体験学習を通して、新たな発見や感動、ぬくもりを経験するなど、授業では得られない教育効果があると思います。

**視点⑤ 学校は、保幼小中の校種間の滑らかな接続を図るための様々な連携を積極的に進めている。**

**〔小学校〕**

- ・子どもたちが新たな環境での学校生活に早くなじめるように、校種間の連携は大切であると思います。
- ・今年度初めて教育フォーラムが開催されましたが、地区の保幼小中の取組が良くわかって良かった。このフォーラムで、地域・家庭・学校・園のより良い連携が深まったと思います。こども園や保育園から1年生へ、6年生から中学生へスムーズに移行できるように、綿密な連携をお願いします。

## 〔中学校〕

- ・今年度より実施されている小中の合同研修会で見えてきた課題等をもとに、教師間の交流、児童生徒の交流、授業の交流など、具体的な取組が進むことを期待している。そのことが、学力向上につながるであろうし、教師の資質向上にもなるであろう。

## 4 教育的にニーズに応じた特別支援教育の推進・・・・・・・・ 評価

小学校	3.44
中学校	3.25

視点① 学校は、特別支援教育推進のため、管理職およびコーディネーターを中心に、組織的に取り組んでいる。

### ※特別支援教育

- ・LD（学習障がい）、ADHD（注意欠陥／多動性障がい）、高機能自閉症等を含めた障がいのある児童生徒の一人一人の教育的ニーズに応じた支援を校内外の関係機関、関係者のチームワークとネットワークによって実現する新しい教育
- ・LDとは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算するまたは推論する能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。
- ・ADHDは、次の3つを中心的な症状とする発達障がい
  - 不注意（物事に集中することができず、忘れ物が多い）
  - 多動性（落ち着きがなく、じっとしていることができない）
  - 衝動性（思いついた行動を唐突に行う、順番を待てない）
- ・高機能自閉症は、他人との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障がいである自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないものをいう。

### コーディネーター

- ・児童生徒への適切な支援のために、関係機関、関係者間を連絡、調整し、協同的に対応できるようにするための役割として指名されている。

## 〔小学校〕

- ・支援の必要な児童の数が多い中、先生方やサポーターの先生方が熱心に子ども達に関わっていただいていると思います。
- ・小規模な学校でありながら、発達障がいや課題を持つ子供の比率が高い中ですが、管理職をはじめ教職員が一致協力してその指導・支援に努めておられること敬意を表します。
- ・コーディネーターというのを知らなかったのですが、そういった専門的な方と学校が連携されるのはとてもよいことだと思います。

## 〔中学校〕

- ・特別支援教育においてはどこの学校においても校内研修や日々の実践においてしっかりした取組がなされてきていますが、課題を抱える子どもたち以外の周りの子どもの障がい者理解への取組が十分なされる必要があります。

視点② 学校は、生活や学習上の困難を克服するための適切な個別の教育的支援を行い、個々の能力を最大限に伸ばす指導を行っている。

## 〔小学校〕

- ・学年の下校時付き添いをしていた時、特別支援教育を受けている友だちのことを、何のこだわりなく、温かい内容の会話をしていたことを覚えている。学校の努力と、みんなと同じように勉強していることの良さと思う。しかし、親の期待が人一倍大きい。対応されている教

職員は経験や専門知識も豊かでない場合もあり、苦勞されていると思う。親の気持ちがわかるかといわれると思うが、今の学校での対応で本当に良いのだろうか。その子の持っている能力を伸ばし、将来の生活力をつけるため、障がいについての専門的知識を持つものや、能力を伸ばすため多様な指導ができるスタッフがいる学校での教育が良いのではと思うことがある。養護学校との差別化は難しいと思うが。

- ・すでに放課後補充学習を取り組んでおられますが、可能な限り学習困難の克服など個々の状況に応じた支援をお願いしたい。
- ・授業参観で現場の実態を見せてもらって、本当に辛抱強く障がいを持った子どもに強く優しく取り組んでおられる先生に感謝しています。様々な障がい症状があるとの事ですが親、関係機関、諸先生との連携のもと取り組んでいただきたい。
- ・様々な子どもさんがいらっしゃいますが、支援学級の担任の先生、サポーターの先生はもちろん、保健の先生、教頭先生、学校全ての先生が支援児さんと関わっておられると思います。個々の子どもさんの気持ちに寄り添うようにしておられると思います。

#### 〔中学校〕

- ・特別支援学級に在籍する生徒については、担任の先生はもちろん、コーディネーターによって将来を見据えた支援・指導が行われている。  
反面、課題をかかえ支援が必要でありながら、どうして良いかわからず、本人はもちろん保護者も悩んでおられるケースもある。個別の支援計画をもとに、より良い学校生活を送れるように手立てを考えてほしい。
- ・窓口となる一部教員だけの努力でなく、全教員が関わる組織作りが必要なので、定期的な研修会の実施をお願いします。特別支援教育の必要な子は学校により、時期により異なるので、スクールカウンセラーの予算配分を柔軟に対応できるようにお願いします。
- ・運動会のゲームで、特別支援の生徒を多くの生徒が一生懸命応援している姿に感動しました。
- ・近年、知的発達の遅れた子どもたちが多くなってきており、先生方も大変ですが、生徒一人一人の持つ能力や性格、親の願いを十分に頭に置かれて社会に何らかの形で貢献できるような子に育成してあげてほしいと思います。いろんな生徒と正面から向かうことにより、教育者としての実力も養成できるのだという気持ちで努力していただけるようお願いしています。
- ・学力や運動能力を獲得するためのきめ細かな指導がなされていると思います。彼らが将来自立していく力をつけるために学校という社会の中で自分を発揮できる機会を持つなどして、自分に対する自信を持てるようになってほしいと思います。

## 5 地域に根ざし地域に開かれた信頼される学校の創造・・・ 評価

小学校	3.52
中学校	3.35

視点① 学校は、地域の人材を生かした学校運営と学習活動の工夫に積極的に取り組んでいる。

#### 〔小学校〕

- ・以前、理科の授業参観の時、そのクラスの児童の祖父にあたる方が、授業内容に関して詳しく説明されたことがありました。普段の授業の中でも、ボランティアとして、地域の方の力をお借りすることがあってもいいように思います。子どもたちはとても集中して聞いていました。
- ・地域の自然、歴史、文化など、いっぱい学べると思う。どんどん取り入れて、郷土にほこりがもてる子どもを育ててほしい。先生方の変なさを思うと、申し訳ないが、もっと地域を見てほしいと思う。
- ・郷土、自然や文化等を生かした学習には、地域の人の存在が大きいと思います。学区の地域の人たちは協力的で、子どもたちにとって新鮮な先生だと感じます。

- ・教育後援会を立ち上げ、地元の方に応援していただけるよう、積極的に取り組まれています。課題も多々あるとは思いますが、引き続きご尽力いただきたいと思います。

#### 〔中学校〕

- ・学校教育には、地域も積極的に協力するべきと考える。地域で独自に行う教育的な取組を学校とも連携しながら進めたい。

**視点② 学校は、郷土の自然や文化・伝統を生かした教育活動の推進など特色ある学校づくりに取り組んでいる。**

#### 〔小学校〕

- ・子どもたちの心にふるさとを焼き付けることは、子どもたちの生き方に大きな影響を与えると思います。地域の人材や自然・文化を生かした教育活動に力を注がれていることはとても素晴らしいことだと思います。
- ・自然や文化・伝統など特色ある学校づくりに取り組んでいると思います。これまでの内容も継続・尊重しながら、視野や見聞を広げて新たな課題を検討するなど、チャレンジされてもいいと思います。
- ・地域の自然や暮らし・文化を学ぶことは、豊かな心をはぐくむと共に、郷土を愛する心を育てることにもつながり、大事な取組であると思います。
- ・郷土についての教育活動も活発な様子が伺われます。以前は家庭や地域内で当たり前のように行われ子どもたちが自然に身につけていたことが、学校での学習の中に組み入れられているという思いがしています。
- ・地域の方を講師に迎えたり、地域の文化や歴史の勉強、体験学習などを行ったりして、地域の方との交流を実施している。その中で、恒例化しつつある行事もある。今後も継続してほしい。

**視点③ 学校は、安全・安心な学校づくりに向け、職員研修の実施や家庭・地域・PTAとの連携による取組により、児童生徒の安全を確保している。**

#### 〔小学校〕

- ・安全・安心な学校づくりでは、長年に亘りスクールガードとして子どもたちに寄り添い、見守ってくださる方々に心より感謝しています。私の字の子ども会では、保護者やスクールガードの方ができる範囲で朝の旗当番や下校当番など続けていますが、子どもたちの感謝の意識としては薄いように感じます。今後も、学校・家庭・地域・PTA が連携して、より安全な取組を継続していただきたいと思います。
- ・東日本大震災3.11以降、非常に関心が高まっている安全について、ケースバイケースで対応策（廊下に掲載）を教育されている様子で、非常に重要なことだと思った。
- ・最近児童が帰宅後に殺されるという痛ましい事件が続いて起きています。保護者はわが子に身を守るすべをどのように教えたらいいのか悩むところだと思います。そのための研修会を地域ぐるみでの開催を検討してください。

#### 〔中学校〕

- ・児童生徒が学校や地域で安全・安心な生活が送れるよう青少年育成会を中心に地域区民、スクールガード等に積極的に働きかけをお願いし、徹底した見守りができないものか。
- ・中学生が凶悪な事件に巻き込まれることをよく耳にします。もっと、地域の人々が中学校に携わり生徒たちを見守る機会が増えることを望みます。

**視点④ 学校の諸活動を応援する組織（応援団）づくりに向けて、地域に積極的に働きかけている。**

## 〔中学校〕

- P T Aだけでなく、いろいろな団体等に協力を求めるなど、積極的に取り組まれている。すでにやられていると思うが、地域にはいろいろな人材がおられるので、データベースを作りうまく利用できるといい。
- 学力補充等に地域の人たちに参加・協力していただける取り組みはすばらしい。まだまだたくさんの人材があるかと思うので、さらに地域に向けて発信してほしい。
- 小学校に比べ、中学校では保護者は学校任せ的になりやすい。難しいでしょうが、連携を模索してほしい。
- 教育は学校・地域・家庭の三位一体です。親も、教育は学校任せではなく、親も教育者でなければならないと思います。家庭での「躰」教育も重要です。我々も、地域において「駄目なものは駄目」と言える人物となり、人生の先輩として、地域教育に努力したいと思います。

## 米原市教育振興基本計画（目標指標）

### 基本目標 1 子どもの健やかな成長を支える教育を進める

施策	指標名	現状値 (平成25年度)	現状値 (平成26年度)	数値目標 (平成28年度)
1 就学前の保育・教育の充実	保育所待機児童数	0人	0人	0人
2 子どもの確かな学力の向上	研究推進指定校数	4校	4校	3校
	学力状況調査における小学生の「読む能力」の正答率 ※H25から委託業者、調査内容を変更したため数値が大幅に変化したもの	45.8%	47.6%	(73.80%) 毎年の目標値超 H25 43.8%
	学力状況調査における中学生の「読む能力」の正答率 ※H25から委託業者、調査内容を変更したため数値が大幅に変化したもの	45.5%	63.4%	(73.00%) 毎年の目標値超 H25 47.5%
	図書巡回文庫事業対象学年数	6学年	6学年	5学年
3 豊かな心と体を育む教育の推進	児童の長期（年間30日以上）欠席率（小学校）	0.55%	0.46%	0.50%
	生徒の長期（年間30日以上）欠席率（中学校）	2.00%	2.16%	2.00%
	キャリア教育実践事業協力事業所数	140社	149社	170社
	学力状況調査における「困っている人の手助けをしている」の小学生の回答率 ※H25から調査項目を次に変更 「上下関係なく誰とでも平等に接している」の小学生の回答率	68.8%	72.0%	70.0%
	人権教育リーダー養成講座受講者数	238人	227人	250人
4 食育や環境教育など特色ある教育の推進	学校給食に地場産物を使用する割合（食材数ベース）	31.9%	36.7%	25.00%
	伊吹山等登山学習実施率	81.25%	93.75%	100.00%
5 特別なニーズに対応した教育の推進	障がい児通園事業 親子通園開設回数	285回	314回	対応の充実

## 基本目標 2 家庭・地域とともに子どもたちを育む

施策	指標名	現状値 (平成 25 年度)	現状値 (平成 26 年度)	数値目標 (平成 28 年度)
1 家庭の教育力の向上	家庭児童相談対応ケース数	328 件	347 件	相談体制の強化
2 教育を支えるコミュニティづくり	まなびサポーター登録者数	133 人	133 人	150 人
	学力状況調査における「地域の行事に参加している」の小学生の回答率	75.9%	73.9%	90.00%
3 青少年の健全育成	放課後児童クラブ実施箇所数	10 か所	9 か所	10 か所
	放課後キッズ実施箇所数	4 か所	4 か所	6 か所
	少年補導委員街頭補導活動回数	905 回	1,005 回	950 回
4 地域と連携した人材の育成	まなびサポーター登録者数（再掲）	133 人	133 人	150 人

## 基本目標 3 安全・安心で質の高い教育が受けられる環境をつくる

施策	指標名	現状値 (平成 25 年度)	現状値 (平成 26 年度)	数値目標 (平成 28 年度)
1 教職員の資質や指導力の向上	教育課程の工夫を目指した研究推進校・園の校・園数	16 校・園	16 校・園	12 校・園
	教職員研修の実施回数	25 回	24 回	23 回
2 地域に開かれた学校づくり	あいさつ運動実施率	100.00%	100.00%	100.00%
3 安全・安心な学校施設の整備	小学校・中学校施設の耐震化率	100.00%	100.00%	100.00%
4 適切な教育環境の整備	「米原市保幼小中学校統合整備計画」の推進	統合 2 校 (山東小、河南小)	統合 2 校・1 園 (山東小、河南小、 かなん認定こども園)	計画の推進

#### 基本目標 4 市民が学び、活動する意欲を高める

施策	指標名	現状値 (平成25年度)	現状値 (平成26年度)	数値目標 (平成28年度)
1 生きがいづくりを支援する生涯学習の推進	文化芸術振興自主事業回数	19回	24回	13回
2 学習を地域に広げる人材づくり	生涯学習まちづくり出前講座年間実施回数	172回	246回	170回
	ハートフルフォーラム(地域学習会)参加者数	1,565人	1,483人	3,000人
3 図書館を活用した読書活動の推進	市民一人当たりの図書館貸出冊数	11.83冊	11.89冊	14.44冊
4 生涯スポーツの振興	地域スポーツクラブ会員数	1,058人	1,080人	1,800人
	スポーツ少年団団員数	528人	513人	750人
5 生涯学習環境やスポーツ環境の整備	新グラウンド整備事業完成年度	平成23年度	平成23年度	平成23年度

#### 基本目標 5 米原の自然、歴史・文化に対する意識を高め、地域文化を育む

施策	指標名	現状値 (平成25年度)	現状値 (平成26年度)	数値目標 (平成28年度)
1 自然環境保全の意識向上	夢高原かっつび伊吹の参加者数	1,313人 (中止)	1,193人	1,000人
	いきいき健康ウォークの参加者数	187人	290人	500人
2 市民の文化・芸術活動の促進	特色あるまいばらの芸術展覧会 米原市民出品数	170点	180人	200点
	特色あるまいばらの芸術展覧会 市外出品数	161点	166点	150点
	文化協会会員数	1,437人	1,405人	2,200人
3 歴史・文化の保存と継承	文化財補助事業申請件数	24件	23件	23件
4 歴史・文化に親しむ機会の充実	歴史講座受講者数	57人	55人	100人
	歴史イベント開催回数	4回	8回	2回